

取扱説明書

Proline t-mass I 500

熱式質量流量計
Modbus RS485



- 本書は、本機器で作業する場合にいつでもすぐに手に取れる安全な場所に保管してください。
- 要員やプラントが危険にさらされないよう、「基本安全注意事項」セクション、ならびに作業手順に関して本書に規定されている、その他の安全注意事項をすべて熟読してください。
- 弊社は、事前の予告なしに技術仕様を変更する権利を有するものとします。本書に関する最新情報および更新内容については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

目次

1	本説明書について	6		
1.1	本文の目的	6		
1.2	シンボル	6		
1.2.1	安全シンボル	6		
1.2.2	電気シンボル	6		
1.2.3	通信関連のシンボル	6		
1.2.4	工具シンボル	7		
1.2.5	特定情報に関するシンボル	7		
1.2.6	図中のシンボル	7		
1.3	関連資料	8		
1.3.1	資料の機能	8		
1.4	登録商標	8		
2	安全上の注意事項	9		
2.1	要員の要件	9		
2.2	指定用途	9		
2.3	労働安全	10		
2.4	操作上の安全性	10		
2.5	製品の安全性	10		
2.6	IT セキュリティ	10		
2.7	機器固有の IT セキュリティ	11		
2.7.1	ハードウェア書き込み保護による アクセス保護	11		
2.7.2	パスワードによるアクセス保護	11		
2.7.3	Web サーバー経由のアクセス	12		
2.7.4	サービスインタフェース (CDI- RJ45) 経由のアクセス	12		
3	製品説明	13		
3.1	製品構成	13		
3.1.1	Proline 500 – デジタル	13		
3.1.2	Proline 500	13		
4	受入検査および製品識別表示	14		
4.1	受入検査	14		
4.2	製品識別表示	14		
4.2.1	変換器銘板	15		
4.2.2	センサの銘板	16		
4.2.3	機器のシンボル	16		
4.3	保管および輸送	16		
4.3.1	保管条件	16		
4.3.2	製品の運搬	17		
4.3.3	梱包材の廃棄	17		
5	取付け	18		
5.1	取付要件	18		
5.1.1	取付位置	18		
5.1.2	環境およびプロセスの要件	24		
5.1.3	特別な取付方法	26		
5.2	機器の取付け	26		
5.2.1	必要な工具	26		
5.2.2	機器の準備	26		
5.2.3	機器の取付け	27		
5.2.4	変換器ハウジングの取付け : Proline 500 – デジタル	29		
5.3	設置状況の確認	30		
6	電気接続	32		
6.1	電気の安全性	32		
6.2	接続要件	32		
6.2.1	必要な工具	32		
6.2.2	接続ケーブルの要件	32		
6.2.3	端子の割当て	36		
6.2.4	シールドおよび接地	37		
6.2.5	機器の準備	37		
6.3	機器の接続 : Proline 500 – デジタル	38		
6.3.1	接続ケーブルの接続	38		
6.3.2	信号ケーブルと電源ケーブルの 接続	41		
6.4	電位平衡	42		
6.4.1	要件	42		
6.5	特別な接続方法	43		
6.5.1	接続例	43		
6.6	ハードウェアの設定	45		
6.6.1	機器アドレスの設定	45		
6.6.2	終端抵抗の有効化	46		
6.7	保護等級の保証	47		
6.7.1	保護等級 IP68、Type 6P エンクロー ジャ、「お客様による充填」 オプシ ョン付き	48		
6.8	配線状況の確認	48		
7	操作オプション	49		
7.1	操作オプションの概要	49		
7.2	操作メニューの構成と機能	50		
7.2.1	操作メニューの構成	50		
7.2.2	操作指針	51		
7.3	現場表示器を使用した操作メニューへのア クセス	52		
7.3.1	操作画面表示	52		
7.3.2	ナビゲーション画面	54		
7.3.3	編集画面	56		
7.3.4	操作部	58		
7.3.5	コンテキストメニューを開く	58		
7.3.6	ナビゲーションおよびリストから 選択	60		
7.3.7	パラメータの直接呼び出し	60		
7.3.8	ヘルプテキストの呼び出し	61		
7.3.9	パラメータの変更	61		
7.3.10	ユーザーの役割と関連するアクセ ス権	62		
7.3.11	アクセスコードによる書き込み保 護の無効化	62		
7.3.12	キーパッドロックの有効化/無効化	63		
7.4	ウェブブラウザを使用した操作メニューへ のアクセス	63		
7.4.1	機能範囲	63		

7.4.2	必須条件	64	9.8	不正アクセスからの設定の保護	126
7.4.3	接続の確立	65	9.8.1	アクセスコードによる書き込み 保護	127
7.4.4	ログイン	67	9.8.2	書き込み保護スイッチによる書き 込み保護	128
7.4.5	ユーザーインターフェース	68	10	操作	130
7.4.6	Web サーバーの無効化	69	10.1	機器ロック状態の読取り	130
7.4.7	ログアウト	69	10.2	操作言語の設定	130
7.5	操作ツールによる操作メニューへのアク セス	70	10.3	表示部の設定	130
7.5.1	操作ツールの接続	70	10.4	測定値の読取り	130
7.5.2	FieldCare	72	10.4.1	プロセス変数	131
7.5.3	DeviceCare	73	10.4.2	システムの値	132
8	システム統合	74	10.4.3	「積算計」 サブメニュー	132
8.1	DD ファイルの概要	74	10.4.4	「入力値」 サブメニュー	133
8.1.1	現在の機器バージョンデータ	74	10.4.5	出力値	134
8.1.2	操作ツール	74	10.5	プロセス条件への機器の適合	136
8.2	旧型モデルとの互換性	74	10.6	積算計リセットの実行	136
8.3	Modbus RS485 情報	75	10.6.1	「積算計 のコントロール」 パラメー タの機能範囲	137
8.3.1	機能コード	75	10.6.2	「すべての積算計をリセット」 パラ メータの機能範囲	137
8.3.2	レジスタ情報	76	10.7	データロギングの表示	137
8.3.3	応答時間	76	11	診断およびトラブルシューティン グ	141
8.3.4	データ型	76	11.1	一般トラブルシューティング	141
8.3.5	バイト伝送順序	76	11.2	発光ダイオードによる診断情報	143
8.3.6	Modbus データマップ	77	11.2.1	変換器	143
9	設定	80	11.2.2	センサ接続ハウジング	144
9.1	設置状況および配線状況の確認	80	11.3	現場表示器の診断情報	145
9.2	機器の電源投入	80	11.3.1	診断メッセージ	145
9.3	操作言語の設定	80	11.3.2	対処法の呼び出し	147
9.4	機器の設定	81	11.4	ウェブブラウザの診断情報	147
9.4.1	タグ番号の設定	82	11.4.1	診断オプション	147
9.4.2	測定モードの設定	82	11.4.2	対策情報の呼び出し	148
9.4.3	基準条件の設定	86	11.5	FieldCare または DeviceCare の診断情報	148
9.4.4	センサの調整	87	11.5.1	診断オプション	148
9.4.5	システムの単位の設定	88	11.5.2	対策情報の呼び出し	149
9.4.6	通信インターフェイスの設定	90	11.6	通信インターフェイスを介した診断情報	150
9.4.7	I/O 設定の表示	91	11.6.1	診断情報の読み出し	150
9.4.8	電流入力の設定	92	11.6.2	エラー応答モードの設定	150
9.4.9	ステータス入力の設定	93	11.7	診断情報の適合	150
9.4.10	電流出力の設定	94	11.7.1	診断時の動作の適応	150
9.4.11	パルス/周波数/スイッチ出力の 設定	97	11.8	診断情報の概要	151
9.4.12	リレー出力の設定	103	11.9	未処理の診断イベント	154
9.4.13	現場表示器の設定	104	11.10	診断リスト	155
9.4.14	ローフローカットオフの設定	107	11.11	イベントログブック	155
9.5	高度な設定	108	11.11.1	イベントログの読み出し	155
9.5.1	アクセスコードの入力のためのパ ラメータを使用	108	11.11.2	イベントログブックのフィルタリ ング	156
9.5.2	積算計の設定	108	11.11.3	情報イベントの概要	156
9.5.3	表示の追加設定	110	11.12	機器のリセット	157
9.5.4	WLAN 設定	112	11.12.1	「機器リセット」 パラメータの機能 範囲	158
9.5.5	設定管理	114	11.13	機器情報	158
9.5.6	機器管理のためのパラメータを 使用	116	11.14	ファームウェアの履歴	159
9.5.7	現場調整	117			
9.6	設定管理	123			
9.6.1	「設定管理」 パラメータの機能範囲	124			
9.7	シミュレーション	124			

12	メンテナンス	160
12.1	メンテナンス作業	160
12.1.1	外部洗浄	160
12.1.2	センサ素子の洗浄	160
12.1.3	再校正	161
12.2	測定機器およびテスト機器	161
12.3	エンドレスハウザー社サービス	161
13	修理	162
13.1	一般情報	162
13.1.1	修理および変更コンセプト	162
13.1.2	修理および変更に関する注意事項	162
13.2	スペアパーツ	162
13.3	Endress+Hauser サービス	162
13.4	返却	162
13.5	廃棄	163
13.5.1	機器の取外し	163
13.5.2	機器の廃棄	163
14	アクセサリ	164
14.1	機器固有のアクセサリ	164
14.1.1	変換器用	164
14.1.2	センサ用	165
14.2	通信関連のアクセサリ	166
14.3	サービス関連のアクセサリ	167
14.4	システムコンポーネント	168
15	技術データ	169
15.1	アプリケーション	169
15.2	機能とシステム構成	169
15.3	入力	170
15.4	出力	174
15.5	電源	179
15.6	性能特性	181
15.7	取付け	182
15.8	環境	182
15.9	プロセス	185
15.10	構造	186
15.11	表示およびユーザーインターフェース	190
15.12	合格証と認証	194
15.13	アプリケーションパッケージ	197
15.14	アクセサリ	198
15.15	関連資料	198
	索引	200

1 本説明書について

1.1 本文の目的

本取扱説明書には、機器のライフサイクルの各段階（製品識別表示、納品内容確認、保管、設置、接続、操作、設定からトラブルシューティング、メンテナンス、廃棄まで）において必要とされるあらゆる情報が記載されています。

1.2 シンボル

1.2.1 安全シンボル

 **危険**

このシンボルは危険な状況に対する警告を表します。この表示を無視して適切な対処を怠った場合、死亡、重傷、爆発などの重大事故が発生する可能性があります。

 **警告**

このシンボルは危険な状況に対する警告を表します。この表示を無視して適切な対処を怠った場合、死亡、重傷、爆発などの重大事故が発生する可能性があります。

 **注意**

このシンボルは危険な状況に対する警告を表します。この表示を無視して適切な対処を怠った場合、軽傷または中程度の傷害事故が発生する可能性があります。

 **注記**

人身傷害につながらない、手順やその他の事象に関する情報を示すシンボルです。

1.2.2 電気シンボル

シンボル	意味
	直流
	交流
	直流および交流
	接地接続 オペレータを保護するために、接地システムを使用して接地された接地端子
	電位平衡接続（PE：保護接地） その他の接続を行う前に接地端子の接地接続が必要です。 接地端子は機器の内側と外側にあります。 ■ 内側の接地端子：電位平衡を電源ネットワークに接続します。 ■ 外側の接地端子：機器とプラントの接地システムを接続します。

1.2.3 通信関連のシンボル

シンボル	意味
	ワイヤレス ローカル エリア ネットワーク（WLAN） ローカルネットワークを介した無線通信
	LED 発光ダイオードがオフ
	LED 発光ダイオードがオン
	LED 発光ダイオードが点滅

1.2.4 工具シンボル

シンボル	意味
	Torx ドライバ
	プラスドライバ
	スパナ

1.2.5 特定情報に関するシンボル

シンボル	意味
	許可 許可された手順、プロセス、動作
	推奨 推奨の手順、プロセス、動作
	禁止 禁止された手順、プロセス、動作
	ヒント 追加情報を示します。
	資料参照
	ページ参照
	図参照
	注意すべき注記または個々のステップ
1, 2, 3...	一連のステップ
	操作・設定の結果
	問題が発生した場合のヘルプ
	目視確認

1.2.6 図中のシンボル

シンボル	意味
1, 2, 3, ...	項目番号
1, 2, 3, ...	一連のステップ
A, B, C, ...	図
A-A, B-B, C-C, ...	断面図
	危険場所
	安全場所（非危険場所）
	流れ方向

1.3 関連資料

-  関連する技術資料の概要については、以下を参照してください。
- デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) : 銘板のシリアル番号を入力します。
 - Endress+Hauser Operations アプリ : 銘板のシリアル番号を入力するか、銘板のマトリクスコードをスキャンしてください。

1.3.1 資料の機能

ご注文のバージョンに応じて、以下の資料が提供されます。

資料の種類	資料の目的および内容
技術仕様書 (TI)	機器の計画支援 本資料には、機器に関するすべての技術データが記載されており、本機器用に注文可能なアクセサリやその他の製品の概要が示されています。
簡易取扱説明書 (KA)	初回の測定を迅速に開始するための手引き 簡易取扱説明書には、納品内容確認から初回の設定までに必要なすべての情報が記載されています。
取扱説明書 (BA)	参考資料 取扱説明書には、機器ライフサイクルの各種段階（製品の識別、納品内容確認、保管、取付け、接続、操作、設定からトラブルシューティング、メンテナンス、廃棄まで）において必要とされるあらゆる情報が記載されています。
機能説明書 (GP)	使用するパラメータの参考資料 本資料には、個々のパラメータの詳しい説明が記載されています。本説明書は、全ライフサイクルにわたって本機器を使用し、特定の設定を行う人のために用意されたものです。
安全上の注意事項 (XA)	各種認定に応じて、危険場所での電気機器の安全上の注意事項も機器に付属します。安全上の注意事項は取扱説明書の付随資料です。  機器に関する安全上の注意事項 (XA) の情報が銘板に明記されています。
機器固有の補足資料 (SD/FY)	関連する補足資料に記載される指示を常に厳守してください。補足資料は、機器資料に付随するものです。

1.4 登録商標

Modbus®
SCHNEIDER AUTOMATION, INC の登録商標です。

2 安全上の注意事項

2.1 要員の要件

設置、設定、診断、およびメンテナンスを実施する要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 訓練を受けて、当該任務および作業に関する資格を取得した専門作業員であること。
- ▶ 施設責任者の許可を得ていること。
- ▶ 各地域/各国の法規を熟知していること。
- ▶ 作業を開始する前に、取扱説明書、補足資料、ならびに証明書（用途に応じて異なります）の説明を読み、内容を理解しておくこと。
- ▶ 指示に従い、基本条件を遵守すること。

オペレータ要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 施設責任者からその作業に必要な訓練および許可を得ていること。
- ▶ 本資料の説明に従うこと。

2.2 指定用途

アプリケーションおよび測定物

本書で説明する機器は、気体の流量測定にのみ使用することを目的としたものです。

注文したバージョンに応じて、本機器は爆発性、可燃性、毒性、酸化性の測定物も測定できます。

危険場所、またはプロセス圧力によりリスクが増大する場所で使用する機器は、銘板に特別な明記があります。

稼働時間中、機器が適切な条件下にあるよう、次の点に注意してください。

- ▶ 本機器は、接液部材質の耐食性を十分に確保できる測定物の測定にのみ使用してください。
- ▶ 規定された圧力および温度の範囲内に保ってください。
- ▶ 本機器を使用する場合は必ず、銘板に明記されたデータ、ならびに取扱説明書や補足資料に記載された一般条件に従ってください。
- ▶ 注文した機器が危険場所の仕様（例：防爆、圧力機器安全）になっていることを銘板で確認してください。
- ▶ 本機器の周囲温度が大気範囲外になる場合は、関連する機器資料に記載されている基本条件を遵守することが重要です→ 8。
- ▶ 環境の影響により生じる腐食から機器を恒久的に保護してください。

不適切な用途

指定用途以外での使用は、安全性を危うくする可能性があります。不適切な使用や指定用途以外での使用に起因する損傷について、製造者は責任を負いません。

警告

腐食性または研磨性のある流体、あるいは周囲条件による破損の危険

- ▶ プロセス流体とセンサ材質の適合性を確認してください。
- ▶ プロセス内のすべての接液部材質の耐食性を確認してください。
- ▶ 規定された圧力および温度の範囲内に保ってください。

注記

不明な場合の確認：

- ▶ 特殊な流体および洗浄液に関して、Endress+Hauser では接液部材質の耐食性確認をサポートしますが、プロセスの温度、濃度、または汚染レベルのわずかな変化によって耐食性が変わる可能性があるため、保証や責任は負いかねます。

警告

取り出されたセンサにより負傷する恐れがあります。

- ▶ センサグランドは加圧されていない状態でのみ開けてください。

注記

変換器ハウジングを開けると粉塵や湿気が侵入します。

- ▶ 変換器ハウジングは短時間だけ開けるようにして、ハウジング内に粉塵や湿気が侵入しないように注意してください。

残存リスク**⚠ 注意**

測定物または電子モジュールユニットの温度が高いまたは低い場合、機器の表面が高温または低温になる可能性があります。火傷または凍傷の危険があります。

- ▶ 適切な接触保護具を取り付けてください。

2.3 労働安全

機器で作業する場合：

- ▶ 各国の規制に従って、必要な個人用保護具を着用してください。

2.4 操作上の安全性

機器が損傷する可能性があります。

- ▶ 本機器は、適切な技術条件およびフェールセーフ条件下でのみ操作してください。
- ▶ 施設作業するには、機器を支障なく操作できるようにする責任があります。

機器の改造

機器を無断で改造することは、予測不可能な危険を引き起こす可能性があるため、禁止されています。

- ▶ 変更が必要な場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

修理

操作上の安全性と信頼性を保証するために、以下の点にご注意ください。

- ▶ 機器の修理は、明確に許可された場合にのみ実施してください。
- ▶ 電気機器の修理に関する各地域/各国の規定を遵守してください。
- ▶ 純正のスペアパーツおよびアクセサリのみを使用してください。

2.5 製品の安全性

本機器は、最新の安全要件に適合するように GEP (Good Engineering Practice) に従って設計され、テストされて安全に操作できる状態で工場から出荷されます。

本機器は一般的な安全基準および法的要件を満たします。また、機器固有の EU 適合宣言に明記された EU 指令にも準拠します。Endress+Hauser は機器に CE マークを添付することにより、機器の適合性を保証します。

2.6 IT セキュリティ

取扱説明書の指示に従って製品を設置および使用した場合にのみ、当社の保証は有効です。本製品には、設定が不注意で変更されないよう、保護するためのセキュリティ機構が備えられています。

製品および関連するデータ伝送の追加的な保護を提供する IT セキュリティ対策を、事業者自身が自社の安全基準に従って講じる必要があります。

2.7 機器固有の IT セキュリティ

ユーザー側の保護対策をサポートするため、本機器はさまざまな特定機能を提供します。この機能はユーザー設定が可能であり、適切に使用すると操作の安全性向上が保証されます。最も重要な機能の概要が以下のリストに示されています。

機能/インタフェース	工場設定	推奨
ハードウェア書き込み保護スイッチによる書き込み保護 → 図 11	無効	リスク評価に従って個別に設定する
アクセスコード (Web サーバーのログインや FieldCare の接続にも適用) → 図 11	無効 (0000)	カスタマイズされたアクセスコードを設定中に割り当てる
WLAN (表示モジュールの注文オプション)	有効	リスク評価に従って個別に設定する
WLAN セキュリティモード	有効 (WPA2-PSK)	変更しないでください
WLAN パスフレーズ (パスワード) → 図 12	シリアル番号	設定時に個別の WLAN パスフレーズを割り当てる
WLAN モード	アクセスポイント	リスク評価に従って個別に設定する
Web サーバー → 図 12	有効	リスク評価に従って個別に設定する
CDI-RJ45 サービスインタフェース → 図 12	–	リスク評価に従って個別に設定する

2.7.1 ハードウェア書き込み保護によるアクセス保護

書き込み保護スイッチ（メイン電子モジュール上の DIP スwitch）により、現場表示器、ウェブブラウザ、または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を介した機器パラメータへの書き込みアクセスを無効にすることができます。ハードウェア書き込み保護が有効になっている場合は、パラメータの読み取りアクセスのみ可能です。

機器の納入時には、ハードウェア書き込み保護が無効になっています。→ 図 128

2.7.2 パスワードによるアクセス保護

機器パラメータへの書き込みアクセス、または WLAN インターフェイスを介した機器へのアクセスを防ぐため、各種のパスワードを使用できます。

- ユーザー固有のアクセスコード
現場表示器、ウェブブラウザ、または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を介した機器パラメータへの書き込みアクセスを防止します。アクセス権は、ユーザー固有のアクセスコードを使用して明確に管理されます。
- WLAN のパスワード
ネットワークキーにより、オプションとして注文可能な WLAN インタフェースを介した操作ユニット（例：ノートパソコンまたはタブレット端末）と機器の接続が保護されます。
- インフラモード
機器がインフラモードで動作する場合、WLAN パスフレーズは事業者側で設定した WLAN パスフレーズと一致します。

ユーザー固有のアクセスコード

変更可能なユーザー固有のアクセスコードを使用して、現場表示器、ウェブブラウザ、または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を介した機器パラメータへの書き込みアクセスを防止できます。（→ 図 127）。

機器の納入時には、機器のアクセスコードは未設定で 0000（オープン）となっています。

WLAN のパスワード : WLAN アクセスポイントとして動作

オプションとして注文可能な WLAN インターフェイスを介した操作部（例：ノートパソコンまたはタブレット端末）と機器の接続（→ 図 71）は、ネットワークキーにより保護されます。ネットワークキーの WLAN 認証は IEEE 802.11 規格に適合します。

機器の納入時には、ネットワークキーは機器に応じて事前設定されています。これは、**WLAN のパスワード** パラメータ（→ 図 114）の **WLAN 設定** サブメニュー で変更することが可能です。

インフラモード

機器と WLAN アクセスポイントの接続は、システム側の SSID とパスフレーズによって保護されています。アクセスするには、システム管理者にお問い合わせください。

パスワードの使用に関する一般的注意事項

- 機器とともに支給されたアクセスコードとネットワークキーは、安全上の理由から設定中に変更する必要があります。
- アクセスコードとネットワークキーの決定および管理を行う場合は、安全なパスワードを生成するための一般規則に従ってください。
- ユーザーにはアクセスコードとネットワークキーを管理して慎重に取り扱う責任があります。
- アクセスコードの設定やパスワード紛失時の対処法などの詳細については、「アクセスコードを介した書き込み保護」セクションを参照してください。→ 図 127

2.7.3 Web サーバー経由のアクセス

内蔵された Web サーバーを使用して、ウェブブラウザ経由で機器の操作および設定を行うことが可能です。→ 図 63 サービスインタフェース（CDI-RJ45）または WLAN インタフェースを介して接続が確立されます。

機器の納入時には、Web サーバーが使用可能な状態になっています。必要に応じて（例：設定完了後）、**Web サーバ 機能** パラメータを使用して Web サーバーを無効にすることができます。

機器およびステータス情報は、ログインページで非表示にできます。これにより、情報への不正アクセスを防ぐことができます。



機器パラメータの詳細については、次を参照してください。

資料「機能説明書」(Verweisziel existiert nicht, aber @y.link.required='true').

2.7.4 サービスインタフェース（CDI-RJ45）経由のアクセス

機器はサービスインタフェース（CDI-RJ45）を介してネットワークに接続できます。機器固有の機能により、ネットワーク内での機器の操作の安全性が保証されます。

IEC/ISA62443 または IEEE など、国内および国際的な安全委員会によって規定された関連する工業規格やガイドラインの使用を推奨します。これには、アクセス承認の割り当てといった組織的なセキュリティ方法や、ネットワークセグメンテーションなどの技術的手段が含まれます。

3 製品説明

計測システムは、変換器とセンサから構成されています。変換器とセンサは物理的に離れた場所に設置されます。これらは接続ケーブルを使用して相互に接続されます。

3.1 製品構成

3.1.1 Proline 500 – デジタル

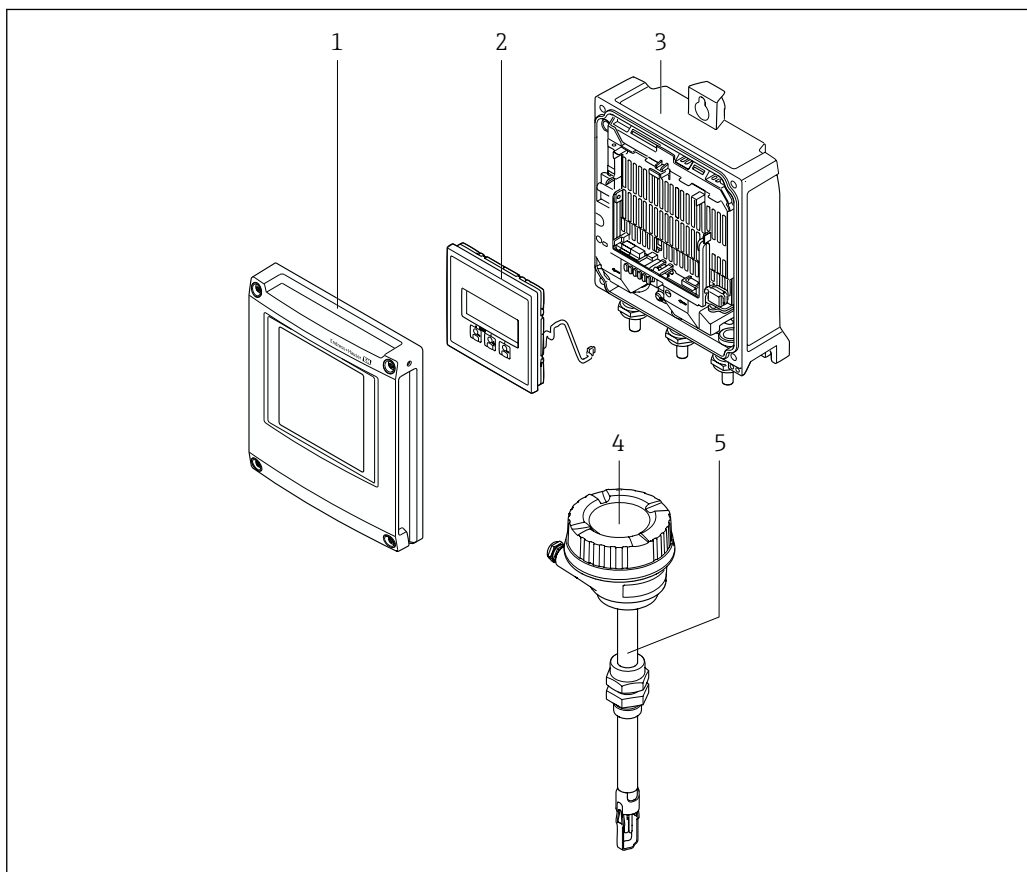
信号伝送：デジタル

「内蔵の ISEM 電子モジュール」のオーダーコード、オプション **A** 「センサ」

環境条件または動作条件に起因する特別な要件を満たす必要のないアプリケーションで使用

電子モジュールがセンサ内にあるため、本機器は次の場合に最適：
変換器の容易な交換

- 標準ケーブルを接続ケーブルとして使用可能
- 外部の EMC 干渉の影響を受けない



A0042018

- 1 表示部のカバー
- 2 表示モジュール
- 3 変換器ハウジング
- 4 ISEM 電子モジュール内蔵のセンサ接続ハウジング：接続ケーブル接続
- 5 センサ

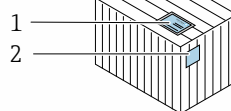
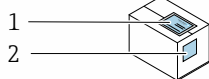
3.1.2 Proline 500

信号伝送：アナログ

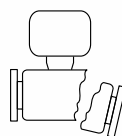
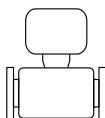
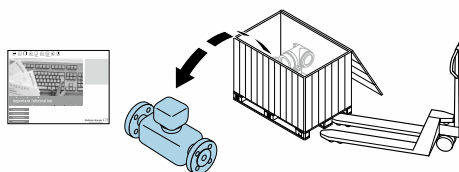
「内蔵の ISEM 電子モジュール」のオーダーコード、オプション **B** 「変換器」

4 受入検査および製品識別表示

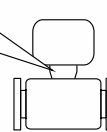
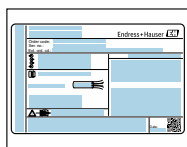
4.1 受入検査



納品書 (1) と製品ラベル (2) に記載されたオーダーコードが一致するか？



納入品に損傷がないか？



銘板のデータと納品書に記載された注文仕様が一致しているか？



付随する関連資料が同梱されているか？



- 1 つでも条件が満たされていない場合は、当社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。
- 技術資料はインターネットまたは Endress+Hauser Operations アプリ：製品識別表示 → 15 から入手可能です。

4.2 製品識別表示

本機器を識別するには、以下の方法があります。

- 銘板
- 納品書に記載されたオーダーコード（機器仕様コードの明細付き）
- 銘板に記載されているシリアル番号をデバイスビューワ（www.endress.com/deviceviewer）に入力します。機器に関するすべての情報が表示されます。
- 銘板のシリアル番号を Endress+Hauser Operations アプリに入力するか、Endress+Hauser Operations アプリで銘板のデータマトリクスコードをスキャンすると、機器に関するすべての情報が表示されます。

関連技術資料の範囲の概要に関しては、以下を参照ください。

- 「その他の機器標準資料」および「機器固有の補足資料」セクション
- デバイスビューワ：銘板のシリアル番号を入力してください
(www.endress.com/deviceviewer)。
- Endress+Hauser Operations アプリ：銘板のシリアル番号を入力するか、銘板のデータマトリクスコードをスキャンしてください。

4.2.1 変換器銘板

Proline 500 – デジタル

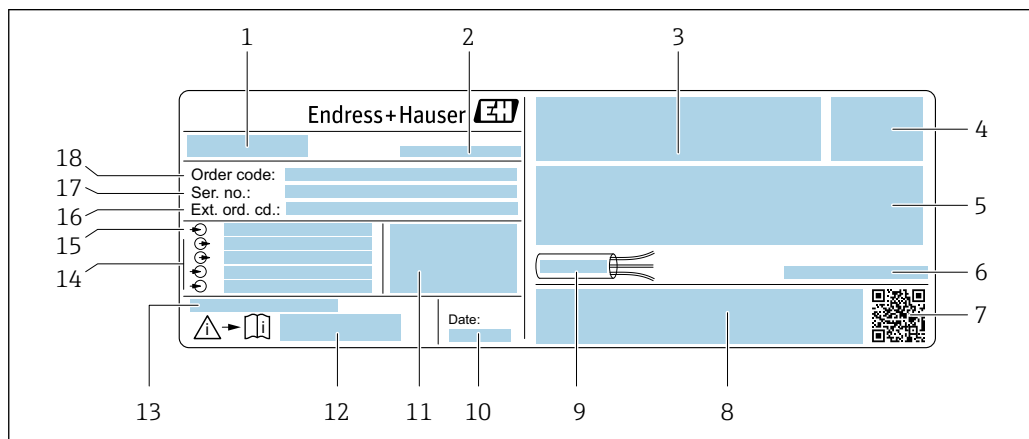


図 1 変換器銘板の例

- 1 変換器名
- 2 製造者所在地/認証保有者
- 3 認定用スペース：危険場所用
- 4 保護等級
- 5 電気接続データ：使用可能な入力/出力
- 6 許容周囲温度 (T_a)
- 7 2-D マトリクスコード
- 8 認定および認証用スペース（例：CE マーク、RCM tick）
- 9 ケーブルの許容温度範囲
- 10 製造日：年、月
- 11 工場出荷時のファームウェアのバージョン（FW）および機器リビジョン（Dev.Rev.）
- 12 安全関連の補足資料の資料番号
- 13 特殊仕様品の追加情報用スペース
- 14 使用可能な入力/出力、電源電圧
- 15 電気接続データ：電源電圧
- 16 拡張オーダーコード
- 17 シリアル番号
- 18 オーダーコード

4.2.2 センサの銘板

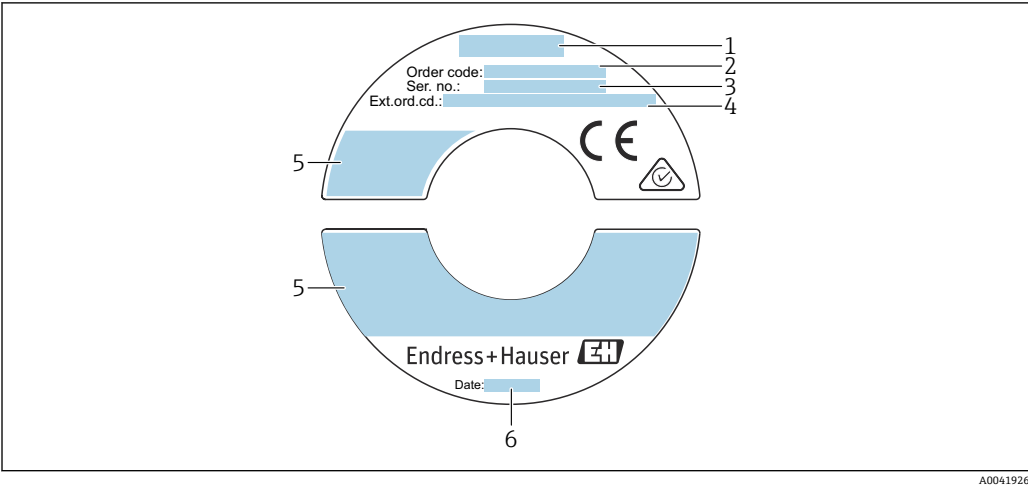


図 2 センサ銘板の例

- 1 センサ名
- 2 オーダーコード
- 3 シリアル番号
- 4 拡張オーダーコード
- 5 流量；センサ長；圧力定格；定格圧力；使用圧力；流体温度範囲；許容周囲温度範囲 (T_a)；防爆認定情報、欧州圧力機器指令および保護等級
- 6 製造日：年、月

i **オーダーコード**
機器の追加注文の際は、オーダーコードを使用してください。

拡張オーダーコード

- 機器タイプ（製品ルートコード）と基本仕様（必須仕様コード）を必ず記入します。
- オプション仕様（オプション仕様コード）については、安全および認定に関する仕様のみを記入します（例：LA）。その他のオプション仕様も注文する場合、これは # 記号を用いて示されます（例：#LA#）。
- 注文したオプション仕様に安全および認定に関する仕様が含まれない場合は、+ 記号を用いて示されます（例：XXXXXX-ABCDE+）。

4.2.3 機器のシンボル

シンボル	意味
	警告 危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して適切な対処を怠った場合、死亡、重傷、爆発などの重大事故が発生する可能性があります。潜在的な危険のタイプを特定し、それを回避するには、機器の関連資料を参照してください。
	資料参照 対応する機器関連文書の参照指示
	保護接地端子 その他の接続を行う前に、接地接続する必要がある端子

4.3 保管および輸送

4.3.1 保管条件

保管する際は、次の点に注意してください。
▶ 衝撃を防止するため、納品に使用された梱包材を使って保管してください。

- ▶ プロセス接続部に取り付けられている保護カバーまたは保護キャップは外さないでください。これは、シール面の機械的な損傷と計測チューブ内の汚染を防止するために必要です。
- ▶ 直射日光があたらないようにしてください。許容できないほど表面温度が高くならないようにしてください。
- ▶ 機器に結露が発生する可能性のない保存場所を選定してください。カビやバクテリアによりライニングが損傷する可能性があります。
- ▶ 乾燥した、粉塵のない場所に保管してください。
- ▶ 屋外に保管しないでください。

保管温度 → ⓘ 183

4.3.2 製品の運搬

納品に使用された梱包材を使って、機器を測定現場まで運搬してください。



保護キャップを取り外さないでください。これにより、機械的損傷を防ぐことができます。

4.3.3 梱包材の廃棄

梱包材はすべて環境にやさしく、100% リサイクル可能です。

- 機器の外装
 - EU 指令 2002/95/EC (RoHS) に準拠するポリマー製ストレッチフィルム
- 梱包材
 - ISPM 15 基準に準拠して処理された木枠、IPPC ログによる確認証明付き
 - 欧州包装ガイドライン 94/62/EC に準拠する段ボール箱、リサイクル可能、RESY マークによる確認証明付き
- 輸送用資材および固定具
 - 使い捨てプラスチック製パレット
 - プラスチック製ストラップ
 - プラスチック製粘着テープ
- 充填材
 - 紙製詰め物

5 取付け

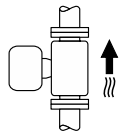
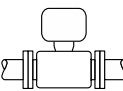
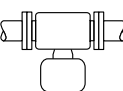
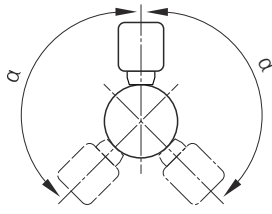
5.1 取付要件

- 推奨される入り口側と出口側の仕様を遵守する必要があります。
- 配管システムと機器は、GEP（Good Engineering Practice）に従って設置する必要があります。
- センサの正しい配置と取付方向を確認してください。
- 結露を回避または防止する対策を講じてください（例：ドレントラップ、断熱材などの取付け）。
- 最大許容周囲温度と流体温度範囲を順守してください。
- 本機器は日陰に設置するか、または日除けカバーを使用してください。
- 機械的理由および配管保護の理由から、重いセンサにはサポートの取付けを推奨します（例：ホットタプリトラクタブルホルダを使用する場合）。

5.1.1 取付位置

取付方向

流れ方向は、センサの矢印の向きと一致していなければなりません。双方向センサの場合、矢印は正の方向を示します。双方向測定を行う場合、センサ素子は 3° の精度で設置する必要があります。

取付方向		推奨
垂直方向	 A0015591	✓ ¹⁾
水平方向、 変換器上側	 A0015589	✓✓
水平方向、 変換器下側	 A0015590	✓ ²⁾
水平方向、 変換器が横向き	 A0015592	✓
斜め方向、 変換器下側	 A0015773	✓ ²⁾

- 1) 飽和ガスまたは不純ガスの場合、結露または汚染を最小限に抑えるために、垂直方向の設置が推奨されます。双方向センサの場合は、水平取付を選択します。
- 2) 非常に湿った気体や水飽和ガス（例：消化ガス、乾燥されていない圧縮空気）の場合、または付着物や結露が常に存在する場合は、斜めの取付方向（ $\alpha = \text{約 } 135^\circ$ ）を選択します。

パイプ

本機器は以下の点に注意して、適切に設置してください。

- 配管の溶接は専門作業員が実施してください。
- 適切なサイズのシールを使用してください。
- フランジとシールを正しく位置合わせしてください。
- センサ素子から保護キャップを取り外してください。
- 設置作業後、センサの破損を防止するため、配管の汚れや粒子を除去する必要があります。
- 詳細については、ISO 規格 14511 を参照してください。

センサの選択および配置

最小のセンサ長は、Endress+Hauser Applicator プログラム（バージョン 10.00 以降）または以下の計算式を使用して決定できます。

最小のセンサ長は、必要な挿入深さに応じて決定されます。計算された必要な挿入深さは、選択された挿入型の調整レンジの範囲内でなければなりません。

挿入長

挿入型の最小長は、Endress+Hauser Applicator プログラムまたは以下の計算式を使用して決定できます。計算された必要な挿入深さは、選択された挿入型の調整レンジの範囲内でなければなりません。

注記

金属製のフェルールは、最初の取付け時に塑性変形します。

その結果、最初の取付け後に挿入深さが固定され、フェルールを交換できなくなります。

- ▶ 前提条件および挿入深さの決定に関する情報に注意してください。
- ▶ フェルールを締め付ける前に、挿入深さをよく確認してください。

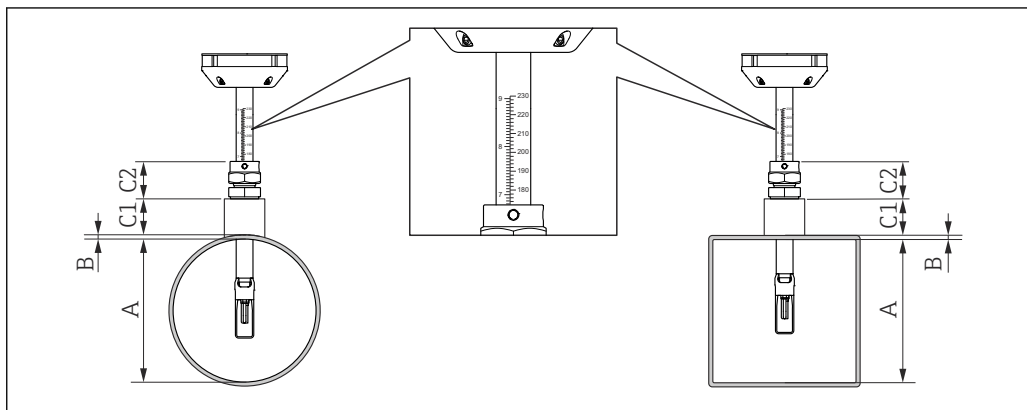


図 3 寸法 A、B、C1、C2 の決定

- A 円形配管の場合：配管内径（呼び口径）。ダクトの場合：内のり寸法
- B 管壁またはダクト壁の厚さ
- C1 取付キット
- C2 センサのコンプレッションフィッティング

挿入深さの計算

$$\text{挿入深さ} = (0.3 \cdot A) + B + (C1 + C2)$$

i 挿入深さは 100mm 以上でなければなりません。

寸法 C1 および C2 の決定

Endress+Hauser 製の取付ボスのみを使用する場合

取付ボス 1" NPT	C1 + C2 = 112 mm (4.409 in)
取付ボス G1"	C1 + C2 = 106 mm (4.173 in)
取付ボス ¾" NPT	C1 + C2 = 108 mm (4.252 in)
取付ボス G¾"	C1 + C2 = 105 mm (4.134 in)

 コールドタップ/ホットタップを使用する場合は、「C1」の代わりに寸法「L」→  186 を使います。

 他の E+H 取付キット（例：コールドタップ/ホットタップ）を使用する場合は、Applicator を使用して寸法 C1 および C2 を決定します。

Endress+Hauser 製の取付ボス以外も使用する場合

C1	使用する配管接続の長さ
C2 (コンプレッションフィッティング、1" NPT ネジ付き)	52 mm (2.047 in)
C2 (コンプレッションフィッティング、G1" ネジ付き)	46 mm (1.811 in)
C2 (コンプレッションフィッティング、¾" NPT ネジ付き)	48 mm (1.889 in)
C2 (コンプレッションフィッティング、G¾" ネジ付き)	45 mm (1.772 in)

挿入型の長さの選択

計算された挿入深さと下表を使用して、挿入型の長さを選択します。挿入深さは、挿入型の調整レンジの範囲内でなければなりません。

挿入管の長さ		調整範囲（挿入深さ）	
[mm]	[in]	[mm]	[in]
235	9	100～235	3.9～9.3
335	13	100～335	3.9～13.2
435	17	100～435	3.9～17.1
608	24	100～608	3.9～23.9

上流側/下流側直管長

十分に発達した流速分布は、最適な熱式流量測定のための必須条件となります。

可能な限り最高の測定性能を実現するには、最小でも、以下の上流側/下流側直管長としてください。

- 双方向センサの場合は、反対方向の推奨の上流側直管長にも注意してください。
- 複数の障害物が存在する場合は、整流器を使用します。
- 必要な上流側直管長を確保できない場合は、整流器を使用します。
- コントロールバルブの場合、乱れの多さはバルブのタイプと開度に依存します。コントロールバルブの推奨の上流側直管長は 50 × 呼び口径となります。
- 非常に軽い気体（ヘリウム、水素）の場合、推奨の上流側直管長を 2 倍にする必要があります。

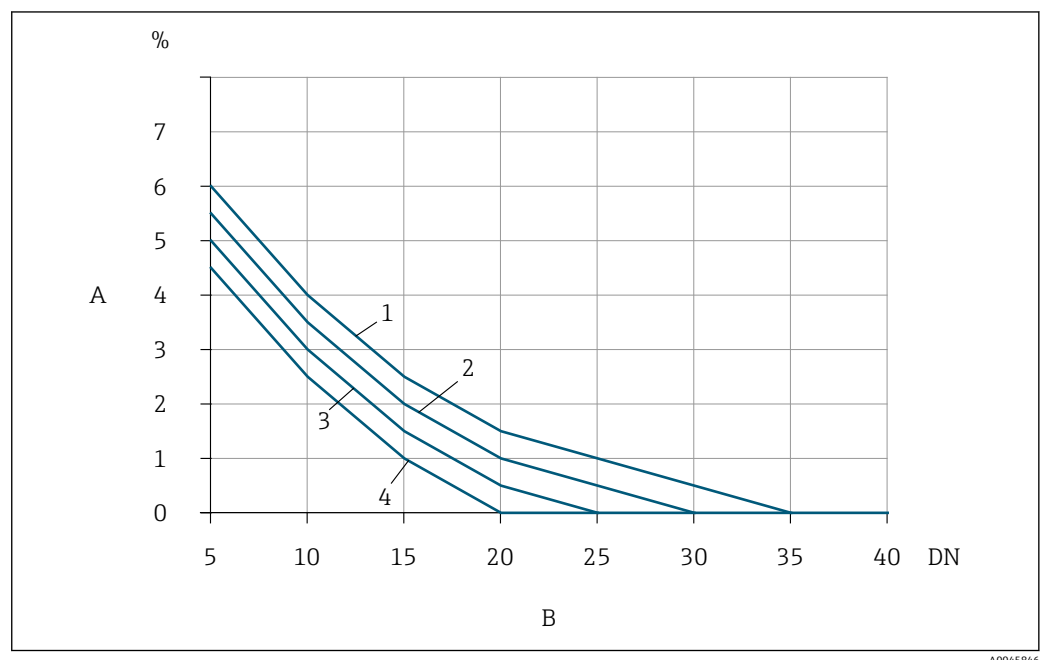
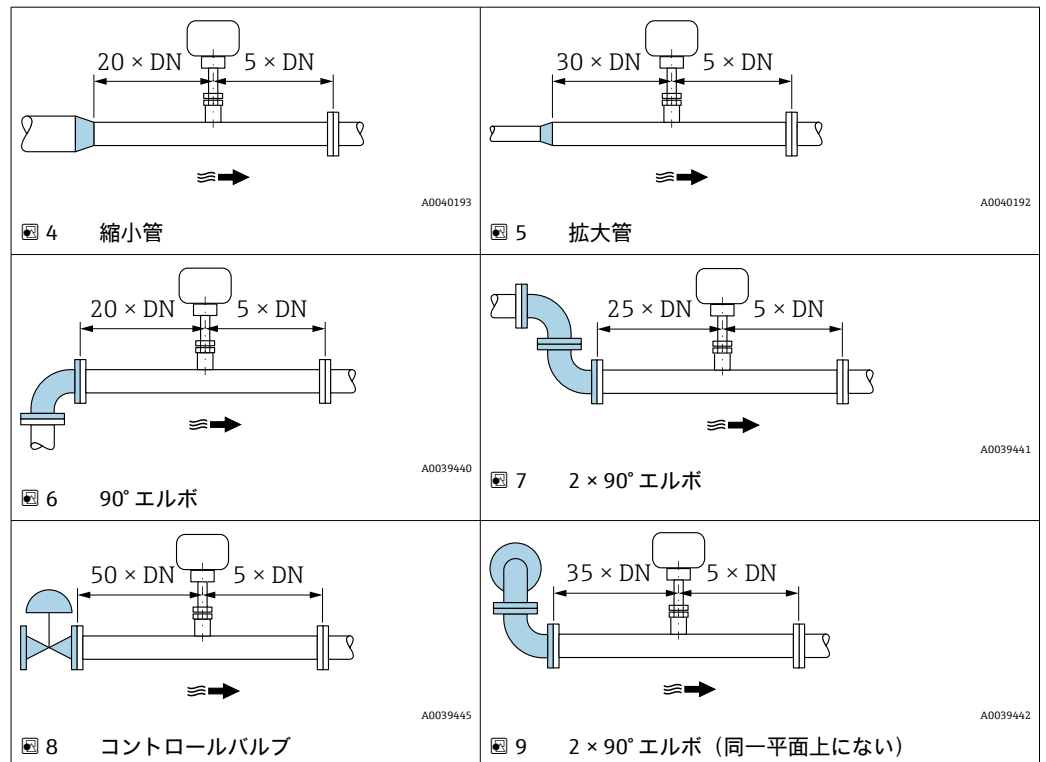


図 10 乱れのタイプおよび上流側直管長に応じて予想される追加の測定誤差（整流器なし）

- A 追加の測定誤差 (%)
 B 上流側直管長 (呼び口径)
 1 同一平面上にない 2 個の 90° エルボ
 2 拡大管
 3 2 個の 90° エルボ
 4 レデューサまたは 90° エルボ

整流器

必要な上流側直管長を確保できない場合は、整流器を使用します。整流器により流速分布が改善されるため、必要な上流側直管長が短くなります。

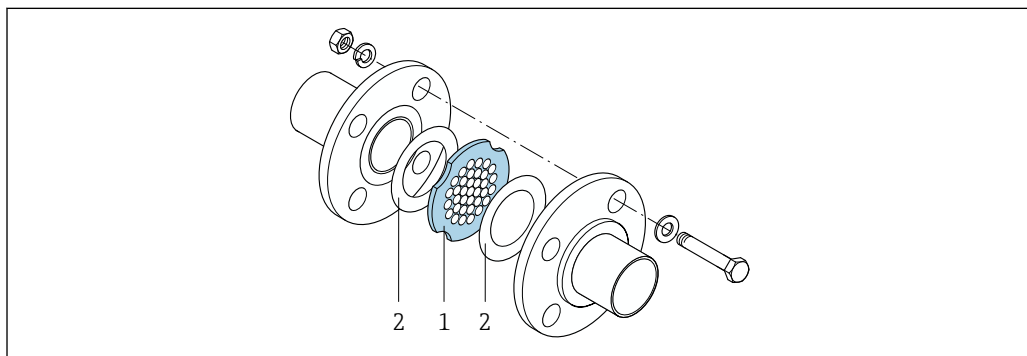
整流器を計測機器の前の流れ方向に取り付けます。

以下のフランジ規格で使用可能：

- ASME B16.5 Cl. 150/Cl. 300
- EN 1092-1 PN10/PN16/PN25/PN40
- JIS B2220 10K/20K

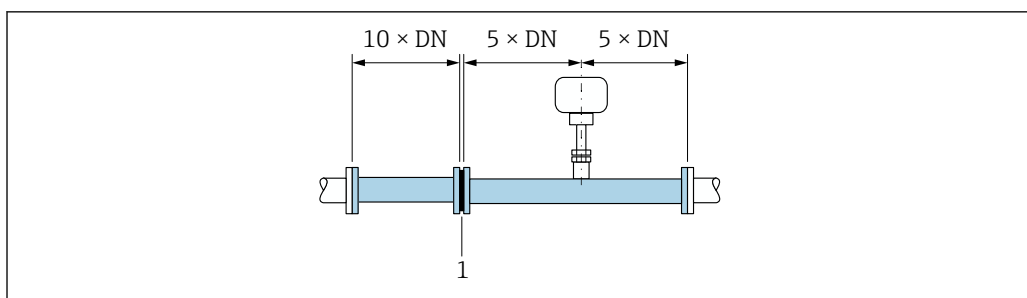
以下の配管サイズで使用可能：

- 呼び口径 80A (3")
- 呼び口径 100A (4")
- 呼び口径 150A (6")
- 呼び口径 200A (8")
- 呼び口径 250A (10")
- 呼び口径 300A (12")



A0039538

- 1 整流器
2 シール

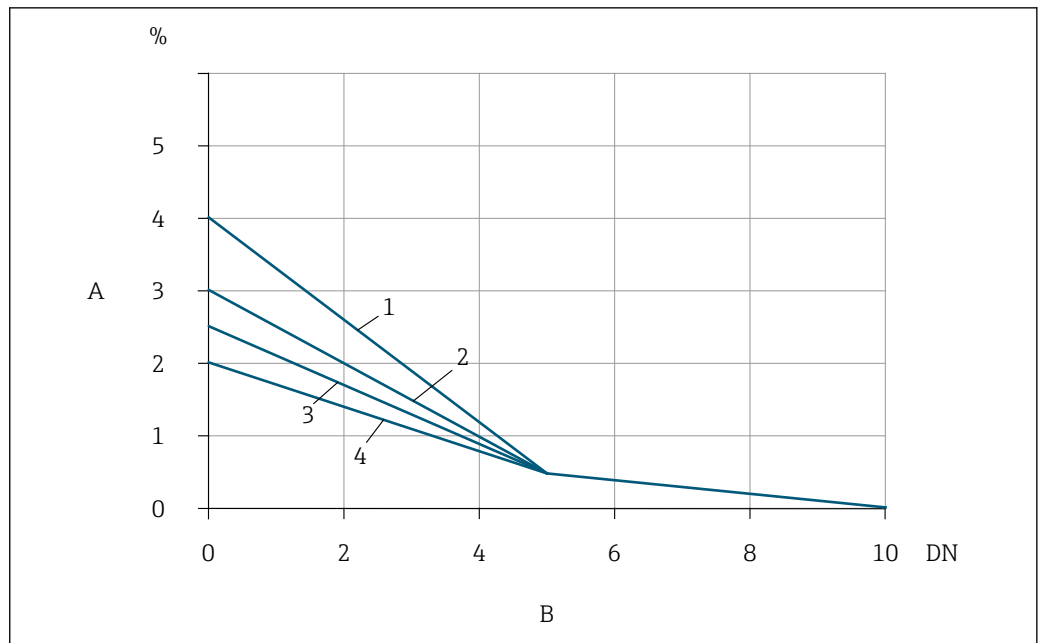


A0039424

図 11 整流器を使用する場合の推奨の上流側/下流側直管長

- 1 整流器

i 双方向センサの場合は、反対方向の上流側直管長にも注意してください。



A0039508

図 12 乱れのタイプおよび上流側直管長に応じて予想される追加の測定誤差（整流器あり）

- A 追加の測定誤差 (%)
 B 上流側直管長整流器の上流側（呼び口径）
 1 同一平面上にない 2 個の 90° エルボ
 2 拡大管
 3 2 個の 90° エルボ
 4 レデュースまたは 90° エルボ

整流器の圧力損失の計算方法： $\Delta p [\text{mbar}] = 0.0085 \cdot \rho [\text{kg/m}^3] \cdot v^2 [\text{m/s}]$

空気の例

$p = 1 \text{ MPa abs.}$

$t = 25^\circ\text{C} \rightarrow \rho = 11.71 \text{ kg/m}^3$

$v = 10 \text{ m/s}$

$\Delta p = 0.0085 \cdot 11.71 \cdot 10^2 = 0.995 \text{ kPa}$

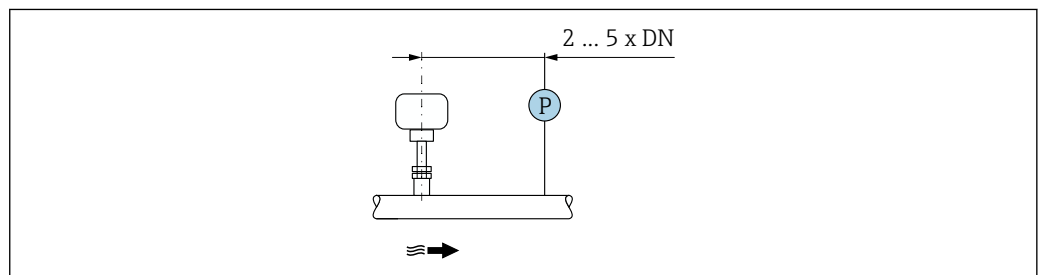
ρ : プロセス流体の密度

v : 平均流速

abs. = 絶対圧

圧力測定点の下流側にある場合

圧力測定点は計測システムの下流側に取り付けます。これにより、圧力伝送器が測定点の流れに影響を与える可能性を回避できます。

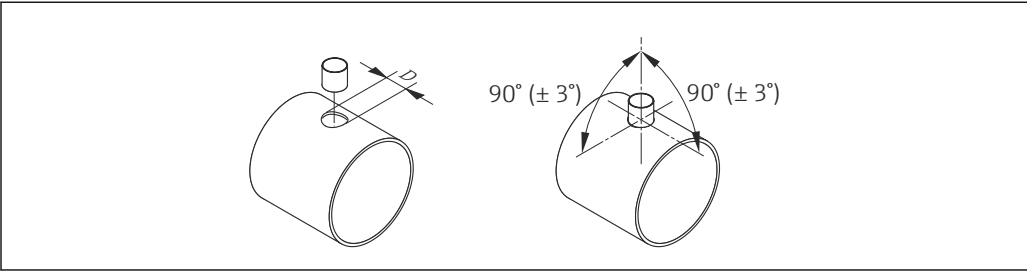


A0039447

図 13 圧力測定点（P = 圧力伝送器）の設置

ニップルの設置条件

i 方形のエアダクト（または管壁の薄い配管）に設置する場合は、適切なサポートブラケットを使用する必要があります。



D Ø 31.0 ± 0.5 mm (1.22 ± 0.019 in)

5.1.2 環境およびプロセスの要件

周囲温度範囲

機器	■ -40～+60 °C (-40～+140 °F) ■ 「試験、証明」のオーダーコード、オプション JP : -50～+60 °C (-58～+140 °F)
現場表示器の視認性	-20～+60 °C (-4～+140 °F) 温度が許容温度範囲外の場合、表示部の視認性が悪化する可能性があります。

注記

過熱の危険

- ▶ 変換器ハウジング下端の温度は 80 °C (176 °F) を超えないようにしてください。
- ▶ 変換器ネック部分で十分な対流が起きていることを確認してください。
- ▶ 爆発性雰囲気中使用する場合は、機器固有の防爆資料の指示に従ってください。温度表の詳細については、別冊の機器の「安全上の注意事項」(XA) を参照してください。
- ▶ 変換器ネック部分周囲の十分な範囲が覆われないようにしてください。覆われていない変換器の台座より放熱し、電子機器部が過熱/過冷却するのを防ぎます。
- ▶ 屋外で使用する場合：
特に高温地域では直射日光は避けてください。

i 日除けカバーの注文については、Endress+Hauser → 164 にお問い合わせください。

使用圧力

減圧バルブおよび一部のコンプレッサシステムは、プロセス圧力に大きな変動を引き起こし、流速分布をひずませる可能性があります。それにより、追加の測定誤差が生じることがあります。この脈圧を減らすために、以下のように、適切な対策を講じる必要があります。

- 膨張タンクの使用
- 流入口ディフューザの使用
- 機器をさらに下流に配置

圧縮空気アプリケーションにおける脈動流およびオイル/汚れに起因する汚染を防止するために、機器をフィルタ、乾燥装置、貯蔵装置の下流側に設置することを推奨します。コンプレッサの直後に機器を設置しないでください。

断熱

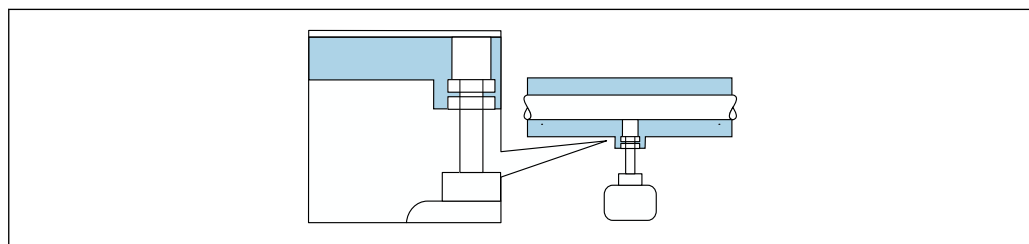
一部の流体においては、センサから変換器への放射熱を低く抑えることが重要です。必要な断熱を設けるために、さまざまな材質を使用することができます。

非常に湿った気体や水飽和ガス（例：消化ガス）の場合は、センサ素子に水滴が結露しないように、配管およびセンサハウジングを断熱し、必要に応じて加熱する必要があります。

注記

断熱により電子機器部が過熱する恐れがあります。

- ▶ 推奨の取付方向：水平取付、センサ接続ハウジングは下向き
- ▶ センサ接続ハウジングを断熱しないでください。
- ▶ センサ接続ハウジング下端の許容最高温度：80 °C (176 °F)
- ▶ 伸長ネックを覆わない断熱：最適な放熱を保証するために、伸長ネックを断熱しないことを推奨します。



A0039420

図 14 伸長ネックを覆わない断熱

ヒーティング

注記

周囲温度の上昇により電子モジュールが過熱する恐れがあります。

- ▶ 変換器の許容最高周囲温度に注意してください。
- ▶ 流体温度に応じて、機器取付方向の要件を考慮してください。

注記

断熱により電子機器部が過熱する恐れがあります。

- ▶ 推奨の取付方向：水平取付、センサ接続ハウジングは下向き
- ▶ センサ接続ハウジングを断熱しないでください。
- ▶ センサ接続ハウジング下端の許容最高温度：80 °C (176 °F)
- ▶ 伸長ネックを覆わない断熱：最適な放熱を保証するために、伸長ネックを断熱しないことをお勧めします。

注記

ヒーティング時の過熱の危険

- ▶ 変換器ハウジング下端の温度は 80 °C (176 °F) を超えないようにしてください。
- ▶ 変換器ネック部分で十分な対流が起きていることを確認してください。
- ▶ 爆発性雰囲気中使用する場合は、機器固有の防爆資料の指示に従ってください。温度表の詳細については、別冊の機器の「安全上の注意事項」(XA) を参照してください。
- ▶ 変換器ネック部分周囲の十分な範囲が覆われないようにしてください。覆われていない変換器の台座より放熱し、電子機器部が過熱/過冷却するのを防ぎます。

ヒーティングオプション

センサで熱損失が発生してはならない流体の場合は、次のヒーティングオプションを利用することが可能です。

- 電気ヒーティング（例：電気バンドヒーター）
- 温水または蒸気を利用した配管

振動

注記

強い振動が発生すると、機器が損傷する可能性があります。

機器または留め具が損傷する可能性があります。

▶ 耐振動性および耐衝撃性に関する情報に注意してください。→ 図 183

5.1.3 特別な取付方法

ゼロ調整

すべての機器は、最新技術に従って校正が実施されています。校正は、基準条件下で行われています。そのため、現場でのゼロ調整は、通常は必要ありません。

ゼロ調整が推奨されるのは、次のような特別な場合のみです。

- 厳密な測定精度要件が適用される場合
- 過酷なプロセス条件または動作条件の場合、例：非常に高いプロセス温度または軽質ガス（ヘリウム、水素）

日除けカバー

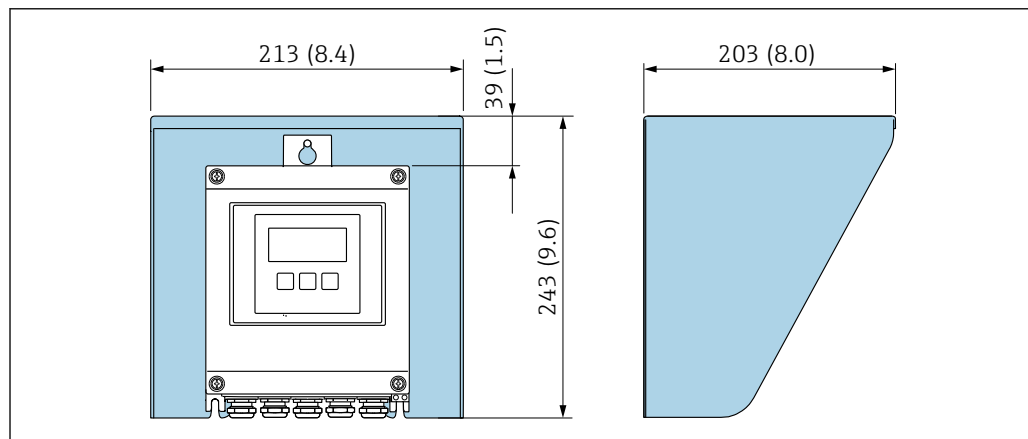


図 15 Proline 500 用の日除けカバー、工学単位 mm (in)

5.2 機器の取付け

5.2.1 必要な工具

センサ用

センサのコンプレッションフィッティング：適切な取付工具

5.2.2 機器の準備

1. 残っている輸送梱包材をすべて取り除きます。
2. センサから保護カバーまたは保護キャップをすべて取り外します。
3. 表示部のカバーに付いているステッカーをはがします。

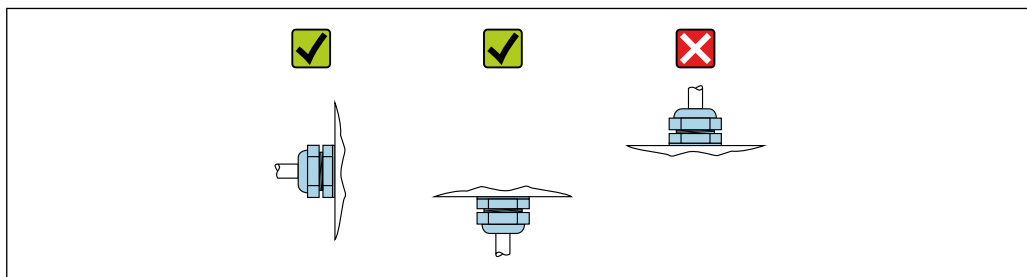
5.2.3 機器の取付け

⚠ 警告

プロセスの密閉性が不適切な場合、危険が及ぶ可能性があります。

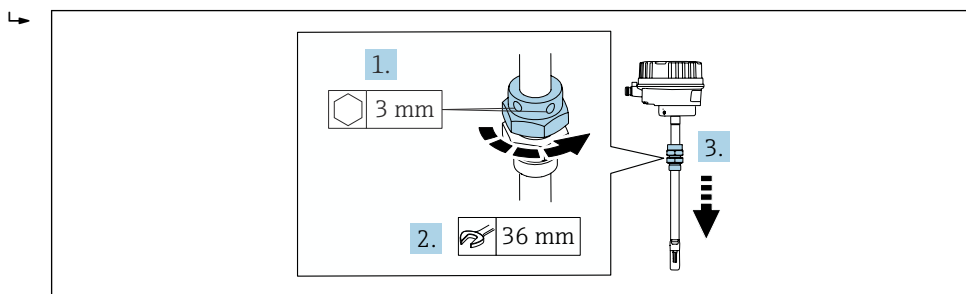
- ▶ シールに汚れや損傷がないことを確認してください。
- ▶ 適切なシール材が使用されていることを確認してください（例：NPT コンプレッションフィッティング用のテフロンテープ）。
- ▶ シールを正しく固定してください。

電統口が上を向かないように機器を取り付けるか、変換器ハウジングを回転させます。



A0029263

1. 要件に従って取付ボスに溶接します。
2. ユニオンナット (1) を緩めて、コンプレッションフィッティング (2) を押し下げます。



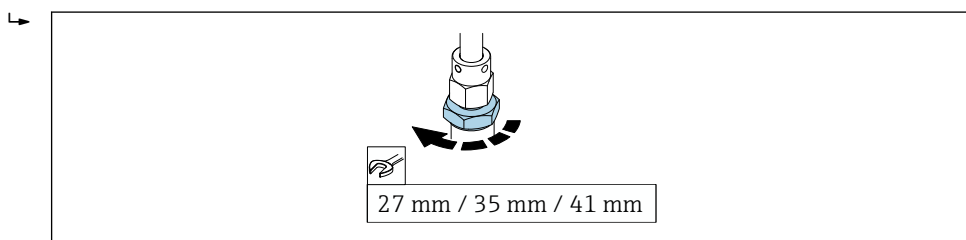
A0041023

3. 注記

センサ素子が損傷する恐れがあります。

- ▶ センサ素子がどこにも当たらないことを確認してください。

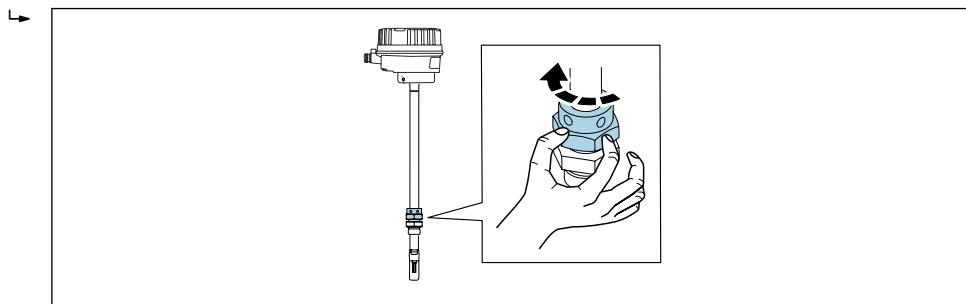
レンチ (27 mm / 35 mm / 41 mm) を使用して、コンプレッションフィッティングの底部ナットを止まるところまで締め付けます。



A0036810

4. 次に、以前に計算された挿入深さを目盛りから読み取り、この値とコンプレッションフィッティングの上端の高さが同じになるまでセンサを挿入します。

5. ユニオンナットを手で締め付けます。このとき、センサはまだわずかに動かすことが可能でなければなりません。

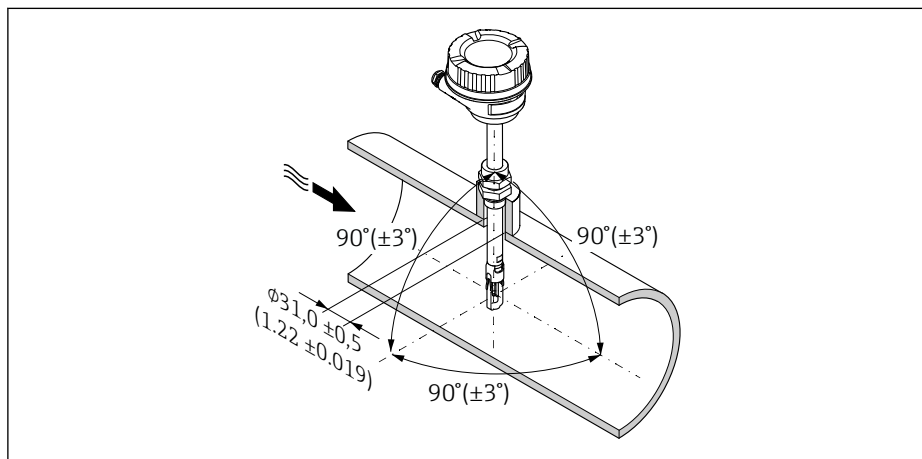


A0041025

6. センサの位置を流れ方向に合わせます。

↳ センサのネック部分の矢印の向きが流れ方向と一致するように注意してください。

流れ方向に対する許容最大偏差は 3° です。



A0039512

16 工学単位 : mm (in)

7. プロセス接続に応じて :

ユニオンナットを締めます (x 回転)。

↳ PEEK 製棒端子の場合は、ステップ 8 に進みます。
金属製棒端子の場合は、ステップ 9 に進みます。

8. PEEK 製棒端子の場合 :

初回の取付け : ユニオンナットを $1\frac{1}{4}$ 回転させて締めます。再取付け : ユニオンナットを 1 回転させて締めます。

↳ ヒント 強い振動が予想される場合は、初めて取り付けるときにユニオンナットを $1\frac{1}{2}$ 回転させて締めます。

9. 金属製棒端子の場合 :

初回の取付け : ユニオンナットを $1\frac{1}{4}$ 回転させて締めます。再取付け : ユニオンナットを $\frac{1}{4}$ 回転させて締めます。

10. 両方の固定ネジを再度、六角ネジ 3 mm ($\frac{1}{8}$ in) を使用して 4 Nm (2.95 lbf ft) で締め付けます。

↳ これで、センサを動かすことはできなくなります。

11. 測定点に漏れがないか確認します (最大のプロセス圧力)。

5.2.4 変換器ハウジングの取付け：Proline 500 – デジタル

⚠ 注意

周囲温度が高すぎます。

電子部過熱とハウジング変形が生じる恐れがあります。

- ▶ 許容最高周囲温度を超えないように注意してください。
- ▶ 屋外で使用する場合：特に高温地域では直射日光が当たらないように、風化にさらされないようにしてください。

⚠ 注意

過度な力によりハウジングが損傷する恐れがあります。

- ▶ 過度な機械的応力がかからないようにしてください。

変換器は次のような方法で取付できます。

- 設置状況
- 壁取付け

パイプ取付け

必要な工具：

- スパナ AF 10
- Torx ドライバ TX 25

⚠ 警告

固定ネジの締め付けトルクが超過！

プラスチック製変換器が損傷する恐れがあります。

- ▶ 締め付けトルクに従って固定ネジを締め付けてください。2 Nm (1.5 lbf ft)

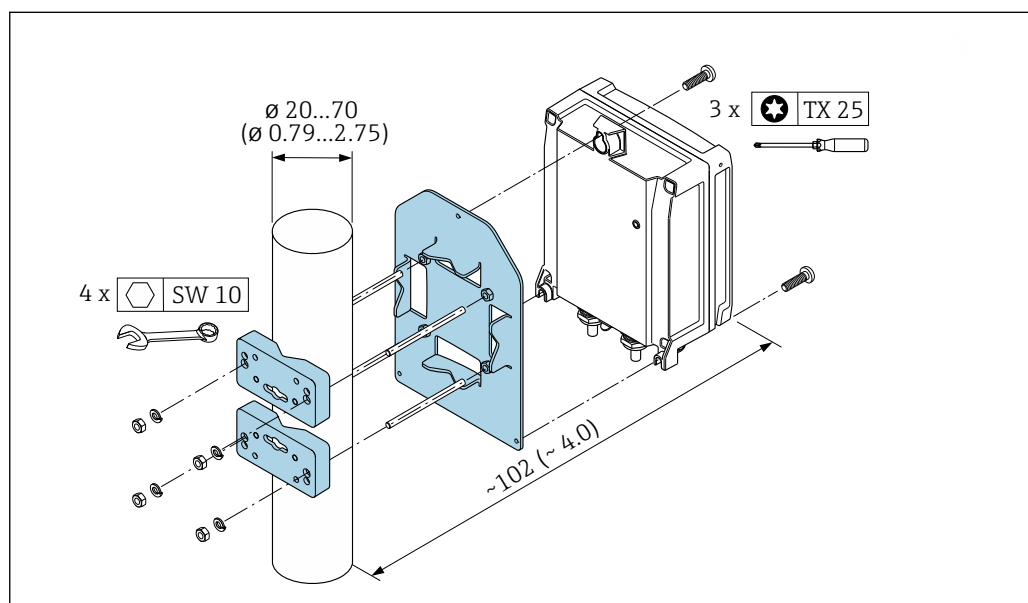


図 17 工学単位 mm (in)

A0029051

壁取付け

必要な工具：

ドリルビット Ø 6.0 mm 付きドリル

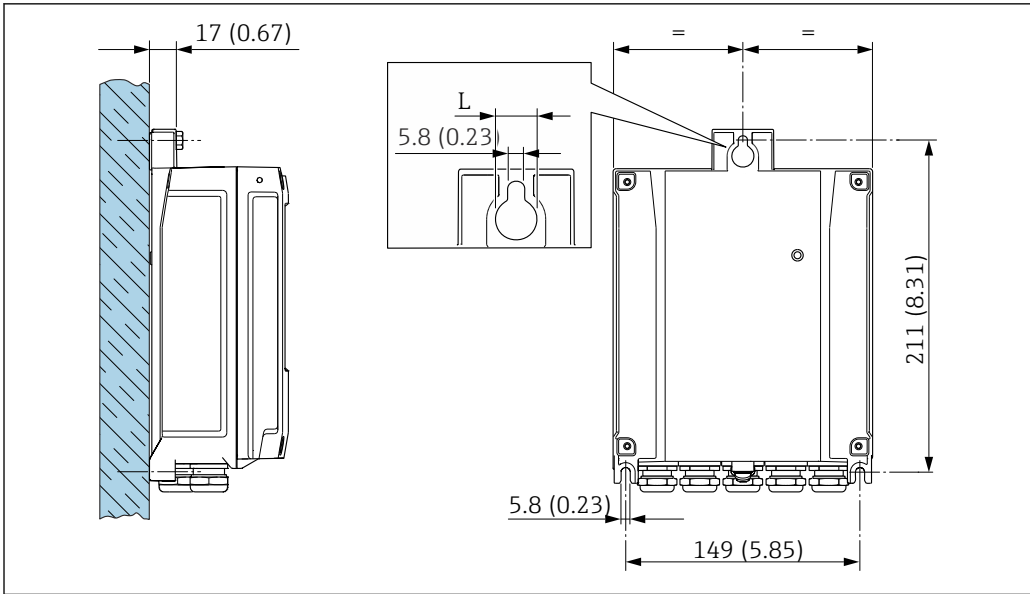


図 18 工学単位 mm (in)
L 「変換器ハウジング」のオーダーコードに応じて異なる

「変換器ハウジング」のオーダーコード

- オプション A、アルミニウム、コーティング : L = 14 mm (0.55 in)
- オプション D、ポリカーボネート : L = 13 mm (0.51 in)

1. ドリルで穴を開けます。
2. 壁用プラグを穴に挿入します。
3. 固定ネジを軽く締め付けます。
4. 固定ネジの上から変換器ハウジングを取り付けて、位置を合わせます。
5. 固定ネジを締め付けます。

5.3 設置状況の確認

機器は損傷していないか？（外観検査）	☐
機器が測定点の仕様を満たしているか？ 例： ■ プロセス温度 → 図 185 ■ プロセス圧力（技術仕様書の「圧力温度曲線」セクションを参照） ■ 周囲温度 → 図 24 ■ 測定範囲 → 図 170	☐
センサの正しい取付方向が選択されているか → 図 18？ ■ センサタイプに応じて ■ 測定物特性に応じて ■ 測定物温度に応じて ■ プロセス圧力に応じて	☐
センサに記載されている矢印が、配管内を流れる測定物の実際の方向と一致しているか？	☐
測定点の上流側/下流側に十分な上流側/下流側直管長があるか → 図 20？	☐
センサ挿入深さが適切か？	☐
機器が降雨あるいは直射日光から適切に保護されているか？	☐
機器が過熱に対して保護されているか？	☐
機器が過度な振動に対して保護されているか？	☐

気体特性（例：純度、乾燥度、清浄度）を確認したか？	☐
測定点の識別番号とそれに対応する銘板は正しいか（外観検査）？	☐
固定ネジや固定クランプがしっかりと締め付けられているか？	☐

6 電気接続

⚠ 警告

帯電部！電気接続に関する作業が不適切な場合、感電の危険性があります。

- ▶ 機器の電源を容易に切ることができるように、断路装置（スイッチまたは電源ブレーカ）を設定します。
- ▶ 機器のヒューズに加えて、最大 10 A の過電流保護ユニットをプラント設備に組み込んでください。

6.1 電気の安全性

適用される各国の規制に準拠

6.2 接続要件

6.2.1 必要な工具

- 電線口用：適切な工具を使用してください。
- 固定クランプ用：六角レンチ 3 mm
- 電線ストリッパー
- より線ケーブルを使用する場合：電線端棒端子用の圧着工具
- ケーブルを端子から外す場合：マイナスドライバ ≤ 3 mm (0.12 in)

6.2.2 接続ケーブルの要件

ユーザー側で用意する接続ケーブルは、以下の要件を満たす必要があります。

外部接地端子用の保護接地ケーブル

導体断面積 < 2.1 mm² (14 AWG)

ケーブルラグを使用すると、より大きな断面積の接続が可能になります。

接地インピーダンスは 2 Ω 以下でなければなりません。

許容温度範囲

- 設置する国/地域に適用される設置ガイドラインを順守する必要があります。
- ケーブルは予想される最低温度および最高温度に適合しなければなりません。

電源ケーブル（内部接地端子用の導体を含む）

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

信号ケーブル

Modbus RS485

EIA/TIA-485 規格では、あらゆる伝送速度で使用可能なバスライン用に 2 つのケーブルタイプ（A および B）が指定されています。ケーブルタイプ A が推奨です。

ケーブルタイプ	A
特性インピーダンス	135～165 Ω、測定周波数 3～20 MHz 時
ケーブル静電容量	< 30 pF/m
ケーブル断面	> 0.34 mm ² (22 AWG)
ケーブルタイプ	ツイストペア
ループ抵抗	≤ 110 Ω/km

信号ダンピング	ケーブル断面積の全長にわたって最大 9 dB
シールド	銅編組シールドまたはフォイルシールド付き編組シールド。ケーブルシールドを接地する場合は、プラントの接地コンセプトに注意してください。

電流出力 0/4～20 mA

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

パルス / 周波数 / スイッチ出力

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

リレー出力

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

電流入力 0/4～20 mA

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

ステータス入力

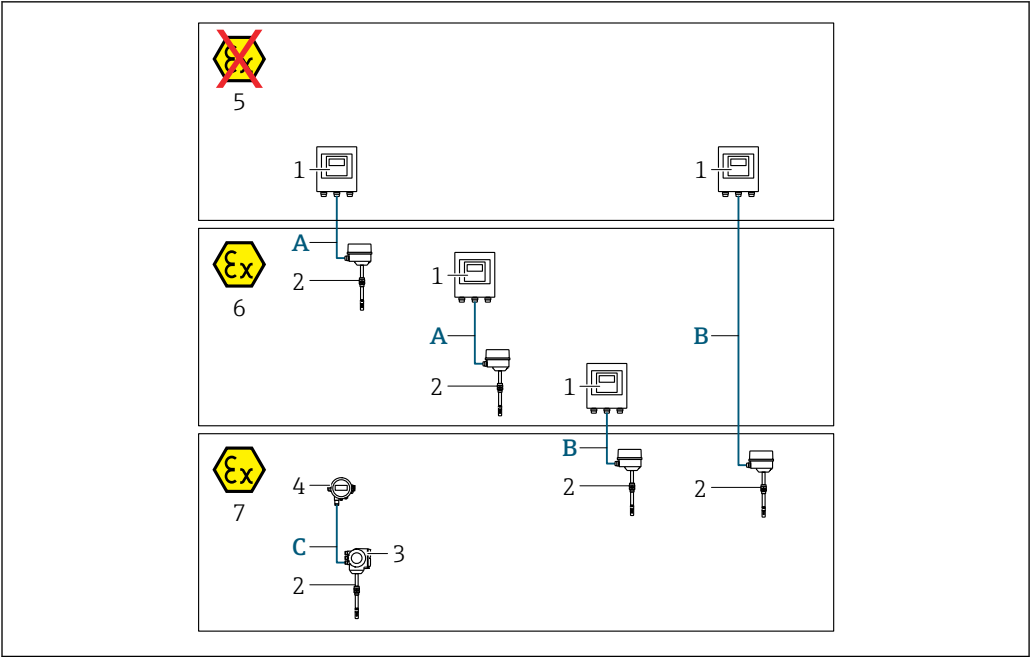
一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

ケーブル径

- 提供されるケーブルグランド :
M20 × 1.5、Ø 6～12 mm (0.24～0.47 in) ケーブル用
- スプリング端子 : より線およびスリーブ付きより線に最適
導体断面積 0.2～2.5 mm² (24～12 AWG)

変換器とセンサ間の接続ケーブルの選択

変換器のタイプおよび設置ゾーンに応じて異なります。



A0042081

- 1 Proline 500 – デジタル変換器
- 2 センサ t-mass
- 3 Proline 300 変換器
- 4 分離型ディスプレイ (DKX001)
- 5 非危険場所
- 6 危険場所：Zone 2; Class I, Division 2
- 7 危険場所：Zone 1; Class I, Division 1
- A 変換器 500 – デジタルへの標準ケーブル
非危険場所または危険場所に設置された変換器：Zone 2; Class I, Division 2/危険場所に設置されたセンサ：Zone 2; Class I, Division 2
- B 変換器 500 – デジタルへの標準ケーブル → 35
危険場所に設置された変換器：Zone 2; Class I, Division 2/危険場所に設置されたセンサ：Zone 1; Class I, Division 1
- C リモートディスプレイ用の標準ケーブル
危険場所に設置された変換器 300 およびリモートディスプレイ：Zone 1; Class I, Division 1

i Zone 1; Class 1, Division 1 で動作するアプリケーションの場合、リモートディスプレイを一体型と組み合わせて使用することを推奨します。この場合、Proline 300 変換器の表示部は、現場操作のできないブラインドバージョンになります。

A：センサと変換器間の接続ケーブル：Proline 500 – デジタル標準ケーブル

以下の仕様の標準ケーブルを接続ケーブルとして使用できます。

構成	4 芯；非絶縁 CU より線；共通シールド付き
シールド	錫メッキ銅編組線、光学的カバー ≥ 85 %
ループ抵抗	電源ライン (+, -)：最大 10 Ω
ケーブル長	最大 300 m (900 ft)、下表を参照
機器プラグ、サイド 1	M12 ソケット、5 ピン、A コード
機器プラグ、サイド 2	M12 プラグ、5 ピン、A コード

断面積	ケーブル長 [最大]
0.34 mm ² (AWG 22)	80 m (240 ft)
0.50 mm ² (AWG 20)	120 m (360 ft)
0.75 mm ² (AWG 18)	180 m (540 ft)

断面積	ケーブル長 [最大]
1.00 mm ² (AWG 17)	240 m (720 ft)
1.50 mm ² (AWG 15)	300 m (900 ft)

オプションで使用可能な接続ケーブル

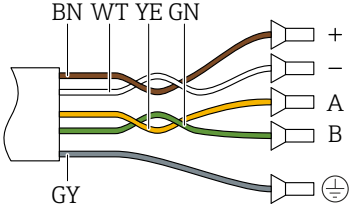
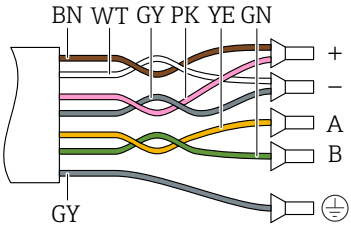
構成	2 × 2 × 0.34 mm ² (AWG 22) PVC ケーブル ¹⁾ 、共通シールド付き (2 ペア、非絶縁 CU 撚り線、ペア撚り)
難燃性	DIN EN 60332-1-2 に準拠
耐油性	DIN EN 60811-2-1 に準拠
シールド	錫メッキ銅編組線、光学的カバレッジ ≥ 85 %
動作温度	固定位置に取り付けた場合 : -50 ~ +105 °C (-58 ~ +221 °F) ; ケーブルを自由に移動できる場合 : -25 ~ +105 °C (-13 ~ +221 °F)
使用可能なケーブル長	固定 : 20 m (60 ft)、可変 : 最大 50 m (150 ft)

- 1) 紫外線放射により、ケーブルの外側シースが損なわれる可能性があります。可能な場合は、ケーブルを直射日光から保護してください。

B : センサと変換器間の接続ケーブル : Proline 500 - デジタル 標準ケーブル

以下の仕様の標準ケーブルを接続ケーブルとして使用できます。

構成	4、6、8 芯 (2、3、4 ペア) ; 非絶縁 CU 撚り線 ; 共通シールド付きペア撚り
シールド	錫メッキ銅編組線、光学的カバレッジ ≥ 85 %
静電容量 C	最大 760 nF IIC、最大 4.2 μF IIB
インダクタンス L	最大 26 μH IIC、最大 104 μH IIB
インダクタンス/抵抗比 (L/R)	最大 8.9 μH/Ω IIC、最大 35.6 μH/Ω IIB (例 : IEC 60079-25 に準拠)
ループ抵抗	電源ライン (+、-) : 最大 5 Ω
ケーブル長	最大 100 m (300 ft)、下表を参照

断面積	ケーブル長 [最大]	終端処理
2 x 2 x 0.50 mm ² (AWG 20)	50 m (150 ft)	2 x 2 x 0.50 mm ² (AWG 20)  ■ +, - = 0.5 mm ² ■ A, B = 0.5 mm ²
3 x 2 x 0.50 mm ² (AWG 20)	100 m (300 ft)	3 x 2 x 0.50 mm ² (AWG 20)  ■ +, - = 1.0 mm ² ■ A, B = 0.5 mm ²

オプションで使用可能な接続ケーブル

接続ケーブル	Zone 1; Class I, Division 1
標準ケーブル	2 × 2 × 0.5 mm ² (AWG 20) PVC ケーブル ¹⁾ 、共通シールド付き (2 ペア、ペア撚り)
難燃性	DIN EN 60332-1-2 に準拠
耐油性	DIN EN 60811-2-1 に準拠
シールド	錫メッキ銅編組線、光学的カバー ≥ 85 %
動作温度	固定位置に取り付けた場合：-50～+105 °C (-58～+221 °F)；ケーブルを自由に移動できる場合：-25～+105 °C (-13～+221 °F)
使用可能なケーブル長	固定；20 m (60 ft)、可変：最大 50 m (150 ft)

1) 紫外線放射により、ケーブルの外側シースが損なわれる可能性があります。可能な場合は、ケーブルを直射日光から保護してください。

6.2.3 端子の割当て

変換器：電源電圧、入力/出力

入出力の端子の割当ては、注文した個別の機器バージョンに応じて異なります。機器固有の端子の割当ては、端子部カバーに貼付されたラベルに明記されています。

電源電圧		入力/出力 1		入力/出力 2		入力/出力 3		入力/出力 4	
1 (+)	2 (-)	26 (B)	27 (A)	24 (+)	25 (-)	22 (+)	23 (-)	20 (+)	21 (-)
機器固有の端子の割当て：端子部カバーに貼付されたラベル									

変換器およびセンサ接続ハウジング：接続ケーブル

別の場所に設置されているセンサと変換器は接続ケーブルを使用して相互に接続されます。ケーブルはセンサ接続ハウジングおよび変換器ハウジングを介して接続されます。

接続ケーブルの端子の割当ておよび接続：

Proline 500 – デジタル → 図 38

6.2.4 シールドおよび接地

シールドおよび接地コンセプト

1. 電磁適合性（EMC）を維持します。
2. 防爆を考慮します。
3. 要員の保護に注意を払います。
4. 各国の設置法規およびガイドラインを順守します。
5. ケーブル使用を順守します。
6. 接地端子側のケーブルシールドの被覆を剥がしてよじった部分の長さは、できるだけ短くしてください。
7. ケーブルを完全にシールドします。

ケーブルシールドの接地

注記

電位平衡のないシステムの場合は、ケーブルシールドの多重接地により電源周波数均等化電流が生じます。

バスケーブルシールドが損傷する恐れがあります。

- ▶ バスケーブルシールドは、現場接地端子または保護接地端子のどちらかに一端だけを接地してください。
- ▶ 接続されていないシールドは絶縁してください。

EMC 要件準拠のため：

1. ケーブルシールドが複数個所で電位平衡線と接地されているか確認してください。
2. 現場のすべての接地端子を電位平衡線と接続してください。

6.2.5 機器の準備

以下の順序で手順を実施します。

1. センサと変換器を取り付けます。
2. センサ接続ハウジング：接続ケーブルを接続します。
3. 変換器：接続ケーブルを接続します。
4. 変換器：信号ケーブルおよび電源ケーブルを接続します。

注記

ハウジングの密閉性が不十分な場合。

機器の動作信頼性が損なわれる可能性があります。

- ▶ 保護等級に対応する適切なケーブルグランドを使用してください。

1. ダミープラグがある場合は、これを取り外します。
2. 機器にケーブルグランドが同梱されていない場合：
接続ケーブルに対応する適切なケーブルグランドを用意してください。
3. 機器にケーブルグランドが同梱されている場合：
接続ケーブルの要件を順守します。→ 図 32.

6.3 機器の接続：Proline 500 – デジタル

注記

適切に接続されていないと、電気的安全性が損なわれます。

- ▶ 電気配線作業は、適切な訓練を受けた専門作業員のみが実施してください。
- ▶ 適用される各地域/各国の設置法規を遵守してください。
- ▶ 各地域の労働安全規定に従ってください。
- ▶ 追加のケーブルを接続する前に、必ず保護接地ケーブルを接続します。⚡
- ▶ 爆発性雰囲気中使用する場合は、機器固有の防爆資料の指示に従ってください。

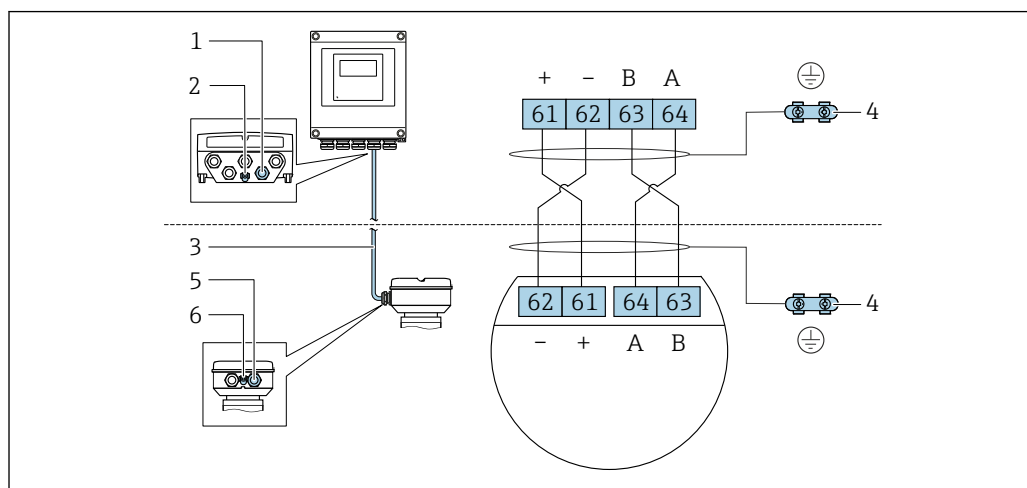
6.3.1 接続ケーブルの接続

⚠ 警告

電子部品が損傷する恐れがあります。

- ▶ センサと変換器を同じ電位平衡に接続します。
- ▶ センサは同じシリアル番号の変換器にのみ接続します。

接続ケーブル端子の割当て



A0028198

- 1 変換器ハウジングのケーブル用の電線管接続口
- 2 保護接地 (PE)
- 3 ISEM 通信用接続ケーブル
- 4 アース端子を介した接地、機器プラグバージョンはプラグ本体を介して接地
- 5 センサ接続ハウジングのケーブルまたは機器プラグコネクタ用の電線管接続口
- 6 保護接地 (PE)

接続ケーブルとセンサ接続ハウジングの接続

端子を介した接続、「センサ接続ハウジング」のオーダーコード：

- オプション A「アルミニウム、コーティング」→ 39
- オプション L「鋳造、ステンレス」→ 39

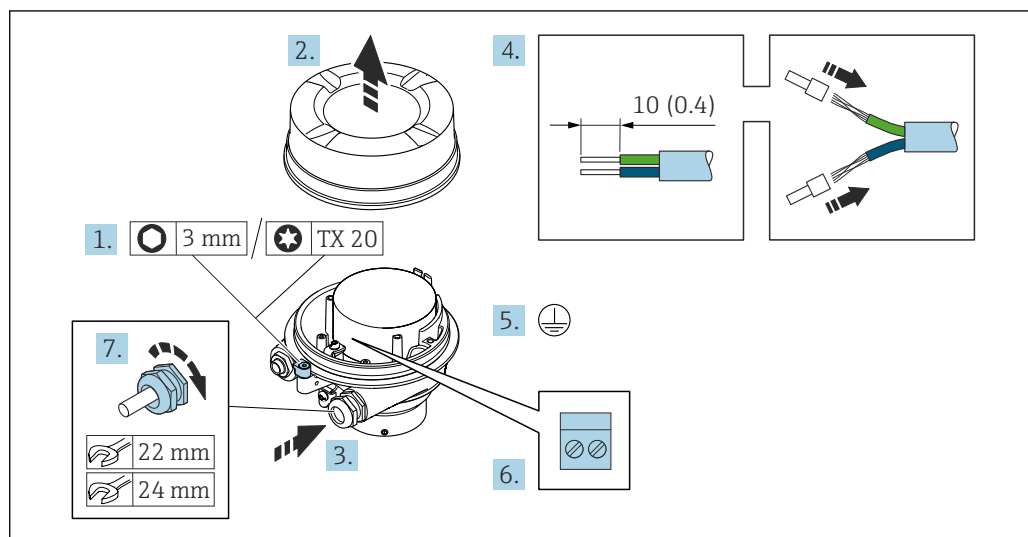
接続ケーブルと変換器の接続

ケーブルは端子を介して変換器と接続されます→ 40。

端子を介したセンサ接続ハウジングの接続

「センサ接続ハウジング」のオーダーコードが以下の機器バージョン：

- オプション A 「塗装アルミダイカスト」
- オプション L 「鋳造、ステンレス」



A0029616

1. ハウジングカバーの固定クランプを緩めます。
2. ハウジングカバーを緩めて外します。
3. 電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシールリングは外さないでください。
4. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、スリーブを取り付けます。
5. 保護接地を接続します。
6. 接続ケーブル端子の割当てに従ってケーブルを接続します。
7. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
↳ これにより接続ケーブルの接続作業が完了します。

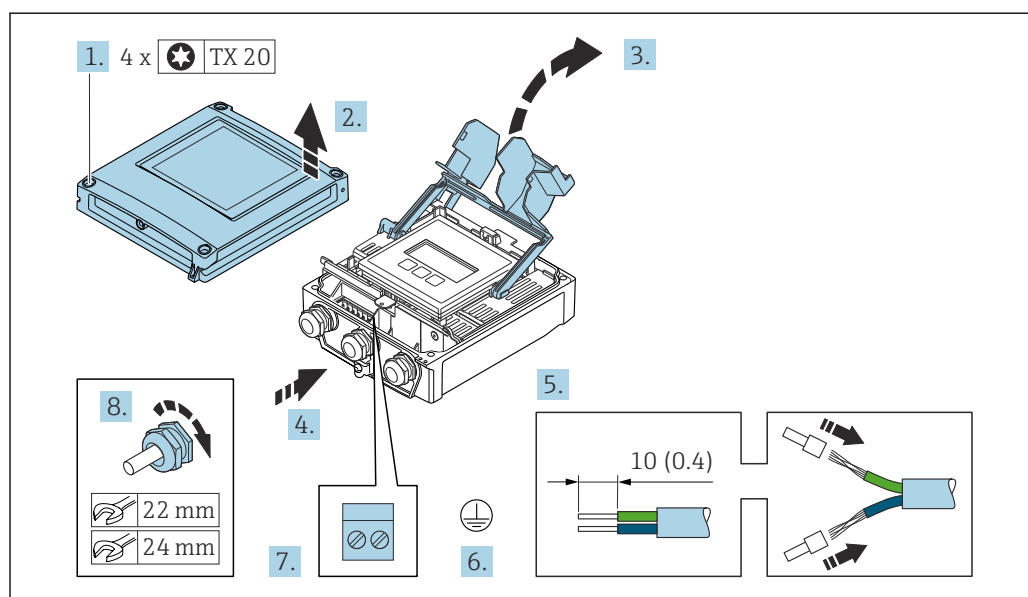
警告

ハウジングの密閉性が不十分な時には、ハウジング保護等級は無効です。

- ▶ 潤滑剤を用いずにカバーにねじ込んでください。カバーのネジ部にはドライ潤滑コーティングが施されています。

8. ハウジングカバーを取り付けます。
9. ハウジングカバーの固定クランプを締め付けます。

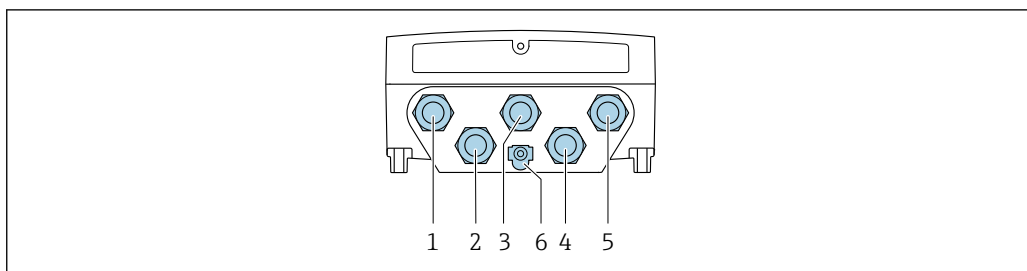
接続ケーブルと変換器の接続



A0029597

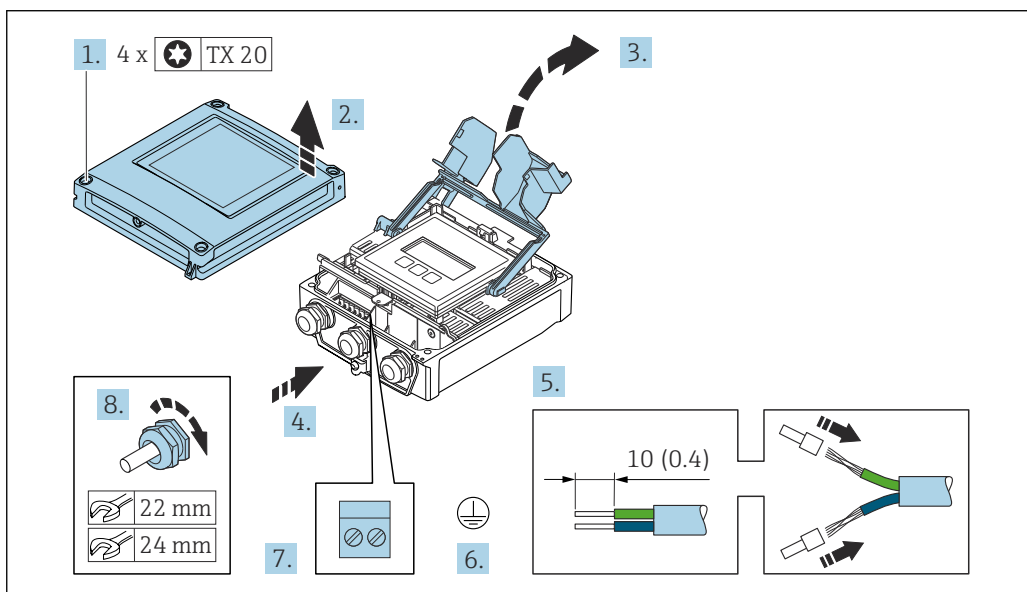
1. ハウジングカバーの 4 つの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 端子部カバーを開きます。
4. 電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシールリングは外さないでください。
5. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、棒端子を取り付けます。
6. 保護接地を接続します。
7. 接続ケーブルの端子の割当てに従ってケーブルを接続します→ 図 38。
8. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
→ これにより接続ケーブルの接続作業が完了します。
9. ハウジングカバーを閉じます。
10. ハウジングカバーの固定ネジを締め付けます。
11. 接続ケーブルの接続後：
信号ケーブルと電源ケーブルを接続します→ 図 41。

6.3.2 信号ケーブルと電源ケーブルの接続



A0028200

- 1 電源用端子接続
- 2 入力/出力信号伝送用端子接続
- 3 入力/出力信号伝送用端子接続
- 4 センサと変換器間の接続ケーブル用端子接続
- 5 入力/出力信号伝送用端子接続ネットワーク接続用端子 (DHCP クライアント) ; オプション : 外部の WLAN アンテナ用接続
- 6 保護接地 (PE)



A0029597

1. ハウジングカバーの 4 つの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 端子部カバーを開きます。
4. 電線口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線口のシールリングは外さないでください。
5. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、棒端子を取り付けます。
6. 保護接地を接続します。
7. 端子の割当てに従ってケーブルを接続します。
 - ↳ **信号ケーブルの端子の割当て** : 機器固有の端子の割当ては、端子部カバーの粘着ラベルに明記されています。
 - 電源の端子の割当て** : 端子部カバーの粘着ラベルまたは → 図 36
8. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
 - ↳ これによりケーブル接続作業が完了します。
9. 端子部カバーを閉じます。
10. ハウジングカバーを閉じます。

⚠ 警告

ハウジングの密閉性が不十分な時には、ハウジング保護等級が無効になる場合があります。

▶ 潤滑剤を用いずにねじ込んでください。

⚠ 警告

固定ネジの締め付けトルクが超過！

プラスチック製変換器が損傷する恐れがあります。

▶ 締め付けトルクに従って固定ネジを締め付けてください。2 Nm (1.5 lbf ft)

11. ハウジングカバーの4つの固定ネジを締め付けます。

ケーブルの取外し

ケーブルを端子から外す場合：

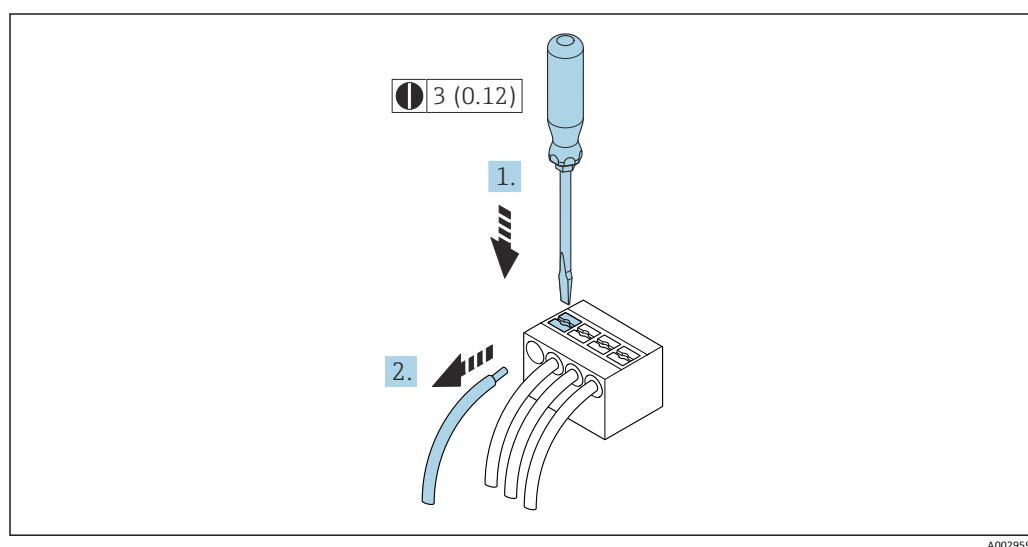


図 19 工学単位 mm (in)

1. マイナスドライバを使用して、2つの端子孔間のスロットを押し込みます。
2. 端子からケーブル端を取り外します。

6.4 電位平衡**6.4.1 要件**

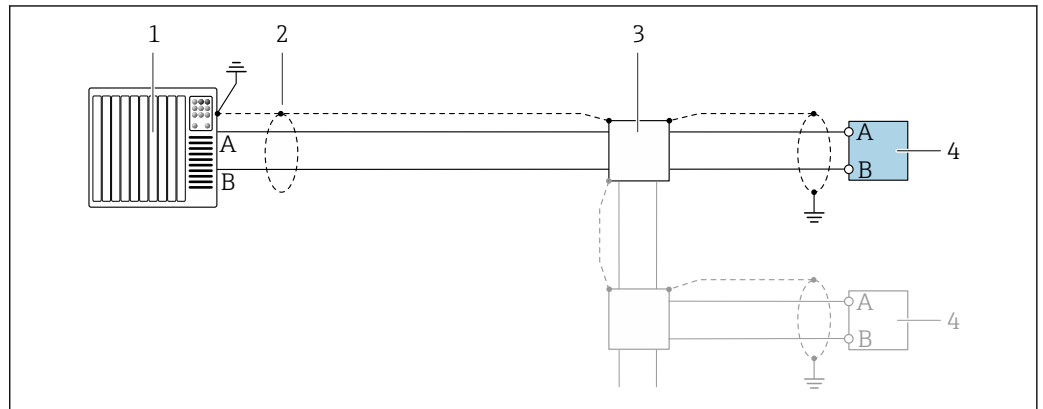
電位平衡に関して：

- 社内の接地コンセプトに注意してください。
- 配管材質や接地などの動作条件を考慮してください。
- 測定物、センサ、変換器を同じ電位に接続してください。
- 電位平衡接続には、断面積が 6 mm^2 (0.0093 in^2) 以上の接地ケーブルとケーブルラグを使用してください。

6.5 特別な接続方法

6.5.1 接続例

Modbus RS485

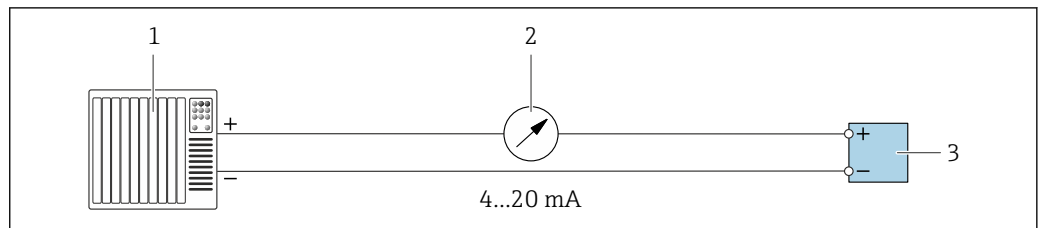


A0028765

図 20 Modbus RS485（非危険場所および Zone 2; Class I, Division 2 用）の接続例

- 1 制御システム（例：PLC）
- 2 一方の端にケーブルシールドが使用されています。EMC 要件を満たすために、ケーブルシールドの両端を接地してください。ケーブル仕様に従ってください。
- 3 分配ボックス
- 4 変換器

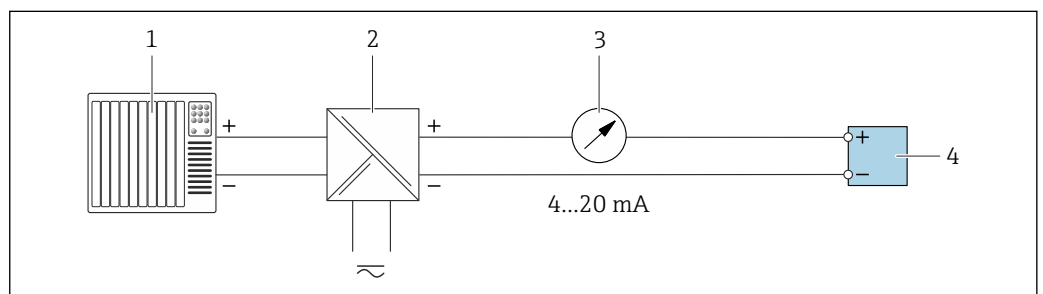
電流出力 4～20 mA



A0028758

図 21 4～20 mA 電流出力（アクティブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、電流入力付き（例：PLC）
- 2 アナログ表示器：最大負荷に注意
- 3 変換器

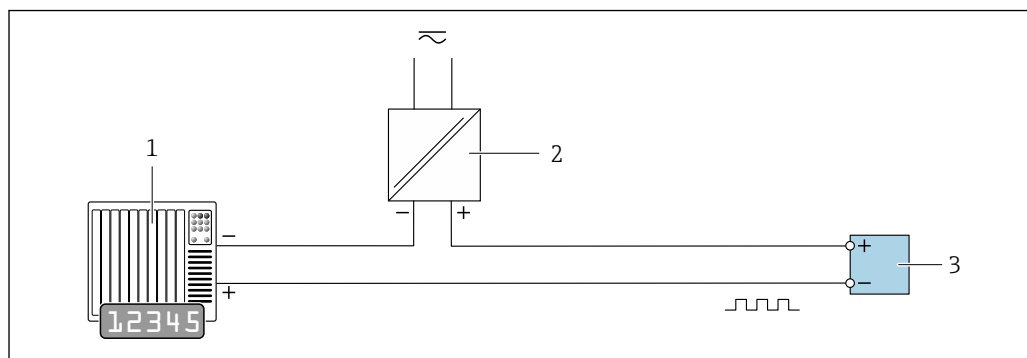


A0028759

図 22 4～20 mA 電流出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、電流入力付き（例：PLC）
- 2 電源用アクティブバリア（例：RN221N）
- 3 アナログ表示器：最大負荷に注意
- 4 変換器

パルス/周波数出力

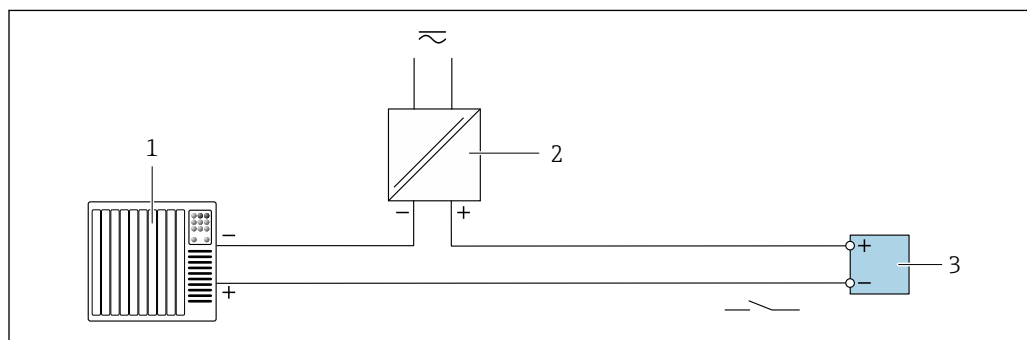


A0028761

図 23 パルス/周波数出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、パルス/周波数入力付き（例：PLC、10 k Ω プルアップ/プルダウン抵抗付き）
- 2 電源
- 3 変換器：入力値に注意 → 図 174

スイッチ出力

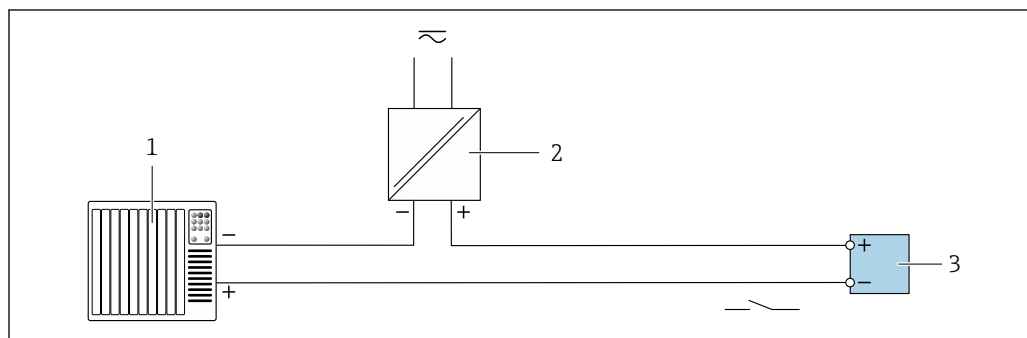


A0028760

図 24 スイッチ出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、スイッチ入力付き（例：PLC、10 k Ω プルアップ/プルダウン抵抗付き）
- 2 電源
- 3 変換器：入力値に注意 → 図 174

リレー出力

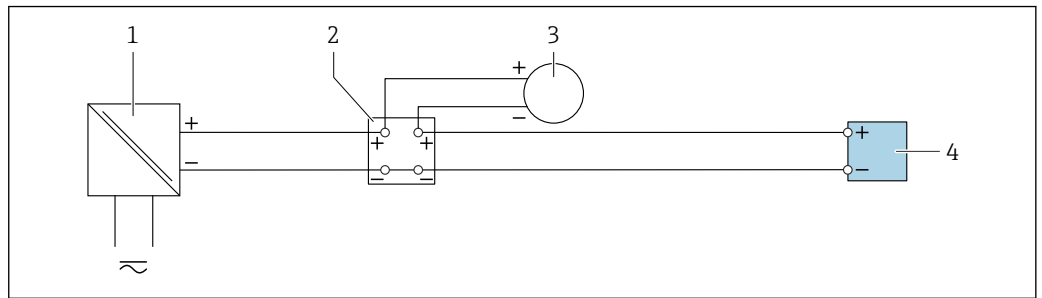


A0028760

図 25 リレー出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、リレー入力付き（例：PLC）
- 2 電源
- 3 変換器：入力値に注意 → 図 176

電流入力

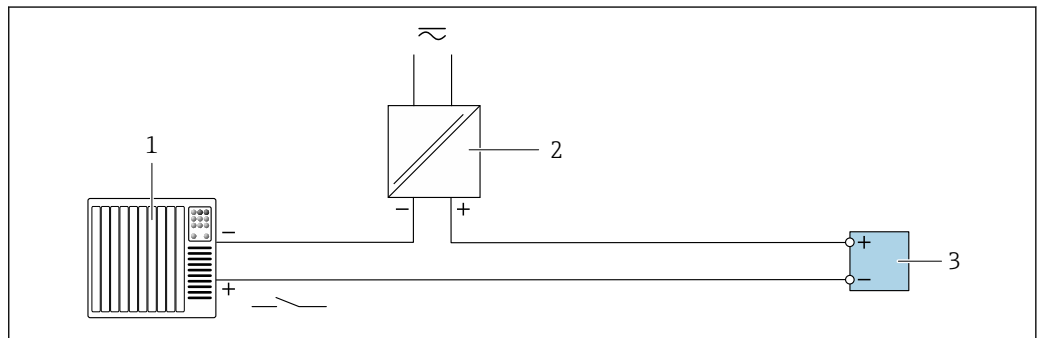


A0028915

図 26 4~20 mA 電流入力の接続例

- 1 電源
- 2 端子箱
- 3 外部機器（例：圧力または温度読み用）
- 4 変換器

ステータス入力



A0028764

図 27 ステータス入力の接続例

- 1 オートメーションシステム、ステータス出力付き（例：PLC）
- 2 電源
- 3 変換器

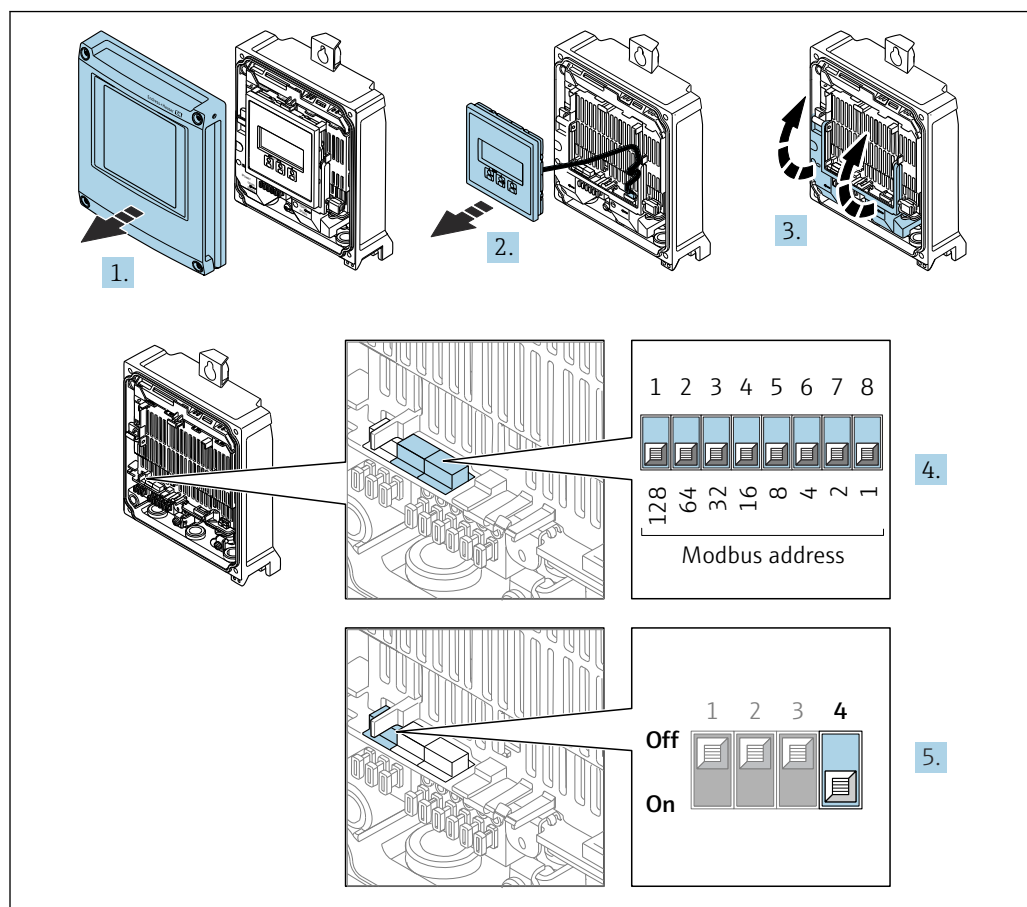
6.6 ハードウェアの設定

6.6.1 機器アドレスの設定

機器アドレスは必ず Modbus スレーブに対して設定する必要があります。有効な機器アドレスの範囲は 1~247 です。各アドレスは Modbus RS485 ネットワーク内で 1 回だけ割り当てることができます。アドレスが正しく設定されない場合、機器は Modbus マスタに認識されません。全ての機器は、機器アドレス 247 および「ソフトウェアのアドレス指定」アドレスモードで工場から出荷されます。

Proline 500 – デジタル変換器

ハードウェアアドレス指定



A0029677

1. ハウジングカバーを開きます。
2. 表示モジュールを外します。
3. 端子部カバーを開きます。
4. DIP スイッチを使用して必要な機器アドレスを設定します。
5. ソフトウェアのアドレス指定からハードウェアのアドレス指定に切り替える場合：DIP スイッチを **ON** に設定します。
 ↳ 機器アドレスの変更は 10 秒後に有効になります。

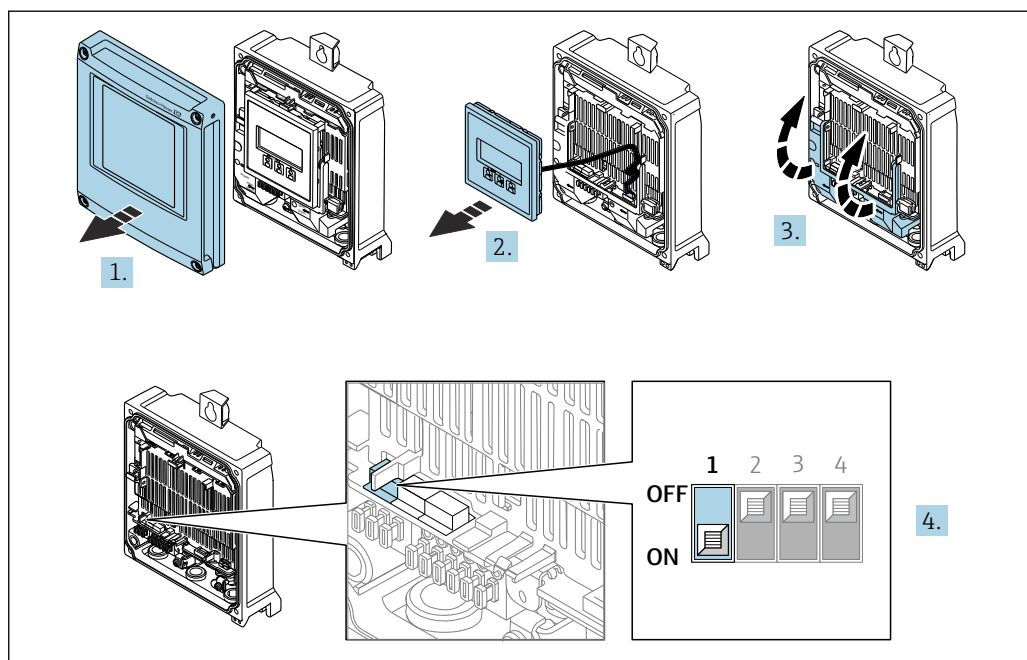
ソフトウェアのアドレス指定

- ▶ ハードウェアのアドレス指定からソフトウェアのアドレス指定に切り替える場合：DIP スイッチを **OFF** に設定します。
 ↳ デバイスアドレス パラメータ で設定した機器アドレスは 10 秒後に有効になります。

6.6.2 終端抵抗の有効化

インピーダンス不整合による不正な通信伝送を防止するため、Modbus RS485 ケーブルをバスセグメントの最初と最後で正確に終端処理します。

Proline 500 – デジタル変換器



A0029675

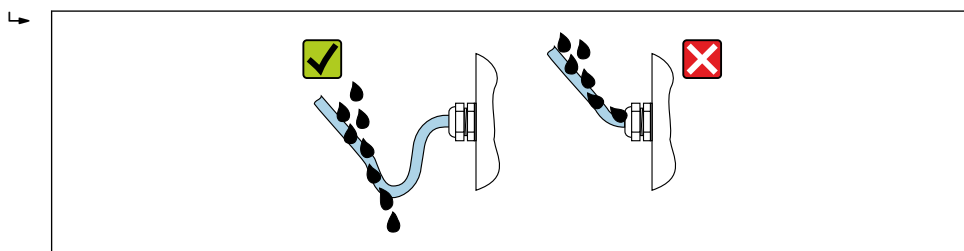
1. ハウジングカバーを開きます。
2. 表示モジュールを外します。
3. 端子部カバーを開きます。
4. DIP スイッチ番号 3 を ON に切り替えます。

6.7 保護等級の保証

本機器は、保護等級 IP66/67、Type 4X エンクロージャ のすべての要件を満たしています。

保護等級 IP66/67、Type 4X エンクロージャ を保証するため、電気接続の後、次の手順を実施してください。

1. ハウジングシールに汚れがなく、適切に取り付けられているか確認してください。
2. 必要に応じて、シールの乾燥、清掃、交換を行います。
3. ハウジングのネジやカバーをすべてしっかりと締め付けます。
4. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
5. 電纜口への水滴の侵入を防ぐため：
電纜口の手前でケーブルが下方に垂れるように配線してください（「ウォータータップ」）。



A0029278

6. 付属のケーブルグランドが使用されていない場合、ハウジングの保護は保証されません。したがって、ハウジング保護等級に対応するダミープラグと交換する必要があります。

6.7.1 保護等級 IP68、Type 6P エンクロージャ、「お客様による充填」オプション付き

バージョンに応じて、センサは保護等級 IP68、Type 6P エンクロージャのあらゆる要件を満たし、→ 図 183 分離型機器として使用することが可能です。

変換器の保護等級は常に IP66/67、Type 4X エンクロージャにしかならないため、変換器を適切に取り扱う必要があります。

「お客様による充填」オプション用の保護等級 IP68、Type 6P エンクロージャを保証するため、電気接続の後、次の手順を実施してください。

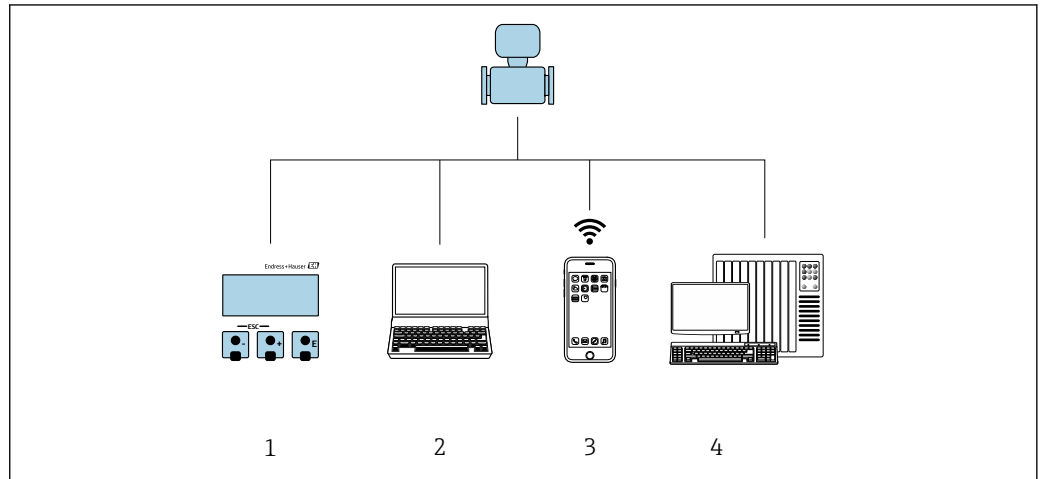
- 1. カバー底とハウジングサポート面の間の隙間がなくなるまで、ケーブルグランドをしっかりと締め付けます（トルク：2～3.5 Nm）。
- 2. ケーブルグランドのユニオンナットをしっかりと締め付けます。
- 3. 充填用樹脂を使用してフィールドハウジングを埋め込みます。
- 4. ハウジングシールに汚れがなく、適切に取り付けられているか確認してください。必要に応じて、シールの乾燥、清掃、交換を行います。
- 5. ハウジングのネジやカバーをすべて締め付けます（トルク：20～30 Nm）。

6.8 配線状況の確認

ケーブルあるいは機器に損傷はないか（外観検査）？	☐
保護接地が正しく行われているか？	
使用するケーブルが仕様を満たしているか？	☐
取り付けられたケーブルに適切なストレインリリーフがあるか？	☐
すべてのケーブルグランドが取り付けられ、しっかりと固定され、密閉されているか？ケーブル経路に「ウォータートラップ」があるか→ 図 47？	☐
端子の割当ては正しいか？	☐
未使用の電線管接続口にダミープラグが挿入されており、輸送用プラグがダミープラグに交換されているか？	

7 操作オプション

7.1 操作オプションの概要



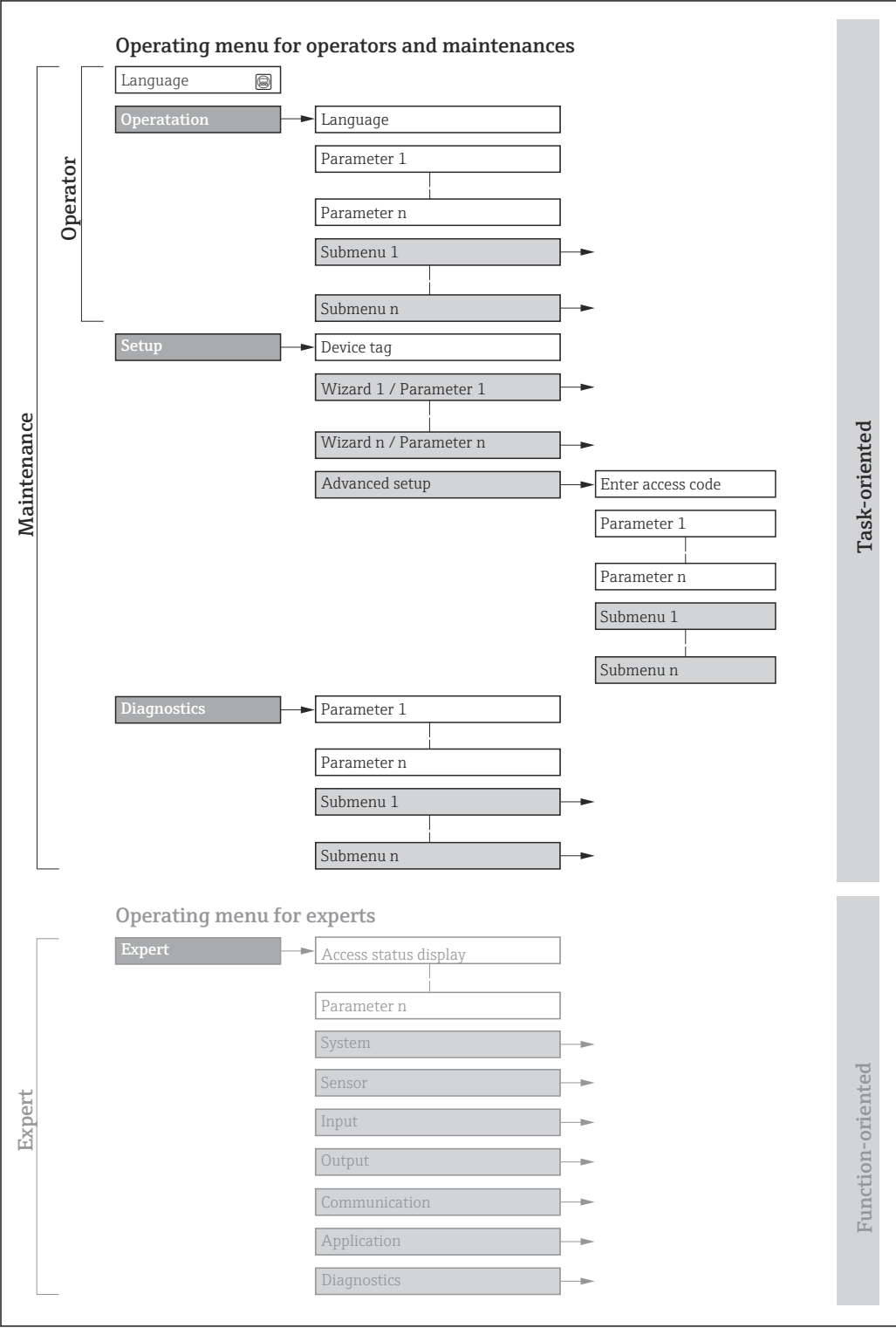
A0030213

- 1 表示モジュールによる現場操作
- 2 ウェブブラウザ（例：Internet Explorer）または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、AMS Device Manager、SIMATIC PDM）搭載のコンピュータ
- 3 SmartBlue アプリを搭載した携帯型ハンドヘルドターミナル
- 4 制御システム（例：PLC）

7.2 操作メニューの構成と機能

7.2.1 操作メニューの構成

 エキスパート用の操作メニューの概要については、機器に同梱されている機能説明書を参照してください。



 28 操作メニューの概要構成

A0018237-JA

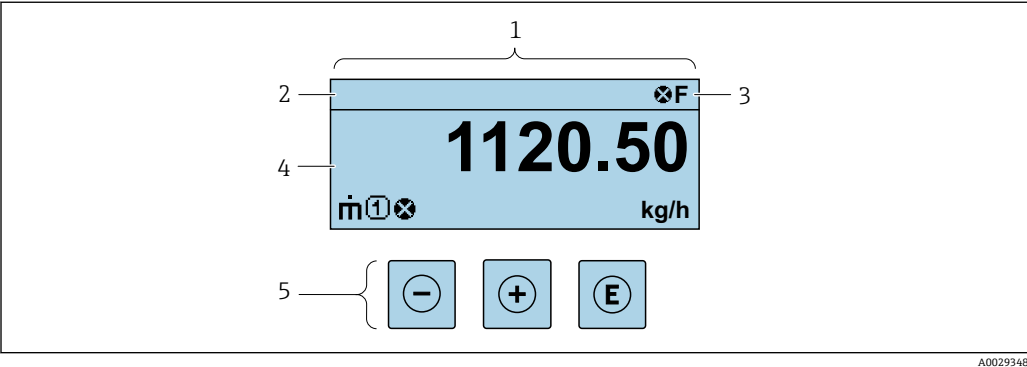
7.2.2 操作指針

操作メニューの個別の要素は、特定のユーザーの役割（例：オペレーター、メンテナンスなど）に割り当てられています。各ユーザーの役割には、機器ライフサイクル内の標準的な作業が含まれます。

メニュー/パラメータ		ユーザーの役割と作業	内容/意味
Language	タスク指向	「オペレータ」、「メンテナンス」の役割 運転中の作業： ■ 操作画面表示の設定 ■ 測定値の読み取り	■ 操作言語の設定 ■ Web サーバー操作言語の設定 ■ 積算計のリセットおよび制御
操作			■ 操作画面表示の設定（例：表示形式、ディスプレイのコントラスト） ■ 積算計のリセットおよび制御
設定		「メンテナンス」の役割 設定： ■ 測定の設定 ■ 入力および出力の設定 ■ 通信インタフェースの設定	迅速な設定用のウィザード： ■ システムの単位の設定 ■ I/O 設定の表示 ■ 入力の設定 ■ 出力の設定 ■ 操作画面表示の設定 ■ ローフローカットオフの設定 高度な設定 ■ より高度にカスタマイズされた測定の設定（特殊な測定条件に対応） ■ 積算計の設定 ■ WLAN の設定 ■ 管理（アクセスコード設定、機器リセット）
診断		「メンテナンス」の役割 トラブルシューティング： ■ プロセスおよび機器エラーの診断と解消 ■ 測定値シミュレーション	エラー検出、プロセスおよび機器エラー分析用のパラメータがすべて含まれます。 ■ 診断リスト 現在未処理の診断メッセージが最大 5 件含まれます。 ■ イベントログブック 発生したイベントメッセージが含まれます。 ■ 機器情報 機器識別用の情報が含まれます。 ■ 測定値 現在のすべての測定値が含まれます。 ■ データのログ サブメニュー（注文オプション「拡張 HistoROM」の場合） 測定値の保存と視覚化 ■ Heartbeat Technology 必要に応じて機器の機能をチェックし、検証結果が記録されます。 ■ シミュレーション 測定値または出力値のシミュレーションに使用
エキスパート	機能指向	機器の動作原理に関してより詳細な知識が要求される作業： ■ 各種条件下における測定の設定 ■ 各種条件下における測定の最適化 ■ 通信インタフェースの詳細設定 ■ 難しいケースにおけるエラー診断	すべての機器パラメータが含まれており、アクセスコードを使用して直接これらのパラメータにアクセスすることが可能です。メニュー構造は機器の機能ブロックに基づいています。 ■ システム 測定または測定値通信に関係しない、高次の機器パラメータがすべて含まれます。 ■ センサ 測定の設定 ■ 入力 ステータス入力の設定 ■ 出力 アナログ電流出力およびパルス/周波数/スイッチ出力の設定 ■ 通信 デジタル通信インタフェースおよび Web サーバーの設定 ■ アプリケーション 実際の測定を超える機能（例：積算計）の設定 ■ 診断 機器シミュレーションおよび Heartbeat Technology 用、プロセスおよび機器エラーの検出と分析

7.3 現場表示器を使用した操作メニューへのアクセス

7.3.1 操作画面表示



- 1 操作画面表示
- 2 機器のタグ
- 3 ステータスエリア
- 4 測定値の表示エリア（最大 4 行）
- 5 操作部 → 58

ステータスエリア

操作画面表示のステータスエリアの右上に、次のシンボルが表示されます。

- ステータス信号 → 145
 - F : エラー
 - C : 機能チェック
 - S : 仕様範囲外
 - M : メンテナンスが必要
- 診断時の動作 → 146
 - ☒ : アラーム
 - ⚠ : 警告
 - 🔒 : ロック（機器はハードウェアを介してロック）
 - ↔ : 通信（リモート操作を介した通信が有効）

表示エリア

表示エリアでは、各測定値の前に、説明を補足する特定のシンボルタイプが表示されます。

	測定変数	測定チャンネル番号	診断時の動作
	↓	↓	↓
例			

測定変数に対して診断イベントが発生している場合にのみ表示されます。

測定変数

シンボル	意味
	質量流量
	■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 自由空気吐出流量

$\dot{Q}$	熱流量
ρ	- 密度 - 基準密度
$\dot{P}$	エネルギー流量
v	流速
H	発熱量
ϑ	温度

 測定変数の数および形式は、**表示形式** パラメータ (→  105) で設定できます。

積算計

シンボル	意味
Σ	積算計  測定チャンネル番号は、3つの積算計のどれが表示されているかを示します。

出力

シンボル	意味
	出力  測定チャンネル番号は、出力のどれが表示されているかを示します。

入力

シンボル	意味
	ステータス入力

測定チャンネル番号

シンボル	意味
	測定チャンネル 1~4  測定チャンネル番号は、同じ測定変数の種類に対して1つ以上のチャンネルがある場合にのみ表示されます (例: 積算計 1~3)。

診断時の動作

シンボル	意味
	アラーム - 測定が中断します。 - 信号出力と積算計が設定されたアラーム状態になります。 - 診断メッセージが生成されます。
	警告 - 測定が再開します。 - 信号出力と積算計は影響を受けません。 - 診断メッセージが生成されます。

 診断時の動作は、診断イベントに付随するものであり、表示される測定変数に関係します。

7.3.2 ナビゲーション画面

サブメニューの場合

1

2

3

4

5

A0013993-JA

ウィザードの場合

1

2

3

4

5

A0041841-JA

1

2

3

4

5

ナビゲーション画面

現在位置までのナビゲーションパス

ステータスエリア

ナビゲーションの表示エリア

操作部 → 58

ナビゲーションパス

現在の位置に対するナビゲーションパスは、ナビゲーション画面の左上に表示され、以下の要素で構成されます。

- メニュー/サブメニュー (🔍) またはウィザード (🔧) の表示シンボル
- 間にある操作メニューレベルの省略記号 (/../)
- 現在のサブメニュー、ウィザードまたはパラメータの名前

	表示シンボル	省略シンボル	パラメータ
	↓	↓	↓
例	🔍	/../	表示

i メニューのアイコンの詳細については、「表示エリア」セクションを参照してください。→ 54

ステータスエリア

ナビゲーション画面のステータスエリアの右上端に、以下が表示されます。

- サブメニューの場合
 - パラメータへの直接アクセスコード (例：0022-1)
 - 診断イベントが発生している場合は、診断動作およびステータス信号
- ウィザードの場合
 - 診断イベントが発生している場合は、診断動作およびステータス信号

- i** 診断動作およびステータス信号に関する情報 → 145
- 直接アクセスコードの機能および入力に関する情報 → 60

表示エリア

メニュー

シンボル	意味
🔍	操作 表示位置： ■ メニューの「操作」選択の横 ■ 操作メニューのナビゲーションパスの左側

54

Endress+Hauser

	設定 表示位置： ■ メニューの「設定」選択の横 ■ 設定メニューのナビゲーションパスの左側
	診断 表示位置： ■ メニューの「診断」選択の横 ■ 診断メニューのナビゲーションパスの左側
	エキスパート 表示位置： ■ メニューの「エキスパート」選択の横 ■ エキスパートメニューのナビゲーションパスの左側

サブメニュー、ウィザード、パラメータ

シンボル	意味
	サブメニュー
	ウィザード
	ウィザード内のパラメータ  サブメニュー内のパラメータ用の表示シンボルはありません。

ロック

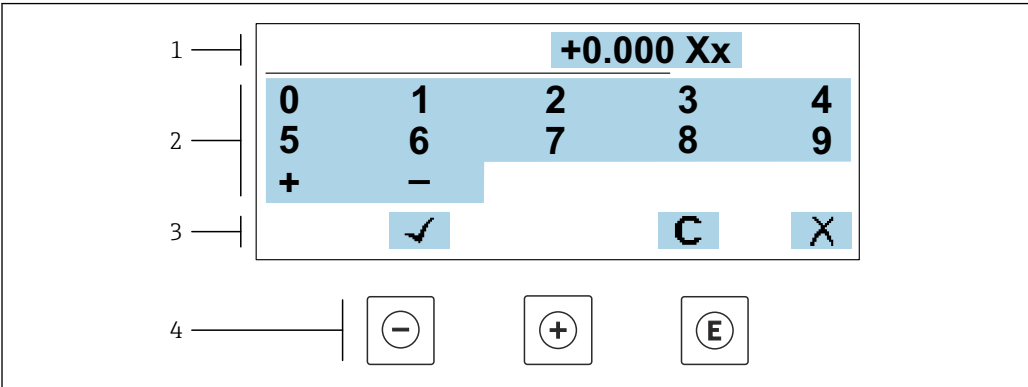
シンボル	意味
	パラメータのロック パラメータ名の前に表示される場合は、そのパラメータがロックされていることを示します。 ■ ユーザー固有のアクセスコードを使用 ■ ハードウェア書き込み保護スイッチを使用

ウィザード操作

シンボル	意味
	前のパラメータに切り替え
	パラメータ値を確定し、次のパラメータに切り替え
	パラメータの編集画面を開く

7.3.3 編集画面

数値エディタ

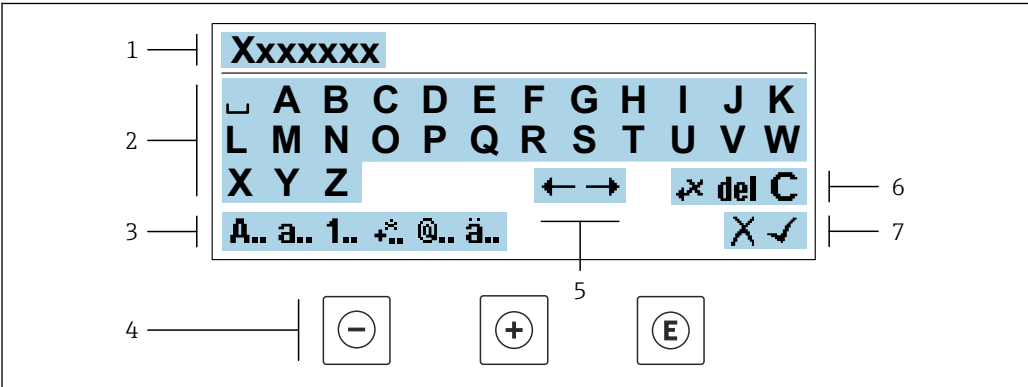


A0034250

図 29 パラメータの値入力用（例：リミット値）

- 1 入力値表示エリア
- 2 入力画面
- 3 入力値の確定、削除または拒否
- 4 操作部

テキストエディタ



A0034114

図 30 パラメータのテキスト入力用（例：機器のタグ）

- 1 入力値表示エリア
- 2 現在の入力画面
- 3 入力画面の変更
- 4 操作部
- 5 入力位置の移動
- 6 入力値の削除
- 7 入力値の拒否または確定

編集画面における操作部の使用方法

操作キー	意味
	- キー 入力位置を左に移動
	+ キー 入力位置を右に移動

操作キー	意味
	Enter キー ■ キーを短く押すと、選択が確定 ■ キーを2秒押すと、入力確定される
	エスケープキーの組み合わせ（キーを同時に押す） 変更内容を承認せずに、編集画面を閉じる

入力画面

シンボル	意味
A..	大文字
a..	小文字
1..	数字
+..	句読点および特殊文字：= + - * / ² / ₃ ¼ ½ ¾ () [] < > { }
@..	句読点および特殊文字：' " ` ^ . , ; : ? ! % μ ° € \$ £ ¥ \$ @ # / \ ~ & _
ä..	ウムラウト記号およびアクセント記号

データ入力値の管理

シンボル	意味
	入力位置の移動
	入力値の拒否
	入力値の確定
	入力位置の左隣の文字を削除
del	入力位置の右隣の文字を削除
C	入力した文字をすべて削除

7.3.4 操作部

操作キー	意味
	- キー メニュー、サブメニュー内 選択リスト内の選択バーを上方へ移動 ウィザードの場合 パラメータ値を確定し、前のパラメータに移動 テキストエディタおよび数値エディタの場合 入力位置を左に移動
	+ キー メニュー、サブメニュー内 選択リスト内の選択バーを下方へ移動 ウィザードの場合 パラメータ値を確定し、次のパラメータに移動 テキストエディタおよび数値エディタの場合 入力位置を右に移動
	Enter キー 操作画面表示の場合 キーを短く押すと、操作メニューが開く メニュー、サブメニュー内 ■ キーを短く押した場合： ■ 選択したメニュー、サブメニュー、またはパラメータが開く ■ ウィザードが開始する ■ ヘルプテキストを開いている場合は、パラメータのヘルプテキストを閉じる ■ パラメータの位置でキーを2秒押した場合： ■ パラメータ機能のヘルプテキストがある場合は、これが開く ウィザードの場合 パラメータの編集画面を開く テキストエディタおよび数値エディタの場合 ■ キーを短く押すと、選択が確定 ■ キーを2秒押すと、入力が確定される
	エスケープキーの組み合わせ（キーを同時に押す） メニュー、サブメニュー内 ■ キーを短く押した場合： ■ 現在のメニューレベルを終了し、より高次のレベルに移動 ■ ヘルプテキストを開いている場合は、パラメータのヘルプテキストを閉じる ■ キーを2秒押すと、操作画面表示に戻る（「ホーム画面」） ウィザードの場合 ウィザードを終了し、より高次のレベルに移動 テキストエディタおよび数値エディタの場合 変更内容を確定せずに、編集画面を閉じる
	- / Enter キーの組み合わせ（キーを同時に長押し） ■ キーパッドロックが有効な場合： ■ キーを3秒押すと、キーパッドロックが無効化される ■ キーパッドロックが無効な場合： ■ キーを3秒押すと、キーパッドロックを有効化するオプションを含むコンテキストメニューが開く

7.3.5 コンテキストメニューを開く

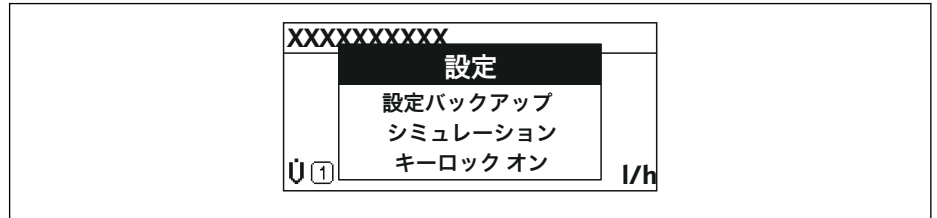
コンテキストメニューを使用すると、操作画面表示から簡単かつダイレクトに次のメニューを開くことができます。

- 設定
- データバックアップ
- シミュレーション

コンテキストメニューの呼び出しと終了

操作画面表示にします。

1.  および  キーを3秒以上押します。
↳ コンテキストメニューが開きます。



A0034608-JA

2.  +  を同時に押します。
↳ コンテキストメニューが閉じて、操作画面が表示されます。

コンテキストメニューによるメニューの呼び出し

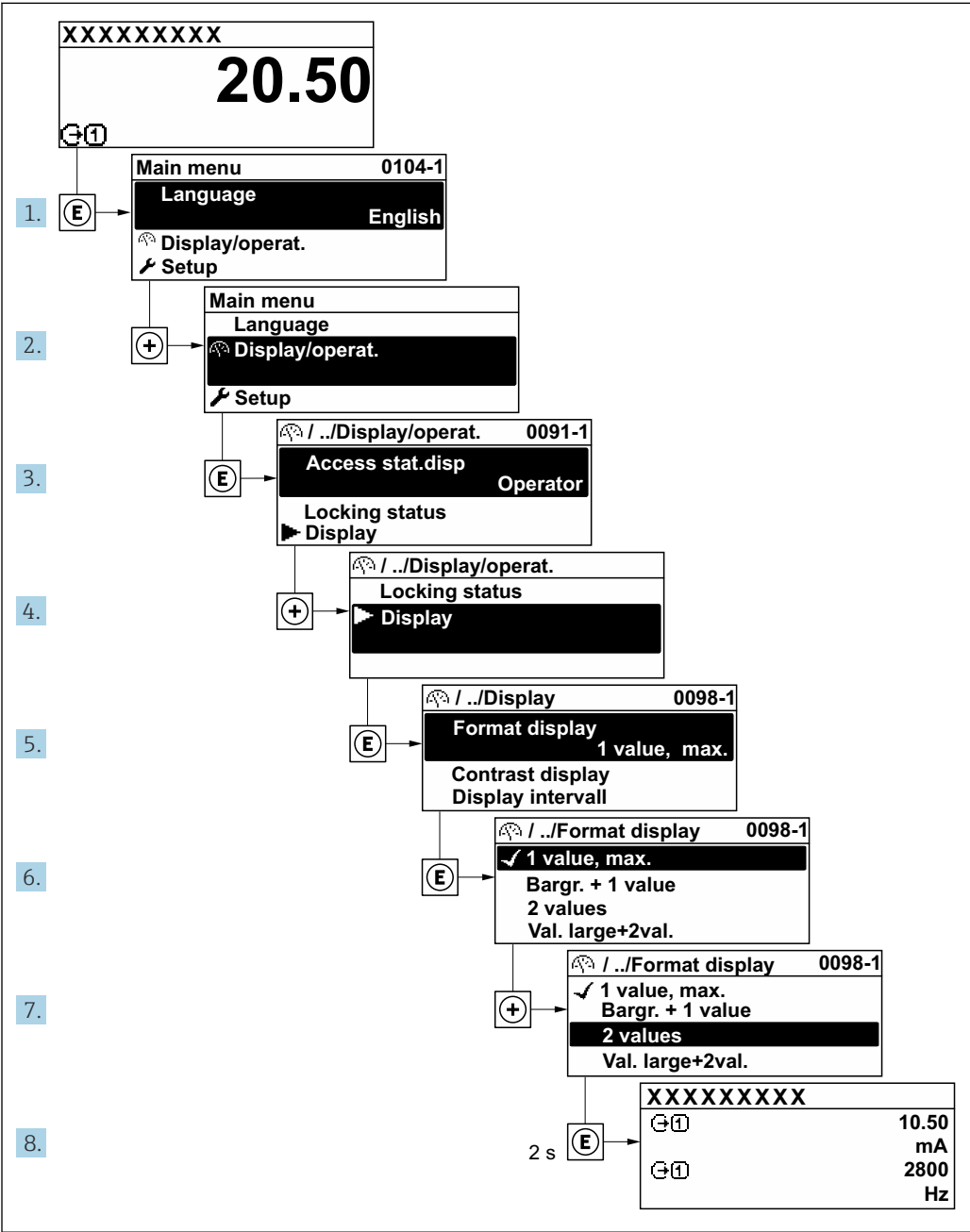
1. コンテキストメニューを開きます。
2.  を同時に押して、必要なメニューに移動します。
3.  を押して、選択を確定します。
↳ 選択したメニューが開きます。

7.3.6 ナビゲーションおよびリストから選択

各種の操作部を使用して、操作メニュー内をナビゲートすることができます。ナビゲーションパスはヘッダーの左側に表示されます。個々のメニューの前にアイコンが表示されます。このアイコンは、ナビゲーション中もヘッダーに表示されます。

 シンボルを含むナビゲーション画面および操作部の説明 →  54

例：表示する測定値の数を「2つの値」に設定



A0029562-JA

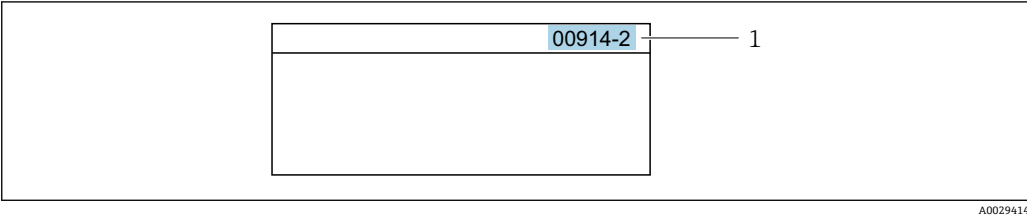
7.3.7 パラメータの直接呼び出し

各パラメータにパラメータ番号が割り当てられているため、現場表示器を介して直接パラメータにアクセスすることが可能です。このアクセスコードを直接アクセスパラメータに入力すると、必要なパラメータが直接呼び出されます。

ナビゲーションパス

エキスパート → 直接アクセス

直接アクセスコードは、5桁の数字（最大）とプロセス変数のチャンネルを識別するためのチャンネル番号から成ります（例：00914-2）。ナビゲーション画面では、これは選択したパラメータのヘッダーの右側に表示されます。



1 直接アクセスコード

- 直接アクセスコードを入力する際は、次のことに注意してください。
- 直接アクセスコードの最初のゼロは入力する必要がありません。
例：「00914」の代わりに「914」と入力
 - チャンネル番号を入力しなかった場合は、自動的にチャンネル 1 が開きます。
例：00914 を入力 → プロセス変数の割り当て パラメータ
 - 別のチャンネルに変えたい場合：直接アクセスコードで対応するチャンネル番号を入力します。
例：00914-2 を入力 → プロセス変数の割り当て パラメータ
-  個別のパラメータの直接アクセスコードについては、機器の機能説明書を参照してください。

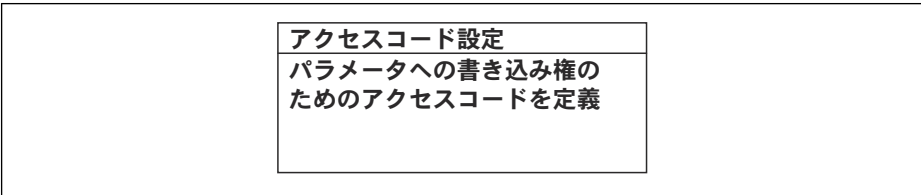
7.3.8 ヘルプテキストの呼び出し

一部のパラメータにはヘルプテキストが用意されており、ナビゲーション画面から呼び出すことが可能です。パラメータ機能の簡単な説明が記載されたヘルプテキストにより、迅速かつ安全な設定作業がサポートされます。

ヘルプテキストの呼び出しと終了

ナビゲーション画面で、パラメータの上に選択バーが表示されています。

1.  を 2 秒 間押します。
↳ 選択したパラメータのヘルプテキストが開きます。



31 例：「アクセスコード入力」のヘルプテキスト

2.  +  を同時に押します。
↳ ヘルプテキストが閉じます。

7.3.9 パラメータの変更

パラメータは数値エディタまたはテキストエディタを使用して変更できます。

- 数値エディタ：パラメータの値を変更（例：リミット値の指定）
- テキストエディタ：パラメータのテキストを入力（例：タグ名称）

入力した値が許容される範囲を超える場合は、メッセージが表示されます。

アクセスコード入力

入力値が無効または範囲外

Min:0

Max:9999

A0014049-JA

i 編集画面（テキストエディタと数値エディタで構成される）とシンボルの説明については → 図 56、操作部の説明については → 図 58 を参照してください。

7.3.10 ユーザーの役割と関連するアクセス権

ユーザー固有のアクセスコードをユーザーが設定した場合、「オペレータ」と「メンテナンス」の2つのユーザーの役割では、パラメータへの書き込みアクセスが異なります。これにより、現場表示器を介した機器設定の不正アクセスが保護されます。
→ 図 127

ユーザーの役割に対するアクセス権の設定

工場からの機器の納入時には、アクセスコードはまだ設定されていません。機器へのアクセス権（読み込み/書き込みアクセス権）には制約がなく、ユーザーの役割「メンテナンス」に対応します。

- ▶ アクセスコードを設定します。
 - ↳ ユーザーの役割「オペレータ」は、ユーザーの役割「メンテナンス」に追加して再設定されます。これら2つのユーザーの役割のアクセス権は異なります。

パラメータのアクセス権：ユーザーの役割「メンテナンス」

アクセスコードステータス	読み取りアクセス	書き込みアクセス
アクセスコードは未設定（工場設定）	✓	✓
アクセスコードの設定後	✓	✓ ¹⁾

1) アクセスコードの入力後、ユーザーには書き込みアクセス権のみが付与されます。

パラメータのアクセス権：ユーザーの役割「オペレータ」

アクセスコードステータス	読み取りアクセス	書き込みアクセス
アクセスコードの設定後	✓	- ¹⁾

1) アクセスコードが設定されても、特定のパラメータは常に変更可能です。これは、測定に影響を及ぼさないため、書き込み保護（アクセスコードによる書き込み保護）→ 図 127 から除外されます。

i ユーザーが現在、どのユーザーの役割でログインしているか、**アクセスステータス**パラメータに表示されます。ナビゲーションパス：操作 → アクセスステータス

7.3.11 アクセスコードによる書き込み保護の無効化

現場表示器のパラメータの前に 図 シンボルが表示されている場合、そのパラメータはユーザー固有のアクセスコードで書き込み保護されています。そのときは、現場操作による値の変更はできません。→ 図 127。

現場操作によるパラメータ書き込み保護は、各アクセスオプションを使用してユーザー固有のアクセスコードを**アクセスコード入力**パラメータ（→ 図 108）に入力することにより無効にできます。

1. 図 を押すと、アクセスコードの入力プロンプトが表示されます。

2. アクセスコードを入力します。

- ↳ パラメータの前の  シンボルが消えます。それまで書き込み保護されていたすべてのパラメータが再び使用可能になります。

7.3.12 キーパッドロックの有効化/無効化

キーパッドロックを使用すると、現場操作によるすべての操作メニューへのアクセスを防ぐことができます。その結果、操作メニューのナビゲーションまたはパラメータの変更はできなくなります。操作画面表示の測定値を読み取ることだけが可能です。

キーパッドロックのオン/オフはコンテキストメニューで行います。

キーパッドロックのオン

-  キーパッドロックが自動的にオンになります。
 - 機器が表示部を介して 1 分以上操作されなかった場合
 - 機器をリスタートした場合

キーロックを手動で有効化：

- 測定値表示の画面を表示します。
 -  および  キーを 3 秒以上押します。
 - ↳ コンテキストメニューが表示されます。
- コンテキストメニューで **キーロック オン** オプションを選択します。
 - ↳ キーパッドロックがオンになっています。

-  キーパッドロックが有効な場合に、操作メニューへのアクセスを試みると、**キーロック オン**というメッセージが表示されます。

キーパッドロックのオフ

- ▶ キーパッドロックがオンになっています。
 -  および  キーを 3 秒以上押します。
 - ↳ キーパッドロックがオフになります。

7.4 ウェブブラウザを使用した操作メニューへのアクセス

7.4.1 機能範囲

Web サーバーが内蔵されているため、ウェブブラウザサービスインタフェース (CDI-RJ45) または WLAN インタフェースを介して機器の操作および設定を行うことが可能です。操作メニューの構造は現場表示器と同じです。測定値に加え、機器のステータス情報も表示されるため、機器の状態を監視するために使用できます。また、機器データの管理およびネットワークパラメータの設定が可能です。

WLAN 接続の場合は WLAN インタフェース (オプションとして注文可能) 付きの機器が必要：「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション G「4 行表示、バックライト；タッチコントロール + WLAN」。機器はアクセスポイントとして機能し、コンピュータまたは携帯型ハンドヘルドターミナルによる通信を可能にします。

-  Web サーバーのその他の情報については、機器の個別説明書を参照してください。
(Verweisziel existiert nicht, aber @y.link.required=true) →  198

7.4.2 必須条件

コンピュータハードウェア

ハードウェア	インタフェース	
	CDI-RJ45	WLAN
インタフェース	コンピュータには RJ45 インタフェースが必要です。 ¹⁾	操作部には WLAN インタフェースが必要です。
接続	標準イーサネットケーブル	無線 LAN を介した接続
画面	推奨サイズ：≥12"（画面解像度に応じて）	

- 1) 推奨ケーブル：CAT5e、CAT6、または CAT7、シールドプラグ付き（例：YAMAICHI 製品；品番：Y-ConProfixPlug63/製品 ID：82-006660）

コンピュータソフトウェア

ソフトウェア	インタフェース	
	CDI-RJ45	WLAN
推奨のオペレーティングシステム	- Microsoft Windows 8 以上 - モバイルオペレーティングシステム： - iOS - Android  Microsoft Windows XP および Windows 7 に対応します。	
対応のウェブブラウザ	- Microsoft Internet Explorer 8 以上 - Microsoft Edge - Mozilla Firefox - Google Chrome - Safari	

コンピュータ設定

設定	インタフェース	
	CDI-RJ45	WLAN
ユーザー権限	TCP/IP およびプロキシサーバー設定用の適切なユーザー権限（例：管理者権限）が必要（例：IP アドレス、サブネットマスクなどの調整のため）。	
ウェブブラウザのプロキシサーバー設定	ウェブブラウザの「LAN 用にプロキシサーバーを使用する」設定を オフ にする必要があります。	
JavaScript	JavaScript を有効にしなければなりません。  JavaScript を有効にできない場合： ウェブブラウザのアドレスバーに <code>http://192.168.1.212/servlet/basic.html</code> を入力します。ウェブブラウザですべての機能を備えた簡易バージョンの操作メニューが起動します。  新しいファームウェアのバージョンをインストールする場合： 正確なデータ表示を可能にするため、ウェブブラウザの インターネットオプション で一時的なメモリ（キャッシュ）を消去します。	
ネットワーク接続	機器のアクティブなネットワーク接続のみを使用してください。	
	WLAN など、他のネットワーク接続はすべてオフにします。	他のネットワーク接続はすべてオフにします。

 接続の問題が発生した場合：→  141

機器：CDI-RJ45 サービスインターフェイス経由

機器	CDI-RJ45 サービスインターフェイス
機器	機器には RJ45 インターフェイスがあります。
Web サーバー	Web サーバーを有効にする必要があります。工場設定：オン  Web サーバーの有効化に関する情報 → 69

機器：WLAN インターフェイス経由

機器	WLAN インターフェイス
機器	機器には WLAN アンテナがあります。 ■ 内蔵の WLAN アンテナ付き変換器 ■ 外部の WLAN アンテナ付き変換器
Web サーバー	Web サーバーおよび WLAN を有効にする必要があります。工場設定：ON  Web サーバーの有効化に関する情報 → 69

7.4.3 接続の確立**サービスインタフェース（CDI-RJ45）経由****機器の準備****コンピュータのインターネットプロトコルの設定**

以下は、機器の Ethernet 初期設定です。

機器の IP アドレス：192.168.1.212（工場設定）

1. 機器の電源をオンにします。
2. 標準のイーサネットケーブルを使用してコンピュータを RJ45 プラグに接続します → 70。
3. 2 つ目のネットワークカードを使用しない場合は、ノートパソコンのすべてのアプリケーションを閉じます。
 ↳ E メール、SAP アプリケーション、インターネットまたは Windows Explorer などのアプリケーションにはインターネットまたはネットワーク接続が必要となります。
4. 開いているインターネットブラウザをすべて閉じます。
5. 表の記載に従って、インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティを設定します。

IP アドレス	192.168.1.XXX、XXX については 0、212、255 以外のすべての続き番号 → 例：192.168.1.213
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.212 または空欄

WLAN インタフェース経由**携帯端末のインターネットプロトコルの設定****注記**

設定中に WLAN 接続が中断した場合、行った設定が失われる可能性があります。

▶ 機器の設定中は WLAN 接続が切断されないように注意してください。

注記

ネットワーク競合が発生しないよう、以下に注意してください。

- ▶ 同じモバイル端末からサービスインタフェース (CDI-RJ45) と WLAN インタフェースを介して機器に同時にアクセスしないようにしてください。
- ▶ 1つのサービスインタフェース (CDI-RJ45 または WLAN インタフェース) のみを有効にしてください。
- ▶ 同時通信が必要な場合：たとえば、192.168.0.1 (WLAN インタフェース) と 192.168.1.212 (CDI-RJ45 サービスインタフェース) など、異なる IP アドレス範囲を設定します。

モバイル端末の準備

- ▶ モバイル端末の WLAN を有効にします。

モバイル端末から機器への WLAN 接続の確立

1. モバイル端末の WLAN 設定において：
SSID (例：EH_t-mass_500_A802000) を使用して機器を選択します。
2. 必要に応じて、WPA2 暗号方式を選択します。
3. パスワードを入力します。
工場出荷時の機器のシリアル番号 (例：L100A802000)
 - ↳ 表示モジュールの LED が点滅します。これにより、ウェブブラウザ、FieldCare または DeviceCare を使用して機器を操作できるようになります。



シリアル番号は銘板に明記されています。



WLAN ネットワークを測定点に安全かつ迅速に割り当てるためには、SSID 名称の変更を推奨します。WLAN ネットワークとして表示されるため、新しい SSID 名称を測定点に明確に割り当てることができます (例：タグ名)。

WLAN 接続の終了

- ▶ 機器の設定後：
モバイル端末と機器間の WLAN 接続を終了します。

ウェブブラウザを起動します。

1. コンピュータのウェブブラウザを起動します。

2. ウェブブラウザのアドレス行に Web サーバーの IP アドレス (192.168.1.212) を入力します。
➡ ログイン画面が表示されます。

The screenshot shows a web interface for logging in. At the top, there are fields for 'Device name:', 'Device tag:', and 'Status signal:' with a yellow warning icon. To the right, there are fields for 'Volume flow:', 'Mass flow:', and 'Conductivity:'. Below these is a 'Web server language' dropdown menu set to 'English'. In the center, there is a 'Login' box containing an 'Access status' field, a 'Maintenance' field, and an 'Enter access code' field with a yellow warning icon. A red 'Login' button is at the bottom right of the box. Below the login box is a grey 'Reset access code' button. Numbered callouts point to various elements: 1 points to the device icon, 2 to 'Device name:', 3 to 'Device tag:', 4 to 'Status signal:', 5 to the flow fields, 6 to the language dropdown, 7 to 'Maintenance', 8 to 'Enter access code', 9 to the 'Login' button, and 10 to the 'Reset access code' button.

A0029417

- 1 機器の図
- 2 機器名
- 3 デバイスのタグ (→ 82)
- 4 ステータス信号
- 5 現在の測定値
- 6 操作言語
- 7 ユーザーの役割
- 8 アクセスコード
- 9 ログイン
- 10 アクセスコードのリセット (→ 117)

 ログイン画面が表示されない、または、画面が不完全な場合 → 141

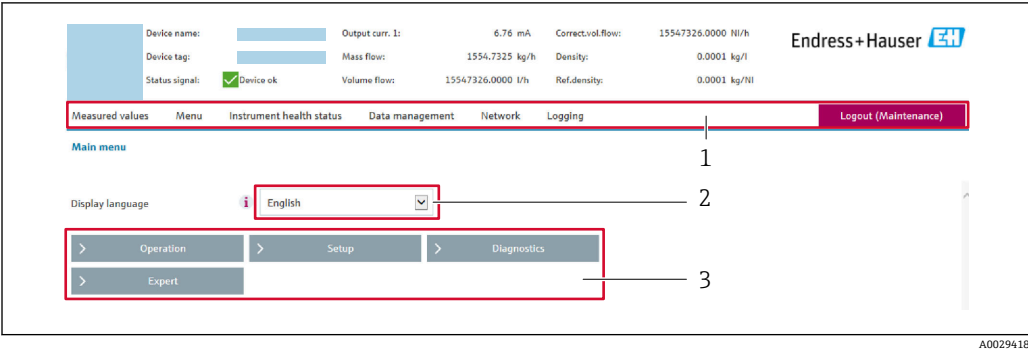
7.4.4 ログイン

- 1. 希望するウェブブラウザの操作言語を選択します。
- 2. ユーザー固有のアクセスコードを入力します。
- 3. **OK** を押して、入力内容を確定します。

アクセスコード	0000 (工場設定)、ユーザー側で変更可能
---------	------------------------

 10 分間何も操作されなかった場合、ウェブブラウザは自動的にログイン画面に戻ります。

7.4.5 ユーザーインターフェース



- 1 機能列
- 2 現場表示器の言語
- 3 ナビゲーションエリア

ヘッダー

以下の情報がヘッダーに表示されます。

- 機器名
- デバイスのタグ
- 機器ステータスとステータス信号 → 148
- 現在の計測値

機能列

機能	意味
測定値	機器の測定値を表示
メニュー	■ 機器から操作メニューへのアクセス ■ 操作メニューの構成は現場表示器のものと同じです。  操作メニューの構成の詳細については、機能説明書を参照してください。
機器ステータス	現在未処理の診断メッセージを優先度の高い順序で表示
データ管理	コンピュータと計測機器間のデータ交換： ■ 機器設定： ■ 機器からの読み込み設定 (XML 形式、設定の保存) ■ 機器への保存設定 (XML 形式、設定の復元) ■ ログブック - イベントログのエクスポート (.csv ファイル) ■ ドキュメント - ドキュメントのエクスポート： ■ バックアップデータ記録のエクスポート (.csv ファイル、測定点設定のドキュメント作成) ■ 検証レポート (PDF ファイル、「Heartbeat Verification」アプリケーションパッケージの場合のみ使用可能) ■ ファームウェアアップデート - ファームウェアバージョンの更新
ネットワーク	機器との接続確立に必要なすべてのパラメータの設定および確認 ■ ネットワーク設定 (例：IP アドレス、MAC アドレス) ■ 機器情報 (例：シリアル番号、ファームウェアのバージョン)
ログアウト	操作の終了とログイン画面の呼び出し

ナビゲーションエリア

メニュー、関連するサブメニュー、およびパラメータは、ナビゲーションエリアで選択できます。

作業エリア

選択した機能と関連するサブメニューに応じて、このエリアでさまざまな処理を行うことができます。

- パラメータ設定
- 測定値の読み取り
- ヘルプテキストの呼び出し
- アップロード/ダウンロードの開始

7.4.6 Web サーバーの無効化

機器の Web サーバーは、必要に応じて **Web サーバ 機能** パラメータを使用してオン/オフできます。

ナビゲーション

「エキスパート」メニュー → 通信 → Web サーバ

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択
Web サーバ 機能	Web サーバーのオン/オフを切り替えます。	■ オフ ■ HTML Off ■ オン

「Web サーバ 機能」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
オフ	■ Web サーバーは完全に無効になります。 ■ ポート 80 はロックされます。
オン	■ すべての Web サーバ機能を使用できます。 ■ JavaScript が使用されます。 ■ パスワードは暗号化された状態で伝送されます。 ■ パスワードの変更も暗号化された状態で伝送されます。

Web サーバーの有効化

Web サーバーが無効になった場合、以下の操作オプションを介した **Web サーバ 機能** パラメータを使用してのみ再び有効にすることが可能です。

- 現場表示器を介して
- 「FieldCare」操作ツールを使用
- 「DeviceCare」操作ツールを使用

7.4.7 ログアウト

 ログアウトする前に、必要に応じて、**データ管理機能**（機器のアップロード設定）を使用してデータバックアップを行ってください。

1. 機能列で **ログアウト** 入力項目を選択します。
↳ ホームページにログインボックスが表示されます。
2. ウェブブラウザを閉じます。
3. 必要なくなった場合：
インターネットプロトコル（TCP/IP）の変更したプロパティをリセットします。
→ 65.

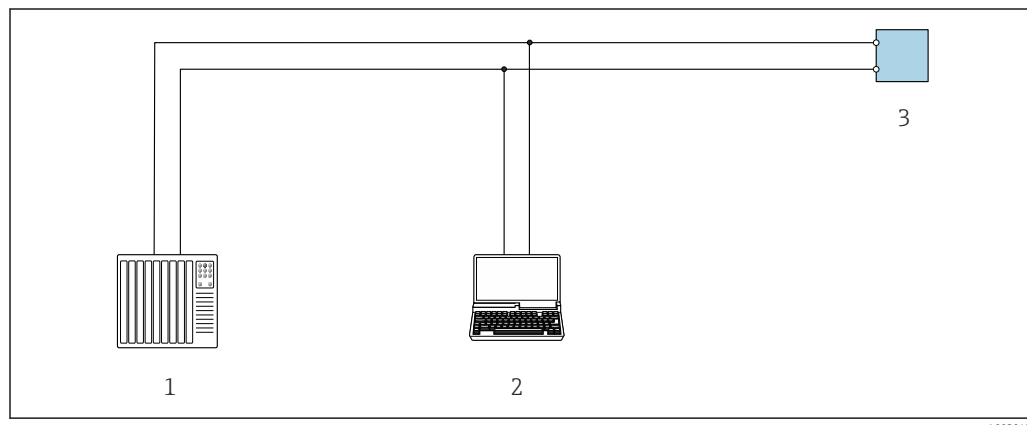
7.5 操作ツールによる操作メニューへのアクセス

操作ツールを使用する場合の操作メニュー構成は、現場表示器による操作と同じです。

7.5.1 操作ツールの接続

Modbus RS485 プロトコル経由

この通信インタフェースは Modbus RS485 出力対応の機器バージョンに装備されています。



A0029437

図 32 Modbus RS485 プロトコル経由のリモート操作オプション (アクティブ)

- 1 制御システム (例: PLC)
- 2 機器の内蔵 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ (例: Microsoft Edge) もしくは COM DTM「CDI Communication TCP/IP」または Modbus DTM を使用した操作ツール (例: FieldCare、DeviceCare) を搭載したコンピュータ
- 3 変換器

サービスインタフェース

サービスインタフェース (CDI-RJ45) 経由

ポイント・トゥー・ポイント接続を確立して、機器を現場で設定することが可能です。ハウジングを開いた状態で、機器のサービスインタフェース (CDI-RJ45) を介して直接接続が確立されます。

i 非危険場所で使用する RJ45 から M12 プラグ用のアダプタがオプションで用意されています。

「アクセサリ」のオーダーコード、オプション **NB**: 「アダプタ RJ45 M12 (サービスインタフェース)」

このアダプタにより、サービスインタフェース (CDI-RJ45) と電線口に付いている M12 プラグが接続されます。機器を開けることなく、M12 プラグを介してサービスインタフェースとの接続を確立することが可能です。

Proline 500 – デジタル変換器

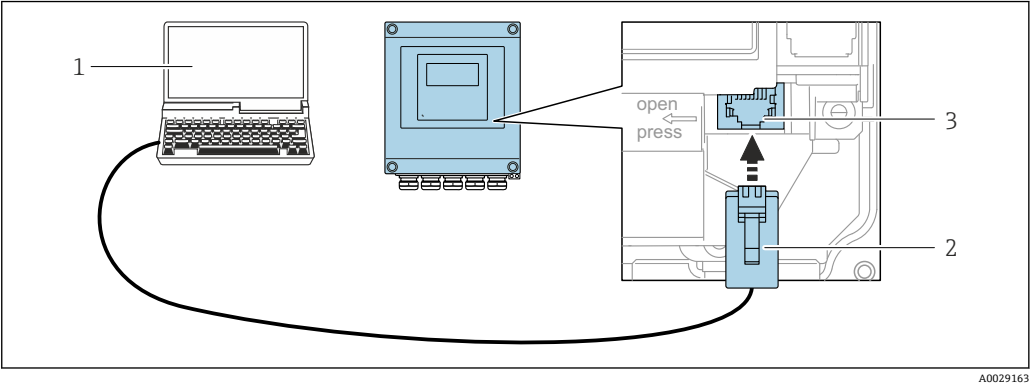


図 33 サービスインタフェース (CDI-RJ45) 経由の接続

- 1 機器の内蔵 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ (例: Microsoft Internet Explorer、Microsoft Edge) もしくは COM DTM 「CDI Communication TCP/IP」 または Modbus DTM を使用した操作ツール 「FieldCare」、 「DeviceCare」 を搭載したコンピュータ
- 2 RJ45 プラグの付いた標準イーサネット接続ケーブル
- 3 内蔵された Web サーバーへアクセス可能な機器のサービスインタフェース (CDI-RJ45)

WLAN インタフェース経由

以下の機器バージョンでは、オプションの WLAN インタフェースが使用できます。
「ディスプレイ; 操作」のオーダーコード、オプション G 「4 行表示、バックライト; タッチコントロール + WLAN」

機能	WLAN : IEEE 802.11 b/g (2.4 GHz)
暗号化	WPA2-PSK AES-128 (IEEE 802.11i に準拠)
設定可能な WLAN チャンネル	1~11
保護等級	IP67
使用可能なアンテナ	■ 内部アンテナ ■ 外部アンテナ (オプション) 設置場所の送受信状態が悪い場合 i 一度にアクティブになるアンテナは 1 つだけです。
範囲	■ 内部アンテナ: 標準 10 m (32 ft) ■ 外部アンテナ: 標準 50 m (164 ft)
材質 (外部アンテナ)	■ アンテナ: ASA プラスチック (アクリロニトリルスチレンアクリレート) およびニッケルめっき真鍮 ■ アダプタ: ステンレスおよびニッケルめっき真鍮 ■ ケーブル: ポリエチレン ■ プラグ: ニッケルめっき真鍮 ■ アングルブラケット: ステンレス

携帯端末のインターネットプロトコルの設定

注記

設定中に WLAN 接続が中断した場合、行った設定が失われる可能性があります。
▶ 機器の設定中は WLAN 接続が切断されないように注意してください。

注記

ネットワーク競合が発生しないよう、以下に注意してください。

- ▶ 同じモバイル端末からサービスインタフェース (CDI-RJ45) と WLAN インタフェースを介して機器に同時にアクセスしないようにしてください。
- ▶ 1つのサービスインタフェース (CDI-RJ45 または WLAN インタフェース) のみを有効にしてください。
- ▶ 同時通信が必要な場合：たとえば、192.168.0.1 (WLAN インタフェース) と 192.168.1.212 (CDI-RJ45 サービスインタフェース) など、異なる IP アドレス範囲を設定します。

モバイル端末の準備

- ▶ モバイル端末の WLAN を有効にします。

モバイル端末から機器への WLAN 接続の確立

1. モバイル端末の WLAN 設定において：
SSID (例：EH_t-mass_500_A802000) を使用して機器を選択します。
2. 必要に応じて、WPA2 暗号方式を選択します。
3. パスワードを入力します。
工場出荷時の機器のシリアル番号 (例：L100A802000)
 - ↳ 表示モジュールの LED が点滅します。これにより、ウェブブラウザ、FieldCare または DeviceCare を使用して機器を操作できるようになります。



シリアル番号は銘板に明記されています。



WLAN ネットワークを測定点に安全かつ迅速に割り当てるためには、SSID 名称の変更を推奨します。WLAN ネットワークとして表示されるため、新しい SSID 名称を測定点に明確に割り当てることができます (例：タグ名)。

WLAN 接続の終了

- ▶ 機器の設定後：
モバイル端末と機器間の WLAN 接続を終了します。

7.5.2 FieldCare

機能範囲

Endress+Hauser の FDT (Field Device Technology) ベースのプラントアセット管理ツールです。システム内のすべてのスマートフィールド機器を設定できるため、管理作業に役立ちます。ステータス情報を使用することにより、各機器のステータスと状態を容易かつ効果的にチェックできます。

アクセス方法：

- CDI-RJ45 サービスインタフェース → 70
- WLAN インタフェース → 71

標準機能：

- 伝送器パラメータ設定
- 機器データの読み込みおよび保存 (アップロード/ダウンロード)
- 測定点の文書化
- 測定値メモリ (ラインレコーダ) およびイベントログブックの視覚化



- 取扱説明書 BA00027S
- 取扱説明書 BA00059S

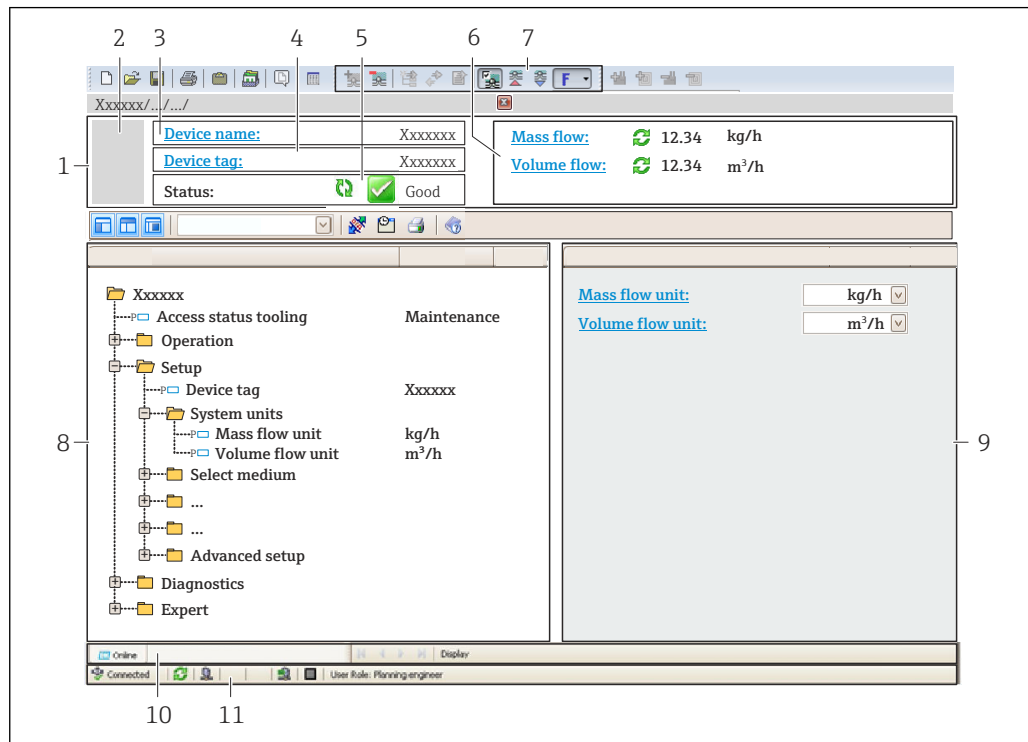


DD ファイルの入手先 → 74

接続の確立

- 取扱説明書 BA00027S
- 取扱説明書 BA00059S

ユーザーインターフェース



A0021051-JA

- 1 ヘッダー
- 2 機器の図
- 3 機器名
- 4 機器のタグ
- 5 ステータスエリアとステータス信号 → 148
- 6 現在の測定値の表示エリア
- 7 編集ツールバー：保存/読み込み、イベントリスト、文書作成などの追加機能を使用可能
- 8 ナビゲーションエリアと操作メニュー構成
- 9 作業エリア
- 10 アクションエリア
- 11 ステータスエリア

7.5.3 DeviceCare

機能範囲

Endress+Hauser 製フィールド機器の接続および設定用ツール。

専用の「DeviceCare」ツールを使用すると、Endress+Hauser 製フィールド機器を簡単に設定できます。デバイスタイプマネージャ (DTM) も併用すると、効率的で包括的なソリューションとして活用できます。

- イノベーションカタログ IN01047S

- DD ファイルの入手先 → 74

8 システム統合

8.1 DD ファイルの概要

8.1.1 現在の機器バージョンデータ

ファームウェアのバージョン	01.00.zz	■ 取扱説明書の表紙に明記 ■ 変換器の銘板に明記 → 14 ■ ファームウェアのバージョン パラメータ 診断 → 機器情報 → ファームウェアのバージョン
ファームウェアのバージョンのリリース日付	2020 年 7 月	---

 機器の各種ファームウェアバージョンの概要 → 159

8.1.2 操作ツール

以下の表には、個々の操作ツールに適した DD ファイルとそのファイルの入手先情報が記載されています。

操作ツール：サービスインタフェース (CDI) または Modbus インタフェース経由	DD ファイルの入手先
FieldCare	■ www.endress.com → ダウンロードエリア ■ USB メモリ (Endress+Hauser お問い合わせください) ■ DVD (Endress+Hauser お問い合わせください)
DeviceCare	■ www.endress.com → ダウンロードエリア ■ CD-ROM (Endress+Hauser お問い合わせください) ■ DVD (Endress+Hauser お問い合わせください)

8.2 旧型モデルとの互換性

機器を交換した場合、500 機器は、旧型モデルの とのプロセス変数および診断情報に関する Modbus レジスタの互換性をサポートします。オートメーションシステムでエンジニアリングパラメータを変更する必要はありません。

互換性のある Modbus レジスタ：プロセス変数

プロセス変数	互換性のある Modbus レジスタ
質量流量	2007
体積流量	2009 年
積算計 1	2610
積算計 2	2810
積算計 3	3010

互換性のある Modbus レジスタ：診断情報

診断情報	互換性のある Modbus レジスタ
診断コード (データ型：文字列)、例：F270	6821
診断番号 (データ型：整数)、例：270	6859



Modbus レジスタは互換性がありますが、診断番号は互換性ありません。新しい診断番号の概要→ 151

8.3 Modbus RS485 情報

8.3.1 機能コード

機能コードを使用して、Modbus プロトコルを介してどの読み込みまたは書き込み動作を実行するか決定します。本機器は以下の機能コードに対応しています。

コード	名称	内容	アプリケーション
03	保持レジスタの読み出し	マスタが機器から 1 つまたはそれ以上の Modbus レジスタを読み出します。 1 電文で最大 125 の連続レジスタを読み出しが可能：1 レジスタ = 2 バイト 機器は機能コード 03 と 04 を区別しません。そのため、これらのコードは同じ結果となります。	読み込みおよび書き込みアクセス権を伴う機器パラメータの読み込み 例： 質量流量の読み込み
04	入力レジスタの読み出し	マスタが機器から 1 つまたはそれ以上の Modbus レジスタを読み出します。 1 電文で最大 125 の連続レジスタの読み出しが可能：1 レジスタ = 2 バイト 機器は機能コード 03 と 04 を区別しません。そのため、これらのコードは同じ結果となります。	読み込みアクセス権を伴う機器パラメータの読み込み 例： 積算計の値の読み込み
06	シングルレジスタへの書き込み	マスタが機器の 1 つの Modbus レジスタに新しい値を書き込みます。 1 電文だけで連続したレジスタに書き込むためには、機能コード 16 を使用します。	1 つの機器パラメータのみに書き込み 例：積算計リセット
08	診断	マスタが機器との通信接続をチェックします。 以下の「診断コード」に対応： - サブファンクション 00 = クエリーデータ返信（ループバックテスト） - サブファンクション 02 = 診断レジスタ返信	

コード	名称	内容	アプリケーション
16	連続したレジスタへの書き込み	マスタが機器の複数の Modbus レジスタに新しい値を書き込みます。 1 電文で最大 120 の連続レジスタの書き込みが可能  必要な機器パラメータがグループ化されていない場合に、それでも 1 電文で処理したい場合は、Modbus データマップを使用します → 図 77。	連続した機器レジスタへの書き込み
23	連続したレジスタへの書き込みと読み込み	マスタが機器の最大 118 の Modbus レジスタに、1 電文で同時に読み込みと書き込みを行います。読み込みアクセスの 前 に書き込みアクセスが実行されます。	連続した機器レジスタへの書き込みと読み込み 例： ■ 質量流量の読み込み ■ 積算計リセット

 信号送信メッセージは、機能コード 06、16、23 の場合のみ許容されます。

8.3.2 レジスタ情報

 機器パラメータおよびそれぞれの Modbus レジスタ情報の概要については、機能説明書の「Modbus RS485 レジスタ情報」セクションを参照してください。

8.3.3 応答時間

Modbus マスタのリクエストテレグラムに対する機器応答時間：3～5 ms（標準）

8.3.4 データ型

本機器は以下のデータ型に対応しています。

浮動小数（浮動小数点数 IEEE 754） データ長 = 4 バイト（2 レジスタ）			
バイト 3	バイト 2	バイト 1	バイト 0
SEEEEEEE	EMMMMMMM	MMMMMMMM	MMMMMMMM
S = 符号、E = 指数、M = 仮数			

整数 データ長 = 2 バイト（1 レジスタ）	
バイト 1	バイト 0
最上位バイト（MSB）	最下位バイト（LSB）

文字列 データ長 = 機器パラメータに応じて異なる、例：データ長 = 18 バイト（9 レジスタ）の機器パラメータの表示				
バイト 17	バイト 16	...	バイト 1	バイト 0
最上位バイト（MSB）		...		最下位バイト（LSB）

8.3.5 バイト伝送順序

バイトのアドレス指定、つまり、バイトの伝送順序は、Modbus 仕様には規定されていません。そのため、設定中にマスタとスレーブの間でアドレス指定方法を調整または一

致させることが重要です。これは、**バイトオーダー** パラメータ を使用して機器で設定することが可能です。

バイトオーダー パラメータ で行った選択に応じて、バイトは伝送されます。

浮動小数点				
	順序			
オプション	1.	2.	3.	4.
1-0-3-2 *	バイト 1 (MMMMMMMM)	バイト 0 (MMMMMMMM)	バイト 3 (SEEEEEEE)	バイト 2 (EMMMMMMM)
0-1-2-3	バイト 0 (MMMMMMMM)	バイト 1 (MMMMMMMM)	バイト 2 (EMMMMMMM)	バイト 3 (SEEEEEEE)
2-3-0-1	バイト 2 (EMMMMMMM)	バイト 3 (SEEEEEEE)	バイト 0 (MMMMMMMM)	バイト 1 (MMMMMMMM)
3-2-1-0	バイト 3 (SEEEEEEE)	バイト 2 (EMMMMMMM)	バイト 1 (MMMMMMMM)	バイト 0 (MMMMMMMM)
* = 初期設定、S = 符号、E = 指数、M = 仮数				

整数		
	順序	
オプション	1.	2.
1-0-3-2 * 3-2-1-0	バイト 1 (MSB)	バイト 0 (LSB)
0-1-2-3 2-3-0-1	バイト 0 (LSB)	バイト 1 (MSB)
* = 初期設定、MSB = 最上位バイト、LSB = 最下位バイト		

文字列					
データ長 18 バイトの機器パラメータの例を表示					
	順序				
オプション	1.	2.	...	17.	18.
1-0-3-2 * 3-2-1-0	バイト 17 (MSB)	バイト 16	...	バイト 1	バイト 0 (LSB)
0-1-2-3 2-3-0-1	バイト 16	バイト 17 (MSB)	...	バイト 0 (LSB)	バイト 1
* = 初期設定、MSB = 最上位バイト、LSB = 最下位バイト					

8.3.6 Modbus データマップ

Modbus データマップの機能

本機器には Modbus データマップ（最大 16 の機器パラメータ用）という特別な記憶領域があるため、Modbus RS485 を介して個別の機器パラメータや連続する機器パラメータのグループだけでなく、複数の機器パラメータを呼び出すことが可能です。

機器パラメータのグループ化はフレキシブルで、Modbus マスタは 1 つの電文要求でデータブロック全体に同時に読み込む/書き込むことができます。

Modbus データマップの構成

- Modbus データマップは 2 つのデータセットから成ります。
- スキャンリスト：設定エリア
Modbus RS485 レジスタアドレスをリストに入力することにより、グループ化される機器パラメータをリスト内で設定します。
 - データエリア
スキャンリストに入力したレジスタアドレスを機器が周期的に読み出し、データエリアに関連する機器データ（値）を書き込みます。
-  機器パラメータおよびそれぞれの Modbus レジスタ情報の概要については、機能説明書の「Modbus RS485 レジスタ情報」セクションを参照してください。

スキャンリストの設定

設定するためには、グループ化する機器パラメータの Modbus RS485 レジスタアドレスがスキャンリストに入力されていなければなりません。スキャンリストの以下の基本要件に注意してください。

最大入力項目	16 × 機器パラメータ
対応する機器パラメータ	以下の特性を有するパラメータにのみ対応しています。 ■ アクセス型：読み込みまたは書き込みアクセス ■ データ型：浮動小数または整数

FieldCare または DeviceCare を介したスキャンリストの設定

機器の操作メニューを使用して実行します。
エキスパート → 通信 → Modbus データマップ → スキャンリストレジスタ 0～15

スキャンリスト	
番号	設定レジスタ
0	スキャンリストレジスタ 0
...	...
15	スキャンリストレジスタ 15

Modbus RS485 を介したスキャンリストの設定

レジスタアドレス 5001～5016 を使用して実行

スキャンリスト			
番号	Modbus RS485 レジスタ	データ型	設定レジスタ
0	5001	整数	スキャンリストレジスタ 0
...	...	整数	...
15	5016	整数	スキャンリストレジスタ 15

Modbus RS485 を介したデータの読み出し

Modbus マスタは、スキャンリストで設定した機器パラメータの現在値を読み出すために Modbus データマップのデータエリアにアクセスできます。

データエリアへのマスタアクセス	レジスタアドレス 5051～5081 経由
-----------------	-----------------------

データエリア				
機器パラメータ値	Modbus RS485 レジスタ		データ型*	アクセス**
	開始レジスタ	終了レジスタ (浮動小数のみ)		
スキャンリストレジスタ 0 の値	5051	5052	整数/浮動小数	読み込み/書き込み
スキャンリストレジスタ 1 の値	5053	5054	整数/浮動小数	読み込み/書き込み
スキャンリストレジスタ ... の値	...	...	...	...
スキャンリストレジスタ 15 の値	5081	5082	整数/浮動小数	読み込み/書き込み

* データ型は、スキャンリストに入力した機器パラメータに応じて異なります。

** データアクセスは、スキャンリストに入力した機器パラメータに応じて異なります。入力した機器パラメータが読み込み/書き込みアクセスに対応している場合は、同様にデータエリアを介してパラメータにアクセスすることが可能です。

9 設定

9.1 設置状況および配線状況の確認

機器の設定前：

▶ 設置状況の確認および配線状況の確認が正常に行われたか確認してください。

■ 「設置状況の確認」チェックリスト → 30

■ 「配線状況の確認」チェックリスト → 48

9.2 機器の電源投入

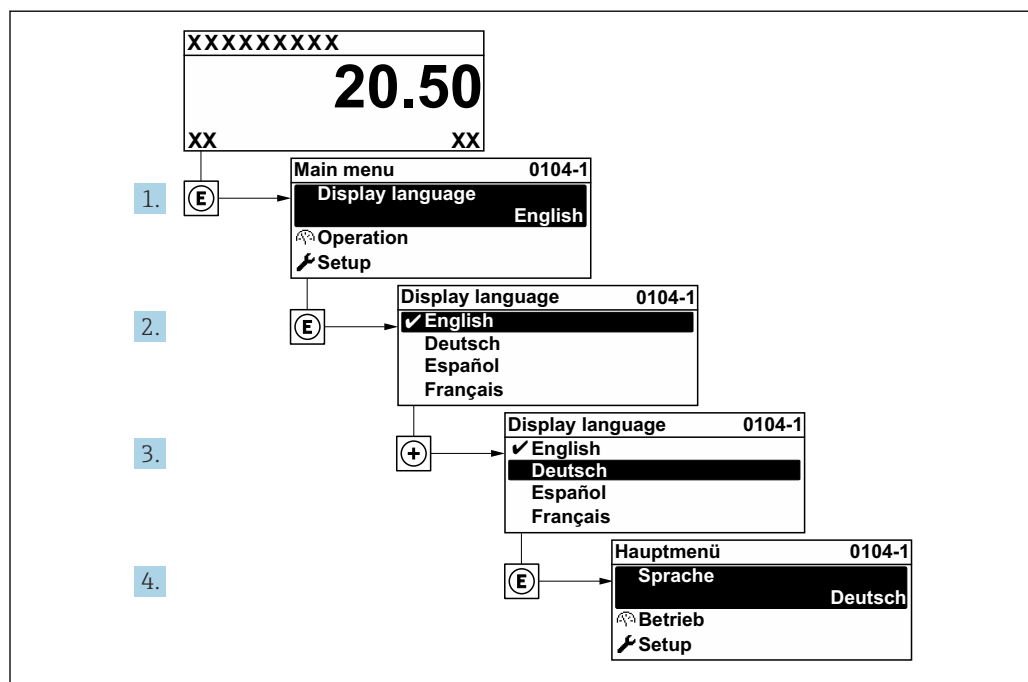
▶ 設置状況の確認および配線状況の確認が正常に完了したら、機器の電源を入れます。

↳ スタートアップの終了後、現場表示器は自動的にスタートアップ表示から操作画面に切り替わります。

i 現場表示器に何も表示されない、または診断メッセージが表示される場合は、「診断およびトラブルシューティング」セクションを参照してください → 141。

9.3 操作言語の設定

初期設定：英語または注文した地域の言語

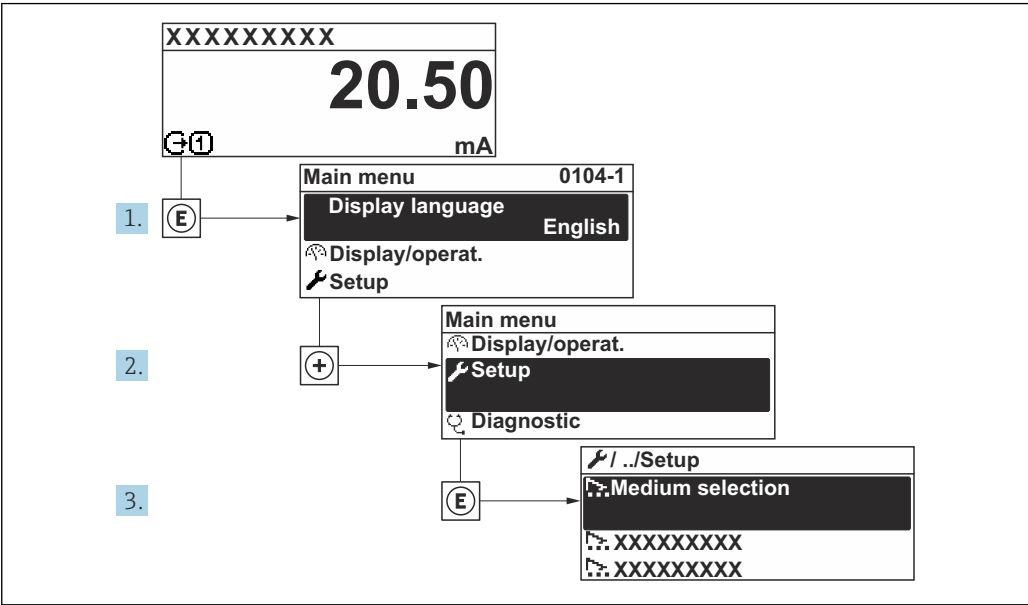


34 現場表示器の表示例

A0029420

9.4 機器の設定

設定メニュー（ガイドウィザード付き）には、通常運転に必要なパラメータがすべて含まれています。



A0032222-JA

35 「設定」メニューへのナビゲーション（現場表示器の表示例）

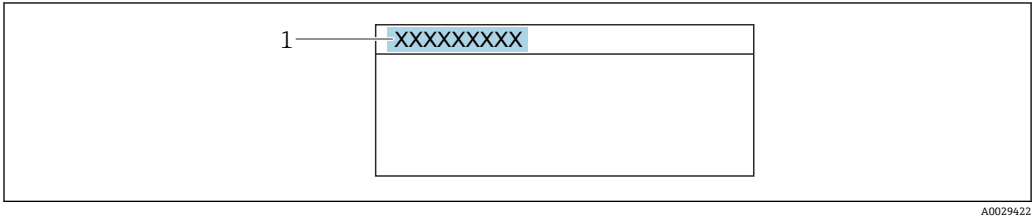
i サブメニューおよびパラメータの数は機器バージョンに応じて異なります。これらのサブメニューの一部のサブメニューおよびパラメータは取扱説明書に記載されていません。その代わりに機器の個別説明書に説明があります（「補足資料」）。

設定		
デバイスのタグ		
▶ 測定モード		→ 82
▶ 基準条件		→ 86
▶ センサの調整		→ 87
▶ システムの単位		→ 88
▶ 通信		→ 90
▶ I/O 設定		→ 91
▶ 電流入力 1～n		→ 92
▶ ステータス入力 1～n		
▶ 電流出力 1～n		→ 94

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n	→ 97
▶ リレー出力 1～n	→ 103
▶ 表示	→ 104
▶ ローフローカットオフ	→ 107
▶ 高度な設定	→ 108

9.4.1 タグ番号の設定

システム内で測定点を迅速に識別するために、**デバイスのタグ** パラメータを使用して一意の名称を入力し、工場設定を変更することができます。



36 タグ番号を含む操作画面表示のヘッダー

1 タグ番号

タグ番号を「FieldCare」操作ツールで入力します。→ 73

ナビゲーション
「設定」メニュー → デバイスのタグ

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザー入力
デバイスのタグ	測定ポイントの名称を入力。	最大 32 文字（英字、数字、または特殊文字（例：@, %, /）など）

9.4.2 測定モードの設定

測定物の特性は、**測定モード** サブメニューで設定できます。

ナビゲーション
「設定」メニュー → 測定モード

▶ 測定モード	
測定アプリケーション	→ 84
気体の種類選択	→ 84

気体	→ 84
気体の成分	→ 84
Mol% Air	→ 84
Mol% Ar	→ 84
Mol% C2H4	→ 85
Mol% C2H6	→ 85
Mol% C3H8	→ 85
Mol% CH4	→ 85
Mol% Cl2	→ 85
Mol% CO	→ 85
Mol% CO2	→ 85
Mol% H2	→ 85
Mol% H2O	→ 85
Mol% H2S	→ 85
Mol% HCl	→ 85
Mol% He	→ 85
Mol% Kr	→ 85
Mol% N2	→ 85
Mol% n-C4H10	→ 85
Mol% Ne	→ 85
Mol% NH3	→ 86
Mol% O2	→ 86
Mol% O3	→ 86
Mol% Xe	→ 86
特殊な気体の名称	→ 86

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
測定アプリケーション	–	測定アプリケーションを選択します。	■ 空気または圧縮空気 ■ 気体または混合気体 ■ エネルギー	–
気体の種類選択	–	測定する気体の種類を選択。	■ 単一の気体 ■ 混合気体 ■ 特殊な気体 *	–
気体	気体の種類選択 パラメータで 単一の気体 オプションが選択されていること。	測定する気体を選択してください。	■ 空気 ■ アンモニア NH₃ ■ アルゴン Ar ■ ブタン C₄H₁₀ ■ 二酸化炭素 CO₂ ■ 一酸化炭素 CO ■ 塩素 Cl₂ ■ エタン C₂H₆ ■ エチレン C₂H₄ ■ ヘリウム He ■ 水素 H₂ ■ 塩化水素 HCl ■ 硫化水素 H₂S ■ クリプトン Kr ■ メタン CH₄ ■ ネオン Ne ■ 窒素 N₂ ■ 酸素 O₂ ■ オゾン O₃ ■ プロパン C₃H₈ ■ キセノン Xe	–
気体の成分	気体の種類選択 パラメータで 混合気体 オプションが選択されていること。	測定する混合気体を選択します。	■ 空気 ■ 水素 H₂ ■ ヘリウム He ■ ネオン Ne ■ アルゴン Ar ■ クリプトン Kr ■ キセノン Xe ■ 窒素 N₂ ■ 酸素 O₂ ■ 塩素 Cl₂ ■ アンモニア NH₃ ■ 一酸化炭素 CO ■ 二酸化炭素 CO₂ ■ 硫化水素 H₂S ■ 塩化水素 HCl ■ メタン CH₄ ■ プロパン C₃H₈ ■ エタン C₂H₆ ■ ブタン C₄H₁₀ ■ エチレン C₂H₄ ■ 水 ■ オゾン O₃	–
Mol% Air	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 空気	0～100 %	–
Mol% Ar	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 Ar = アルゴン	0～100 %	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
Mol% C ₂ H ₄	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 C ₂ H ₄ = エチレン	0～100 %	–
Mol% C ₂ H ₆	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 C ₂ H ₆ = エタン	0～100 %	–
Mol% C ₃ H ₈	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 C ₃ H ₈ = プロパン	0～100 %	–
Mol% CH ₄	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 CH ₄ = メタン	0～100 %	–
Mol% Cl ₂	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 Cl ₂ = 塩素	0～100 %	–
Mol% CO	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 CO = 一酸化炭素	0～100 %	–
Mol% CO ₂	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 CO ₂ = 二酸化炭素	0～100 %	–
Mol% H ₂	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 H ₂ = 水素	0～100 %	–
Mol% H ₂ O	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 H ₂ O = 水	0～20 %	–
Mol% H ₂ S	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 H ₂ S = 硫化水素	0～100 %	–
Mol% HCl	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 HCl = 塩化水素	0～100 %	–
Mol% He	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 He = ヘリウム	0～100 %	–
Mol% Kr	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 Kr = クリプトン	0～100 %	–
Mol% N ₂	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 N ₂ = 窒素	0～100 %	–
Mol% n-C ₄ H ₁₀	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 n-C ₄ H ₁₀ = n-ブタン	0～100 %	–
Mol% Ne	–	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 Ne = ネオン	0～100 %	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
Mol% NH3	-	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 NH ₃ = アンモニア	0~100 %	-
Mol% O2	-	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 O ₂ = 酸素	0~100 %	-
Mol% O3	O2 との混合気体の場合、設定可能な比率： ■ O3 : 0~35 % ■ O2 : 65~100 % O3 単一気体の場合：100 %	混合気体を構成する気体の数を入力してください。	0~100 %	-
Mol% Xe	-	混合気体を構成する気体の数を入力してください。 Xe = キセノン	0~100 %	-
特殊な気体の名称	特殊な気体 オプションアプリケーションパッケージが使用できること	注文した気体の説明を示します。例、気体の名前または気体の成分。	-	-

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.4.3 基準条件の設定

基準の特性は、**基準条件** サブメニューで設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 基準条件

▶ 基準条件	
基準条件	→ 87
基準圧力	→ 87
基準温度	→ 87
自由空気吐出量 状態	→ 87
自由空気吐出量 圧力	→ 87
自由空気吐出量 温度	→ 87
基準燃焼温度	→ 87
基準燃焼温度	→ 87

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力
基準条件	–	基準体積流量の計算のために基準条件を選択。	■ 1013.25 mbara, 0 °C ■ 1013.25 mbara, 15 °C ■ 1013.25 mbara, 20 °C ■ 1013.25 mbara, 25 °C ■ 1000 mbara, 0 °C ■ 1000 mbara, 15 °C ■ 1000 mbara, 20 °C ■ 1000 mbara, 25 °C ■ 14.696 psia, 59 °F ■ 14.696 psia, 60 °F ■ ユーザ定義
基準圧力	基準条件 パラメータで その他 オプションが選択されていること。	基準体積流量の基準条件を選択します。	0～250 bar a
基準温度	–	基準密度計算のための基準温度を入力。	–200～450 °C
自由空気吐出量 状態	測定アプリケーション パラメータで 空気または圧縮空気 オプションが選択されていること。	FAD 密度計算のための基準条件の選択（FAD=自由空気吐出量）。	■ 1000 mbara, 20 °C ■ 14.504 psia, 68 °F ■ ユーザ定義
自由空気吐出量 圧力	■ 測定アプリケーション パラメータで空気または圧縮空気 オプションが選択されていること。 ■ 自由空気吐出量 状態 パラメータでユーザ定義 オプションが選択されていること。	自由空気吐出量(FAD)の密度計算に使用する基準圧力の入力。	0～250 bar a
自由空気吐出量 温度	■ 測定アプリケーション パラメータで空気または圧縮空気 オプションが選択されていること。 ■ 自由空気吐出量 状態 パラメータでユーザ定義 オプションが選択されていること。	自由空気吐出量 (FAD)の密度計算に使用する基準温度の入力。	–200～450 °C
基準燃焼温度	測定アプリケーション パラメータで エネルギー オプションが選択されていること。	天然ガスのエネルギーを計算するために基準の燃焼温度を入力してください。	–200～450 °C
基準燃焼温度	–	気体エネルギー値を計算するための基準温度（基準燃焼温度）を選択します。	■ 0 °C ■ 15 °C ■ 20 °C ■ 25 °C ■ 60 °F ■ ユーザ定義

9.4.4 センサの調整

挿入型の配管形状に関するパラメータは、**センサの調整** サブメニュー で設定できます。

 サブメニューおよびパラメータの数は機器バージョンに応じて異なります。これらのサブメニューの一部のサブメニューおよびパラメータは取扱説明書に記載されていません。その代わりに機器の個別説明書に説明があります（「補足資料」）。

▶ センサの調整

設置方向

→ 88

設置ファクタ

→ 88

配管形状

→ 88

配管内径	→ ⓘ 88
ダクトの高さ	→ ⓘ 88
ダクトの幅	→ ⓘ 88

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択 / ユーザー入力
設置方向	–	センサ上の矢印の方向と一致する流れ方向の符号を設定。	■ 正方向流量 ■ 逆方向の流量
設置ファクタ	–	設置状態に関連した測定誤差を補正するためのファクターを入力します。	0.01～100.0
配管形状	t-mass I でのみ使用可能	配管の形を選択してください。	■ 円筒 ■ 矩形
配管内径	t-mass I でのみ使用可能	円筒配管の内径を入力してください。	0.050～5 m
ダクトの高さ	t-mass I でのみ使用可能	ダクトの内側の高さを入力します。ダクトの高さとセンサのシャフトは平行です。	0.050～5 m
ダクトの幅	t-mass I でのみ使用可能	ダクトの内側の幅を入力します。ダクトの幅はセンサシャフトと垂直です。	0.050～5 m

9.4.5 システムの単位の設定

システムの単位 サブメニュー で、すべての測定値の単位を設定できます。

 サブメニューおよびパラメータの数は機器バージョンに応じて異なります。これらのサブメニューの一部のサブメニューおよびパラメータは取扱説明書に記載されていません。その代わりに機器の個別説明書に説明があります（「補足資料」）。

ナビゲーション

「設定」メニュー → システムの単位

▶ システムの単位	
質量流量単位	→ ⓘ 89
質量単位	→ ⓘ 89
基準体積流量単位	→ ⓘ 89
基準体積単位	→ ⓘ 89
体積流量単位	→ ⓘ 89
体積単位	→ ⓘ 89
体積流量単位 (自由空気吐出量)	→ ⓘ 89

体積単位 (自由空気吐出量)	→ 89
エネルギー流量の単位	→ 89
エネルギーの単位	→ 89
発熱量の単位	→ 90
密度単位	→ 90
温度の単位	→ 90
圧力単位	→ 90
速度の単位	→ 90
長さの単位	→ 90
日時フォーマット	→ 90

パラメータ概要 (簡単な説明付き)

パラメータ	説明	選択	工場出荷時設定
質量流量単位	質量流量の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ kg/h ■ lb/h
質量単位	質量の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ kg ■ lb
基準体積流量単位	基準体積流量の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ Nm ³ /h ■ Sft ³ /h
基準体積単位	基準体積の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ Nm ³ ■ Sft ³
体積流量単位	体積流量の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ l/h ■ ft ³ /h
体積単位	体積の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ ft ³ ■ m ³
体積流量単位 (自由空気吐出量)	自由空気吐出量 (FAD)の体積流量単位の選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ m ³ FAD/h ■ cf FAD/min
体積単位 (自由空気吐出量)	自由空気吐出量 (FAD)の体積単位の選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ m ³ FAD ■ cf FAD
エネルギー流量の単位	熱流量単位の選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ kW ■ Btu/h
エネルギーの単位	エネルギー単位の選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ kWh ■ Btu

パラメータ	説明	選択	工場出荷時設定
発熱量の単位	発熱量の単位の選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ kWh/Nm ³ ■ Btu/Sft ³
密度単位	密度単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ kg/m ³ ■ lb/ft ³
温度の単位	温度の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ °C ■ °F
圧力単位	プロセス圧力の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ bar a ■ psi a
速度の単位	速度の単位の選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ m/s ■ ft/s
長さの単位	呼び径の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ mm ■ in
日時フォーマット	日付と時間のフォーマットを選択します。	■ dd.mm.yy hh:mm ■ dd.mm.yy hh:mm am/pm ■ mm/dd/yy hh:mm ■ mm/dd/yy hh:mm am/pm	–

9.4.6 通信インターフェイスの設定

通信 サブメニュー を使用すると、通信インターフェイスの選択および設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション
「設定」メニュー → 通信

▶ 通信

バスアドレス

→ ⓘ 91

ボーレート

→ ⓘ 91

データ転送モード

→ ⓘ 91

パリティ

→ ⓘ 91

バイトオーダー

→ ⓘ 91

フェールセーフモード

→ ⓘ 91

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザー入力/選択
バスアドレス	デバイスアドレスの入力。	1~247
ボーレート	データの転送速度を定義。	■ 1200 BAUD ■ 2400 BAUD ■ 4800 BAUD ■ 9600 BAUD ■ 19200 BAUD ■ 38400 BAUD ■ 57600 BAUD ■ 115200 BAUD
データ転送モード	データ転送モードの選択。	■ ASCII ■ RTU
パリティ	パリティビットの選択。	候補リスト ASCII オプション： ■ 0 = 偶数 オプション ■ 1 = 奇数 オプション 候補リスト RTU オプション： ■ 0 = 偶数 オプション ■ 1 = 奇数 オプション ■ 2 = なし / 1 ストップビット オプション ■ 3 = なし / 2 ストップビット オプション
バイトオーダー	バイトの転送順を選択。	■ 0-1-2-3 ■ 3-2-1-0 ■ 1-0-3-2 ■ 2-3-0-1
フェールセーフモード	MODBUS 通信で診断メッセージが発生した時の測定値出力の動作を選択。 NaN ¹⁾	■ NaN の値 ■ 最後の有効値

1) 非数

9.4.7 I/O 設定の表示

I/O 設定 サブメニューを使用すると、I/O モジュールの設定が表示されるすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → I/O 設定

▶ I/O 設定		
I/O モジュール 1~n の端子番号		→ 92
I/O モジュール 1~n の情報		→ 92
I/O モジュール 1~n のタイプ		→ 92
I/O の設定を適用		→ 92
I/O の選択コード		→ 92

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス / 選択 / ユーザー入力
I/O モジュール 1～n の端子番号	I/O モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 26-27 (I/O 1) ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *
I/O モジュール 1～n の情報	接続された I/O モジュールの情報を表示。	■ 接続されていない ■ 無効 ■ 設定不可 ■ 設定可能 ■ MODBUS
I/O モジュール 1～n のタイプ	I/O モジュールのタイプを表示。	■ オフ ■ 電流出力 * ■ 電流入力 * ■ ステータス入力 * ■ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え * ■ リレー出力 *
I/O の設定を適用	自由に構成できる I/O モジュールの設定を適用する。	■ いいえ ■ はい
I/O の選択コード	I/O 構成を変更するためにコードを入力。	正の整数

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.4.8 電流入力の設定

「電流入力」ウィザードを使用すると、電流入力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 電流入力

▶ 電流入力 1～n

電流スパン

→ ⓘ 93

端子番号

→ ⓘ 93

信号モード

→ ⓘ 93

端子番号

→ ⓘ 93

0/4mA の値

→ ⓘ 93

20mA の値

→ ⓘ 93

フェールセーフモード

→ ⓘ 93

端子番号

→ ⓘ 93

フェールセーフの値	→ 93
端子番号	→ 93

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
電流スパン	–	プロセス値出力の電流範囲とアラーム信号の上限/下限レベルを選択。	4...20 mA (4...20.5 mA) 4...20 mA NAMUR (3.8...20.5 mA) 4...20 mA US (3.9...20.8 mA) 0...20 mA (0...20.5 mA)	国に応じて異なります： 4...20 mA NAMUR (3.8...20.5 mA) 4...20 mA US (3.9...20.8 mA)
端子番号	–	電流入力モジュールが使用している端子番号を表示。	- 未使用 24-25 (I/O 2) 22-23 (I/O 3) 20-21 (I/O 4)*	–
信号モード	本機器は保護タイプ Ex-i の危険場所で使用するための認定を取得していません。	電流入力の信号モードを選択。	- パッシブ - アクティブ*	アクティブ
0/4mA の値	–	4 mA の値を入力。	符号付き浮動小数点数	–
20mA の値	–	20 mA の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
フェールセーフモード	–	アラーム状態の時の入力値を定義します。	- アラーム - 最後の有効値 - 決めた値	–
フェールセーフの値	フェールセーフモード パラメータで 決めた値 オプションが選択されていること。	外部機器からの入力値がない場合に使用する値を入力してください。	符号付き浮動小数点数	–

* 表示はオーダーしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.4.9 ステータス入力の設定

ステータス入力 サブメニューを使用すると、ステータス入力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → ステータス入力 1～n

▶ ステータス入力 1～n	
ステータス入力の割り当て	→ 94
端子番号	→ 94
アクティブレベル	→ 94
端子番号	→ 94

ステータス入力の応答時間	→ 94
端子番号	→ 94

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力
ステータス入力の割り当て	ステータス入力に割り当てる機能を選択してください。	■ オフ ■ 積算計 1 のリセット ■ 積算計 2 のリセット ■ 積算計 3 のリセット ■ すべての積算計をリセット ■ 流量の強制ゼロ出力 ■ 気体グループ* ■ ゼロ点調整
端子番号	ステータス入力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3)* ■ 20-21 (I/O 4)*
アクティブレベル	指定した機能がトリガされる入力信号のレベルを定義してください。	■ ハイ ■ ロー
ステータス入力の応答時間	選択した機能をトリガするまでに入力信号のレベルが維持されなければいけない時間を定義。	5~200 ms

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.4.10 電流出力の設定

電流出力 ウィザードを使用すると、電流出力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 電流出力

▶ 電流出力 1~n	
電流出力 1~n の割り当て	→ 95
端子番号	→ 95
電流スパン	→ 95
端子番号	→ 95
信号モード	→ 95
端子番号	→ 95
0/4mA の値	→ 95
20mA の値	→ 96

固定電流値	→ 96
端子番号	→ 95
出力 1～n のダンピング	→ 96
フェールセーフモード	→ 96
端子番号	→ 95
故障時の電流値	→ 96
端子番号	→ 95

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
電流出力 1～n の割り当て	–	電流出力に割り当てるプロセス変数を選択。	■ オフ* ■ 温度 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 (自由空気吐出量)* ■ 体積流量 ■ エネルギー流量* ■ 熱流量* ■ 密度 ■ 流速 ■ 圧力 ■ 熱変化量計算用の 2 次側の温度* ■ 電気部内温度	–
端子番号	–	電流出力モジュールが使用している端子番号の表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4)*	–
電流スパン	–	プロセス値出力の電流範囲とアラーム信号の上限/下限レベルを選択。	■ 4...20 mA NAMUR (3.8...20.5 mA) ■ 4...20 mA US (3.9...20.8 mA) ■ 4...20 mA (4... 20.5 mA) ■ 0...20 mA (0... 20.5 mA) ■ 固定電流値	国に応じて異なります。 ■ 4...20 mA NAMUR (3.8...20.5 mA) ■ 4...20 mA US (3.9...20.8 mA)
信号モード	–	電流出力の信号モードを選択。	■ アクティブ* ■ パッシブ*	アクティブ
0/4mA の値	電流スパン パラメータ (→ 95) で、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 ■ 4...20 mA NAMUR (3.8...20.5 mA) ■ 4...20 mA US (3.9...20.8 mA) ■ 4...20 mA (4... 20.5 mA) ■ 0...20 mA (0... 20.5 mA)	4 mA の値を入力。	符号付き浮動小数点数	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
20mA の値	電流スパン パラメータ (→ 95)で、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 ■ 4...20 mA NAMUR (3.8...20.5 mA) ■ 4...20 mA US (3.9...20.8 mA) ■ 4...20 mA (4... 20.5 mA) ■ 0...20 mA (0... 20.5 mA)	20 mA の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
固定電流値	電流スパン パラメータ (→ 95)で 固定電流値 オプションが選択されていること。	電流出力固定値の設定。	0～22.5 mA	22.5 mA
出力 1～n のダンピング	電流出力 の割り当て パラメータ (→ 95)でプロセス変数が選択されており、 電流スパン パラメータ (→ 95)で、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 ■ 4...20 mA NAMUR (3.8...20.5 mA) ■ 4...20 mA US (3.9...20.8 mA) ■ 4...20 mA (4... 20.5 mA) ■ 0...20 mA (0... 20.5 mA)	測定値の変動に対する電流出力信号の応答時間を設定。	0.0～999.9 秒	–
フェールセーフモード	電流出力 の割り当て パラメータ (→ 95)でプロセス変数が選択されており、 電流スパン パラメータ (→ 95)で、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 ■ 4...20 mA NAMUR (3.8...20.5 mA) ■ 4...20 mA US (3.9...20.8 mA) ■ 4...20 mA (4... 20.5 mA) ■ 0...20 mA (0... 20.5 mA)	アラーム状態の時の出力動作の定義。	■ 最少 ■ 最大 ■ 最後の有効値 ■ 実際の値 ■ 決めた値	–
故障時の電流値	フェールセーフモード パラメータで 決めた値 オプションが選択されていること。	アラーム状態の電流出力値を設定。	0～22.5 mA	22.5 mA

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.4.11 パルス/周波数/スイッチ出力の設定

パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え ウィザード を使用すると、選択した出力タイプの設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n

動作モード

→ 97

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択
動作モード	出力をパルス、周波数またはスイッチ出力として定義。	■ パルス ■ 周波数 ■ スイッチ出力

パルス出力の設定

ナビゲーション

「設定」 メニュー → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n

動作モード

→ 98

端子番号

→ 98

信号モード

→ 98

パルス出力 の割り当て

→ 98

パルスの値

→ 98

パルス幅

→ 98

フェールセーフモード

→ 98

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
動作モード	-	出力をパルス、周波数またはスイッチ出力として定義。	■ パルス ■ 周波数 ■ スイッチ出力	-
端子番号	-	PFS (パルス/周波数/ステータス)出力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	-
信号モード	-	PFS 出力のために信号モードを選択して下さい。	■ パッシブ ■ アクティブ* ■ パッシブ NAMUR	-
パルス出力 1～n の割り当て	動作モード パラメータで パルス オプションが選択されていること。	パルス出力するプロセス変数の選択。	■ オフ ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 (自由空気吐出量) * ■ 体積流量 ■ エネルギー流量 * ■ 熱流量 *	-
パルスの値	動作モード パラメータ (→ 97)で パルス オプションが選択されており、 パルス出力の割り当て パラメータ (→ 98)でプロセス変数が選択されていること。	パルスが出力される測定値の量を入力してください。	正の浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
パルス幅	動作モード パラメータ (→ 97)で パルス オプションが選択されており、 パルス出力の割り当て パラメータ (→ 98)でプロセス変数が選択されていること。	パルス出力のパルス幅を定義。	0.05～2 000 ms	-
フェールセーフモード	動作モード パラメータ (→ 97)で パルス オプションが選択されており、 パルス出力の割り当て パラメータ (→ 98)でプロセス変数が選択されていること。	アラーム状態の時の出力動作の定義。	■ 実際の値 ■ パルスなし	-

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

周波数出力の設定

ナビゲーション

「設定」メニュー → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n

動作モード

→ 99

端子番号

→ 99

信号モード

→ 99

周波数出力割り当て	→ 𐀀 99
周波数の最小値	→ 𐀀 99
周波数の最大値	→ 𐀀 100
最小周波数の時測定する値	→ 𐀀 100
最大周波数の時の値	→ 𐀀 100
フェールセーフモード	→ 𐀀 100
フェール時の周波数	→ 𐀀 100
出力信号の反転	→ 𐀀 100

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
動作モード	–	出力をパルス、周波数またはスイッチ出力として定義。	■ パルス ■ 周波数 ■ スwitch出力	–
端子番号	–	PFS (パルス/周波数/ステータス)出力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	–
信号モード	–	PFS 出力のために信号モードを選択して下さい。	■ パッシブ ■ アクティブ* ■ パッシブ NAMUR	–
周波数出力割り当て	動作モード パラメータ (→ 𐀀 97)で、 周波数 オプションが選択されていること。	周波数出力するプロセス変数の選択。	■ オフ ■ 温度 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 (自由空気吐出量) * ■ 体積流量 ■ エネルギー流量 * ■ 熱流量 * ■ 密度 ■ 流速 ■ 圧力 ■ 熱変化量計算用の2次側の温度 * ■ 電気部内温度	–
周波数の最小値	動作モード パラメータ (→ 𐀀 97)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 𐀀 99)でプロセス変数が選択されていること。	最小周波数を入力。	0.0～10 000.0 Hz	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
周波数の最大値	動作モード パラメータ (→ 97)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 99)でプロセス変数が選択されていること。	最大周波数を入力。	0.0～10 000.0 Hz	–
最小周波数の時測定する値	動作モード パラメータ (→ 97)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 99)でプロセス変数が選択されていること。	最小周波数に対する測定値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
最大周波数の時の値	動作モード パラメータ (→ 97)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 99)でプロセス変数が選択されていること。	最大周波数に対する測定値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
フェールセーフモード	動作モード パラメータ (→ 97)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 99)でプロセス変数が選択されていること。	アラーム状態の時の出力動作の定義。	■ 実際の値 ■ 決めた値 ■ 0 Hz	–
フェール時の周波数	動作モード パラメータ (→ 97)で 周波数 オプションが選択されていること、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 99)でプロセス変数が選択されていること、および フェールセーフモード パラメータで 決めた値 オプションが選択されていること。	アラーム状態の時の周波数出力の値を入力。	0.0～12 500.0 Hz	–
出力信号の反転	–	出力信号の反転。	■ いいえ ■ はい	–

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

スイッチ出力の設定

ナビゲーション

「設定」メニュー → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n		
動作モード	→	📖 101
端子番号	→	📖 101
信号モード	→	📖 101
スイッチ出力機能	→	📖 102
診断動作の割り当て	→	📖 102
リミットの割り当て	→	📖 102
ステータスの割り当て	→	📖 102
スイッチオンの値	→	📖 102
スイッチオフの値	→	📖 102
スイッチオンの遅延	→	📖 102
スイッチオフの遅延	→	📖 103
フェールセーフモード	→	📖 103

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
動作モード	–	出力をパルス、周波数またはスイッチ出力として定義。	■ パルス ■ 周波数 ■ スイッチ出力	–
端子番号	–	PFS (パルス/周波数/ステータス)出力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	–
信号モード	–	PFS 出力のために信号モードを選択して下さい。	■ パッシブ ■ アクティブ* ■ パッシブ NAMUR	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
スイッチ出力機能	動作モード パラメータで スイッチ出力 オプションが選択されていること。	スイッチ出力の機能を選択。	■ オフ ■ オン ■ 診断動作 ■ リミット ■ 流れ方向チェック* ■ ステータス	–
診断動作の割り当て	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータで診断動作 オプションが選択されていること。	スイッチ出力の診断動作を選択。	■ アラーム ■ アラーム + 警告 ■ 警告	–
リミットの割り当て	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	リミット機能のためのプロセス変数の選択。	■ 温度 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 (自由空気吐出量)* ■ 体積流量 ■ エネルギー流量* ■ 熱流量* ■ 密度 ■ 流速 ■ 熱変化量計算用の2次側の温度* ■ 電気部内温度 ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3	–
ステータスの割り当て	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでステータス オプションが選択されていること。	スイッチ出力するデバイスステータスの選択。	■ オフ ■ ローフローカット ■ オフ	–
スイッチオンの値	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	スイッチオンポイントの測定値を入力します。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
スイッチオフの値	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	スイッチオフポイントの測定値を入力します。	符号付き浮動小数点数	–
スイッチオンの遅延	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	ステータス出力をスイッチオンする遅延時間を定義。	0.0～100.0 秒	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
スイッチオフの遅延	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	ステータス出力をスイッチオフする遅延時間を定義。	0.0～100.0 秒	–
フェールセーフモード	–	アラーム状態の時の出力動作の定義。	■ 実際のステータス ■ オープン ■ クローズ	–

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.4.12 リレー出力の設定

リレー出力 ウィザードを使用すると、リレー出力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → リレー出力 1～n

▶ リレー出力 1～n

端子番号	→ 104
リレーの機能	→ 104
リミットの割り当て	→ 104
診断動作の割り当て	→ 104
ステータスの割り当て	→ 104
スイッチオフの値	→ 104
スイッチオフの遅延	→ 104
スイッチオンの値	→ 104
スイッチオンの遅延	→ 104
フェールセーフモード	→ 104

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス / 選択 / ユーザー入力	工場出荷時設定
端子番号	–	リレー出力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4)	–
リレーの機能	–	リレー出力の機能を選択。	■ クローズ ■ オープン ■ 診断動作 ■ リミット ■ 流れ方向チェック ■ デジタル出力	–
リミットの割り当て	リレーの機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	リミット機能のためのプロセス変数の選択。	■ 温度 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 (自由空気吐出量)* ■ 体積流量 ■ エネルギー流量* ■ 熱流量* ■ 密度 ■ 流速 ■ 熱変化量計算用の2次側の温度* ■ 電気部内温度 ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3	–
診断動作の割り当て	リレーの機能 パラメータで診断動作 オプションが選択されていること。	スイッチ出力の診断動作を選択。	■ アラーム ■ アラーム + 警告 ■ 警告	–
ステータスの割り当て	リレーの機能 パラメータでデジタル出力 オプションが選択されていること。	スイッチ出力するデバイスステータスの選択。	■ オフ ■ ローフローカット ■ オフ	–
スイッチオフの値	リレーの機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	スイッチオフポイントの測定値を入力します。	符号付き浮動小数点数	–
スイッチオフの遅延	リレーの機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	ステータス出力をスイッチオフする遅延時間を定義。	0.0~100.0 秒	–
スイッチオンの値	リレーの機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	スイッチオンポイントの測定値を入力します。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
スイッチオンの遅延	リレーの機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	ステータス出力をスイッチオンする遅延時間を定義。	0.0~100.0 秒	–
フェールセーフモード	–	アラーム状態の時の出力動作の定義。	■ 実際のステータス ■ オープン ■ クローズ	–

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.4.13 現場表示器の設定

表示 ウィザードを使用すると、現場表示器の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 表示

▶ 表示		
表示形式		→ 105
1 の値表示		→ 105
バーグラフ 0%の値 1		→ 106
バーグラフ 100%の値 1		→ 106
2 の値表示		→ 106
3 の値表示		→ 106
バーグラフ 0%の値 3		→ 106
バーグラフ 100%の値 3		→ 106
4 の値表示		→ 106

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
表示形式	現場表示器があること。	測定値のディスプレイへの表示方法を選択。	■ 1つの値、最大サイズ ■ 1つの値 + バーグラフ ■ 2つの値 ■ 1つの値はサイズ大 + 2つの値 ■ 4つの値	–
1 の値表示	現場表示器があること。	ローカルディスプレイに表示する測定値を選択。	■ 温度 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 (自由空気吐出量)* ■ 体積流量 ■ エネルギー流量* ■ 熱流量* ■ 密度 ■ 流速 ■ 圧力 ■ 熱変化量計算用の2次側の温度* ■ 電気部内温度 ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 ■ 電流出力 1* ■ 電流出力 2* ■ 電流出力 3* ■ 電流出力 4*	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
バーグラフ 0%の値 1	現場表示器があること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	–
バーグラフ 100%の値 1	現場表示器があること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります
2 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 105) を参照してください。	–
3 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 105) を参照してください。	–
バーグラフ 0%の値 3	3 の値表示 パラメータで測定値が選択されていること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	–
バーグラフ 100%の値 3	3 の値表示 パラメータで選択していること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	–
4 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 105) を参照してください。	–
5 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 105) を参照してください。	–
6 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 105) を参照してください。	–
7 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 105) を参照してください。	–
8 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 105) を参照してください。	–

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.4.14 ローフローカットオフの設定

ローフローカットオフ ウィザードを使用すると、ローフローカットオフの設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → ローフローカットオフ

▶ ローフローカットオフ

プロセス変数の割り当て

→ 107

ローフローカットオフ オンの値

→ 107

ローフローカットオフ オフの値

→ 107

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
プロセス変数の割り当て	–	ロー フロー カット オフに割り当てるプロセス変数を選択。	■ オフ ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 (自由空気吐出量)*	–
ローフローカットオフ オンの値	プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 107)でプロセス変数が選択されていること。	ロー フロー カット オフがオンになる値を入力。	正の浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
ローフローカットオフ オフの値	プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 107)で、プロセス変数が選択されていること。	ロー フロー カット オフをオフにする値を入力。	0～100.0 %	–

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.5 高度な設定

高度な設定 サブメニューとそのサブメニューには、特定の設定に必要なパラメータが含まれています。

「高度な設定」 サブメニュー へのナビゲーション

i サブメニューおよびパラメータの数は機器バージョンに応じて異なります。これらのサブメニューの一部のサブメニューおよびパラメータは取扱説明書に記載されていません。その代わりに機器の個別説明書に説明があります（「補足資料」）。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定

▶ 高度な設定		
アクセスコード入力		→ ⓘ 108
▶ 積算計 1～n		→ ⓘ 108
▶ 表示		→ ⓘ 110
▶ WLAN 設定		→ ⓘ 112
▶ 設定のバックアップ		→ ⓘ 114
▶ 管理		→ ⓘ 116

9.5.1 アクセスコードの入力のためのパラメータを使用

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザー入力
アクセスコード入力	書き込み禁止を解除するためにアクセスコードを入力。	数字、英字、特殊文字から成る最大 16 桁の文字列

9.5.2 積算計の設定

「積算計 1～n」 サブメニュー で個別の積算計を設定できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → 積算計 1～n

▶ 積算計 1～n		
プロセス変数の割り当て		→ ⓘ 109
積算計の単位 1～n		→ ⓘ 109

積算計動作モード	→ 109
フェールセーフモード	→ 109
気体を割り当てる	→ 109

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択	工場出荷時設定
プロセス変数の割り当て	–	積算計に割り当てるプロセス変数を選択。	■ オフ ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 (自由空気吐出量)* ■ 体積流量 ■ エネルギー流量* ■ 熱流量*	–
積算計の単位 1～n	積算計 1～n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 109) でプロセス変数が選択されていること。	積算計の単位を選択。	単位の選択リスト	–
積算計動作モード	積算計 1～n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 109) でプロセス変数が選択されていること。	積算計の計算モードを選択。	■ 正味流量の積算 ■ 正方向流量の積算 ■ 逆方向流量の積算	–
フェールセーフモード	積算計 1～n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 109) でプロセス変数が選択されていること。	アラーム状態の積算計の出力を選択。	■ 停止 ■ 実際の値 ■ 最後の有効値	–
気体を割り当てる（「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EV「第 2 気体グループ」の場合のみ）	–	積算計が使う気体を選択します。この気体はそれが有効な時のみ積算されます。（“有効な気体”パラメータ）。	■ 両方の気体 ■ 気体 ■ 2 番目の気体	■ 両方の気体 オプション（「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EV「第 2 気体グループ」の場合のみ） ■ 気体

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.5.3 表示の追加設定

表示 サブメニューを使用して、現場表示器の設定に関するすべてのパラメータを設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 表示

▶ 表示		
表示形式	→	📖 111
1 の値表示	→	📖 111
バーグラフ 0%の値 1	→	📖 111
バーグラフ 100%の値 1	→	📖 111
小数点桁数 1	→	📖 111
2 の値表示	→	📖 111
小数点桁数 2	→	📖 111
3 の値表示	→	📖 111
バーグラフ 0%の値 3	→	📖 111
バーグラフ 100%の値 3	→	📖 111
小数点桁数 3	→	📖 111
4 の値表示	→	📖 112
小数点桁数 4	→	📖 112
Display language	→	📖 112
表示間隔	→	📖 112
表示のダンピング	→	📖 112
ヘッダー	→	📖 112
ヘッダーテキスト	→	📖 112
区切り記号	→	📖 112
バックライト	→	📖 112

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
表示形式	現場表示器があること。	測定値のディスプレイへの表示方法を選択。	■ 1つの値、最大サイズ ■ 1つの値 + バーグラフ ■ 2つの値 ■ 1つの値はサイズ大 + 2つの値 ■ 4つの値	-
1の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	■ 温度 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 (自由空気吐出量)* ■ 体積流量 ■ エネルギー流量* ■ 熱流量* ■ 密度 ■ 流速 ■ 圧力 ■ 熱変化量計算用の2次側の温度* ■ 電気部内温度 ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 ■ 電流出力 1* ■ 電流出力 2* ■ 電流出力 3* ■ 電流出力 4*	-
バーグラフ 0%の値 1	現場表示器があること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	-
バーグラフ 100%の値 1	現場表示器があること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります
小数点桁数 1	1の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ x ■ x.x ■ x.xx ■ x.xxx ■ x.xxxx	-
2の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1の値表示 パラメータ (→ 105) を参照してください。	-
小数点桁数 2	2の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ x ■ x.x ■ x.xx ■ x.xxx ■ x.xxxx	-
3の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1の値表示 パラメータ (→ 105) を参照してください。	-
バーグラフ 0%の値 3	3の値表示 パラメータで測定値が選択されていること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	-
バーグラフ 100%の値 3	3の値表示 パラメータで選択していること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	-
小数点桁数 3	3の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ x ■ x.x ■ x.xx ■ x.xxx ■ x.xxxx	-

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
4 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 105) を参照してください。	–
小数点桁数 4	4 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ x ■ x.x ■ x.xx ■ x.xxx ■ x.xxxx	–
Display language	現場表示器があること。	表示言語を設定。	■ English ■ Deutsch ■ Français ■ Español ■ Italiano ■ Nederlands ■ Portuguesa ■ Polski ■ русский язык (Russian) ■ Svenska ■ Türkçe ■ 中文 (Chinese) ■ 日本語 (Japanese) ■ 한국어 (Korean) ■ tiếng Việt (Vietnamese) ■ čeština (Czech)	English (または、注文した言語を機器に工場設定)
表示間隔	現場表示器があること。	測定値の切り替え表示の時に測定値を表示する時間を設定。	1～10 秒	–
表示のダンピング	現場表示器があること。	測定値の変動に対する表示の応答時間を設定。	0.0～999.9 秒	–
ヘッダー	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイのヘッダーの内容を選択。	■ デバイスのタグ ■ フリーテキスト	–
ヘッダーテキスト	ヘッダー パラメータで フリーテキスト オプションが選択されていること。	ディスプレイのヘッダーのテキストを入力。	最大 12 文字 (英字、数字、または特殊文字 (例: @, %, /) など)	–
区切り記号	現場表示器があること。	数値表示の桁区切り記号を選択。	■ . (点) ■ , (コンマ)	. (点)
バックライト	以下の条件の 1 つを満たしていること: ■ 「ディスプレイ; 操作」のオーダーコード、オプション F 「4 行表示、バックライト; タッチコントロール」 ■ 「ディスプレイ; 操作」のオーダーコード、オプション G 「4 行表示、バックライト; タッチコントロール +WLAN」	ローカル ディスプレイのバックライトのオンとオフを切り替え。	■ 無効 ■ 有効	–

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.5.4 WLAN 設定

WLAN Settings サブメニューを使用すると、WLAN の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → WLAN 設定

▶ WLAN 設定		
WLAN		→ 113
WLAN モード		→ 113
SSID 名		→ 113
ネットワークセキュリティ		→ 114
セキュリティ証明書		→ 114
ユーザ名		→ 114
WLAN パスワード		→ 114
WLAN IP アドレス		→ 114
WLAN の MAC アドレス		→ 114
WLAN のパスワード		→ 114
SSID の設定		→ 114
SSID 名		→ 114
接続の状態		→ 114
受信信号強度		→ 114

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
WLAN	–	WLAN をオン/オフします。	■ 無効 ■ 有効	–
WLAN モード	–	WLAN のモードを選択。	■ WLAN アクセスポイント ■ WLAN クライアント	–
SSID 名	クライアントが有効になっていること。	ユーザ定義の SSID 名（最大 32 文字）を入力。	–	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
ネットワークセキュリティ	-	WLAN ネットワークのセキュリティタイプを選択。	■ 保護されない ■ WPA2-PSK ■ EAP-PEAP with MSCHAPv2 * ■ EAP-PEAP MSCHAPv2 no server authentic. * ■ EAP-TLS *	-
セキュリティ証明書	-	セキュリティ設定の選択とこれらの設定のダウンロードメニュー データ管理 > セキュリティ > WLAN から。	■ Trusted issuer certificate ■ 機器認証 ■ Device private key	-
ユーザ名	-	ユーザ名を入力。	-	-
WLAN パスワード	-	WLAN のパスワードを入力。	-	-
WLAN IP アドレス	-	機器の WLAN インタフェースの IP アドレスを入力。	4 オクテット : 0 ~ 255 (特定のオクテットにおいて)	-
WLAN の MAC アドレス	-	機器の WLAN インタフェースの MAC アドレスを入力します。	英字と数字から成る一意的な 12 桁の文字列	各機器に個別のアドレスが付与されます。
WLAN のパスワード	Security type パラメータで WPA2-PSK オプションが選択されていること。	ネットワークキー (8 から 32 文字)を入力。  機器とともに支給されたネットワークキーは、安全上の理由から設定中に変更する必要があります。	数字、英字、特殊文字からなる 8~32 桁の文字列 (スペースなし)	機器のシリアル番号 (例 : L100A802000)
SSID の設定	-	どの SSID 名を使用するか選択 : デバイスタグまたはユーザ定義名。	■ デバイスのタグ ■ ユーザ定義	-
SSID 名	■ SSID の設定 パラメータで ユーザ定義 オプションが選択されていること。 ■ WLAN モード パラメータで WLAN アクセスポイント オプションが選択されていること。	ユーザ定義の SSID 名 (最大 32 文字)を入力。  ユーザー設定された SSID 名称は 1 回しか割り当てることができません。SSID 名称を 1 回以上割り当てた場合、機器は相互に干渉する可能性があります。	数字、英字、特殊文字から成る最大 32 桁の文字列	-
接続の状態	-	接続ステータスを表示します。	■ Connected ■ Not connected	-
受信信号強度	-	受信した信号の強度を表示。	■ ロー ■ 測定物 ■ ハイ	-

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.5.5 設定管理

設定後、現在の機器設定の保存、または前の機器設定の復元を行うことが可能です。機器設定は、**設定管理** パラメータ で管理されます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → 設定のバックアップ

▶ 設定のバックアップ	
稼働時間	→ 115
最後のバックアップ	→ 115
設定管理	→ 115
バックアップのステータス	→ 115
比較の結果	→ 115

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス / 選択
稼働時間	装置の稼働時間を示す。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)
最後のバックアップ	最後のデータバックアップが組み込み HistoROM に保存された時を表示。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)
設定管理	組み込み HistoROM の機器データの管理の動作を選択。	■ キャンセル ■ バックアップの実行 ■ 復元* ■ 比較* ■ バックアップデータの削除
バックアップのステータス	現在のデータセーブ、リストアの状態を示す。	■ なし ■ バックアップ中 ■ リストア中 ■ 削除処理進行中 ■ 比較進行中 ■ リストアの失敗 ■ バックアップの失敗
比較の結果	現在の機器データと組み込み HistoROM のバックアップとの比較。	■ 設定データは一致する ■ 設定データは一致しない ■ バックアップデータはありません ■ 保存データの破損 ■ チェック未完了 ■ データセット非互換

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

「設定管理」パラメータの機能範囲

オプション	説明
キャンセル	何も実行せずにこのパラメータを終了します。
バックアップの実行	現在の機器設定のバックアップコピーを、HistoROM バックアップから機器のメモリに保存します。バックアップコピーには機器の変換器データが含まれます。
復元	機器設定の最後のバックアップコピーを、機器メモリから機器の HistoROM バックアップに復元します。バックアップコピーには機器の変換器データが含まれます。

オプション	説明
比較	機器メモリに保存された機器設定と HistoROM バックアップの現在の機器設定とを比較します。
バックアップデータの削除	機器設定のバックアップコピーを、機器のメモリから削除します。

-  **HistoROM バックアップ**
HistoROM は、EEPROM タイプの不揮発性メモリです。
-  この操作の処理中は、現場表示器を介して設定を編集することはできません。また、処理ステータスを表すメッセージが表示されます。

9.5.6 機器管理のためのパラメータを使用

管理 サブメニューを使用すると、機器の管理のために必要なすべてのパラメータを体系的に使用できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 管理

▶ 管理	
▶ アクセスコード設定	→ 116
▶ アクセスコードのリセット	→ 117
機器リセット	→ 117

アクセスコードの設定のためのパラメータを使用

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定

▶ アクセスコード設定	
アクセスコード設定	→ 116
アクセスコードの確認	→ 116

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザー入力
アクセスコード設定	設定の不用意な変更から機器を守るために書き込みアクセスを制限。	数字、英字、特殊文字から成る最大 16 桁の文字列
アクセスコードの確認	入力されたアクセスコードを確認してください。	数字、英字、特殊文字から成る最大 16 桁の文字列

アクセスコードのリセットのためのパラメータを使用

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 管理 → アクセスコードのリセット

▶ アクセスコードのリセット

稼働時間 → ⓘ 117

アクセスコードのリセット → ⓘ 117

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス / ユーザー入力
稼働時間	装置の稼働時間を示す。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)
アクセスコードのリセット	アクセスコードを工場出荷値にリセットする。  リセットコードについては、弊社サービスにお問い合わせください。 リセットコードは、以下を介してのみ入力できます。 ■ ウェブブラウザ ■ DeviceCare、FieldCare (CDI-RJ45 サービスインターフェイス経由) ■ フィールドバス	数字、英字、特殊文字から成る文字列

機器のリセットのためのパラメータを使用

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 管理

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択
機器リセット	機器の設定をリセットします-全部または一部を-決められた状態に。	■ キャンセル ■ 納入時の状態に ■ 機器の再起動 ■ S-DAT のバックアップをリストア*

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.5.7 現場調整

現場調整は、機器の流量出力を設備の実際の流量に調整するために使用されます。流速分布は、配管エルボ、伸長部、レデューサ、またはバルブなどの設備部品によって乱れる可能性があります。そして、流速分布が乱れると、機器の精度に悪影響を及ぼす可能性があります。設置物による影響を含めた、設備における実際のプロセス固有の条件を考慮に入れることにより、現場調整は、現場の状況に適合した流量の表示を可能にします。

現場調整により、以下の場合に測定結果が向上します。

- プロセス固有の設備条件/設置物の影響
 - 流速分布が乱れている場合
 - 入り口側/出口側の条件が悪い場合
 - 不明な気体の場合
 - 乱れた流速分布を修正するために整流器を使用できない場合
 - プロセス条件が基準条件（工場出荷時校正の圧力および温度条件）から大幅に逸脱している場合
- 実際に使用するプロセスガスによる第三者調整

現場調整には、以下のように特有の機能があります。

- 一方向および双方向センサの両方に使用可能
- 最大 16 の流量測定点を設定可能（動作範囲全体に対して）
- 調整のためには、1 つ以上の流量測定点が必要。ただし、一般的な原則として、設定されている流量測定点が多いほど、測定性能は向上
- プロセスを中断せずに機器を設定することが可能
- 機器はプロセスガスの選択と測定中の実際のプロセス条件を考慮
- 流量値は表示部または操作インターフェイスを介して手動入力可能。または、リファレンス機器の流量値を電流入力またはバス通信経由で機器に読み込むことが可能

最適な現場調整のための必須条件

- 使用される流量基準の精度により、現場で調整された機器の性能が決まります。そのため、トレーサブルな校正が行われたリファレンス機器の使用が推奨されます。
- すべての校正点が同じ温度および圧力条件であること
- 圧力と温度の補正に使用するための気体および混合ガスの組成が、機器で利用できること
- 体積流量計をリファレンス機器として使用する場合は、正確な圧力仕様が重要
- 流量値が基準体積流量に示される場合は、リファレンス機器と機器の標準的な基準条件が同じであることが重要



- 最適な結果を得るには、トレーサブルな校正が行われたリファレンス機器を使用して、調整することを推奨します。
- リファレンス機器を使用できない場合は、たとえば、ファンチャート特性曲線が代わりのリファレンス機器を使用してください。

現場調整の実行

1. 気体の選択：エキスパート → センサ → 測定モード → 気体 → 気体
↳ この入力項目は、機器の圧力および温度補正のために重要です。
2. 現場調整の有効化：エキスパート → センサ → 現場調整 → 現場調整を有効にする
3. 選択項目の確定：はい
↳ すでに現場調整が存在する場合は、その調整点が読み込まれます。既存の調整（一連の流量測定点すべて）は、「値の消去」機能を使用して機器から削除できます。
4. 基準値の選択：エキスパート → センサ → 現場調整 → 基準とする流量の選択
↳ 体積流量を選択する場合は、機器に入力されるプロセス圧力が可能な限り正確であることが重要です。基準体積流量または自由空気吐出流量の場合は、設定された基準動作条件がリファレンス機器の基準動作条件と一致しなければなりません。
5. 基準値の入力方法を選択：エキスパート → センサ → 現場調整 → 基準値の入力タイプ
↳ 「手動」を選択した場合、オペレーターは表示部（または、他の操作インターフェイス）を使用して流量値を手動で入力する必要があります。ただし、「電流入力」または「外部の値」（バス通信経由）を選択した場合は、現在の流量値が読み取り専用の基準値として表示されます。使用可能な入力モードは、使用される I/O モジュールに応じて異なります。

ユーザーは最初に設備の流量測定点にアプローチできます。必要な流量値に到達したら、値を確認して保存するか、固定値として手動入力することが可能です。

 入力方法は、選択した入力モードに応じて異なります。

測定された流量値は、以下の基準に基づいて有効性を判断するためのチェックが行われます。

- 流量値の平均絶対偏差
- 流量値の標準偏差

基準が満たされていない場合、値は拒否され、「無効」メッセージが表示されます。両方の基準が満たされると、「合格」メッセージが表示されます。流量値の変動が激しい場合、「不安定」と表示されます。既存の調整が「再調整」され、最大 16 の設定された流量値がある場合は、再調整された値に最も近い流量値が置き換えられます。このとき、ステータスとして「置換済み」が表示されます。

 ユーザーは、調整に関する説明を追加することもできます。このために、3 つの異なるテキストフィールド（各フィールド 16 字の英数字）が用意されています。調整を識別するために、このテキストフィールドを使用することを推奨します（気体/混合ガスの名前と調整のプロセス条件を使用）。校正ラボで事業者が実際に使用する気体を用いて調整される現場調整の場合は、ラボの名前、調整日、事業者の名前も説明に記載することを推奨します。

特別なケース

個別の流量測定点

最大 16 の流量測定点を設定できます。ただし、特定の状況では、いつでも複数の流量測定点を調整できるとは限りません。その場合、機器はわずかな測定点で調整することが可能です。最低限必要となる流量測定点の数は 1 つです。1 つの測定点のみが調整された場合、機器は初期値を使用して、不足している調整値を置き換えます。そのため、1 つの測定点しか設定されていない場合に、測定された流量が調整値に近くなると、現場調整の精度が低下する可能性があることに注意する必要があります。

双方向流量

双方向オプションを備えた機器は、必要に応じて、両方の流れ方向または 1 つの流れ方向だけの現場調整ができます。機器が一方方向でのみ調整される場合、この調整点は自動的に負方向（逆流）に複製されるため、調整を正方向（順流）で行うことが重要です。

不明な気体成分

気体または混合ガスが不明な場合、または標準ガス選択で気体の組成を設定できない場合、ユーザーはプロセスガスを「空気」として設定することが可能です。この方法には、圧力と温度が変化した場合に補正機能を保証できないという欠点があります。正確な気体の組成が不明でも、おおよその推測ができる場合は、空気の代わりに、このおおよその気体組成を使用することを推奨します。

「現場調整」サブメニュー

ナビゲーション

「エキスパート」メニュー → センサ → 現場調整

▶ 現場調整	
現場調整を有効にする (17360)	→ 120
基準値の入力タイプ (17351)	→ 120

値を削除する (17355)	→ ⓘ 120
確認 (17356)	→ ⓘ 120
基準とする流量の選択 (17354)	→ ⓘ 120
安定性のチェック (17366)	→ ⓘ 120
実際の流量値 (17365)	→ ⓘ 121
外部の基準値 (17352)	→ ⓘ 121
基準値 (17353)	→ ⓘ 121
値を適用する (17364)	→ ⓘ 121
ステータス (17367)	→ ⓘ 121
説明 1 (17359)	→ ⓘ 121
説明 2 (17358)	→ ⓘ 121
説明 3 (17357)	→ ⓘ 121
説明 4 (17002)	→ ⓘ 121
▶ 現場調整で使用する値	→ ⓘ 121

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択 / ユーザーインターフェイス / ユーザー入力	工場出荷時設定
現場調整を有効にする	現場調整を有効にする。ユーザが保存した点は現場調整で使用されます。	■ いいえ ■ はい	–
基準値の入力タイプ	基準値に対する入力タイプを選択します。	■ オフ ■ マニュアル ■ 電流入力 1 * ■ 電流入力 2 * ■ 電流入力 3 * ■ 外部入力値 *	–
値を削除する	前回の調整値と説明を削除します。	■ いいえ ■ はい	–
確認	削除の確認。	■ いいえ ■ はい	–
基準とする流量の選択	プロセス変数を選択します。このプロセス変数はその場の調整のための基準値として使用されます。	■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 (自由空気吐出量) * ■ 体積流量	–
安定性のチェック	安定性のチェックを有効にします。新しい調整値は測定が安定している時だけ受け入れられます。	■ いいえ ■ はい	–

パラメータ	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
実際の流量値	実際のプロセス条件に適応させた最大の、工場で測定した値と関連した実流量を示します。	-2000~2000 %	-
外部の基準値	その場での調整のための外部基準値を示します。	符号付き浮動小数点数	-
基準値	その場の調整で使用される基準値として固定値を入力します。	符号付き浮動小数点数	-
値を適用する	実際の値を適用します。	■ いいえ ■ はい	-
ステータス	実際の基準値の有効性を示します。	■ 合格 ■ 置換 ■ 不安定 ■ 無効	-
説明 1	現場調整に対する説明、例 設備、オペレータ、日付など。	-	-
説明 2	現場調整に対する説明、例 設備、オペレータ、日付など。	-	-
説明 3	現場調整に対する説明、例 設備、オペレータ、日付など。	-	-
説明 4	現場調整に対する説明、例 設備、オペレータ、日付など。	-	-

* 表示はオーダーしたオプションや機器のセッティングにより異なります

「現場調整で使用される値」サブメニュー

ナビゲーション

「エキスパート」メニュー → センサ → 現場調整 → 現場調整で使用される値

▶ 現場調整で使用される値		
気体説明 1/2 (17361)	→	🔍 122
気体説明 2/2 (17362)	→	🔍 122
流量値 1 (17368)	→	🔍 122
流量値 2 (17369)	→	🔍 122
流量値 3 (17370)	→	🔍 122
流量値 4 (17371)	→	🔍 122
流量値 5 (17372)	→	🔍 122
流量値 6 (17373)	→	🔍 122
流量値 7 (17374)	→	🔍 122
流量値 8 (17375)	→	🔍 122

流量値 9 (17376)	→ 122
流量値 10 (17377)	→ 122
流量値 11 (17378)	→ 123
流量値 12 (17379)	→ 123
流量値 13 (17380)	→ 123
流量値 14 (17381)	→ 123
流量値 15 (17382)	→ 123
流量値 16 (17383)	→ 123

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
気体説明 1/2	現場調整で使用する設定した気体の説明の 1 番の部分を示します。	-	-
気体説明 2/2	現場調整で使用する設定した気体の説明の 2 番目の部分を示します。	-	-
流量値 1	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 2	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 3	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 4	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 5	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 6	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 7	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 8	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 9	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 10	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
流量値 11	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 12	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 13	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 14	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 15	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-
流量値 16	実際のプロセス条件に適応された最大の、工場で測定した値と関連した保存された流量値を示します。	-2000～2000 %	-

9.6 設定管理

設定後、現在の機器設定の保存、または前の機器設定の復元を行うことが可能です。機器設定は、**設定管理** パラメータ で管理されます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → 設定のバックアップ

▶ 設定のバックアップ		
稼動時間	→	📄 115
最後のバックアップ	→	📄 115
設定管理	→	📄 115
バックアップのステータス	→	📄 115
比較の結果	→	📄 115

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス / 選択
稼動時間	装置の稼働時間を示す。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)
最後のバックアップ	最後のデータバックアップが組み込み HistoROM に保存された時を表示。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)
設定管理	組み込み HistoROM の機器データの管理の動作を選択。	■ キャンセル ■ バックアップの実行 ■ 復元 ■ 比較 ■ バックアップデータの削除

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス / 選択
バックアップのステータス	現在のデータセーブ、リストアの状態を示す。	■ なし ■ バックアップ中 ■ リストア中 ■ 削除処理進行中 ■ 比較進行中 ■ リストアの失敗 ■ バックアップの失敗
比較の結果	現在の機器データと組み込み HistoROM のバックアップとの比較。	■ 設定データは一致する ■ 設定データは一致しない ■ バックアップデータはありません ■ 保存データの破損 ■ チェック未完了 ■ データセット非互換

9.6.1 「設定管理」 パラメータの機能範囲

オプション	説明
キャンセル	何も実行せずにこのパラメータを終了します。
バックアップの実行	現在の機器設定のバックアップコピーを、HistoROM バックアップから機器のメモリに保存します。バックアップコピーには機器の変換器データが含まれます。
復元	機器設定の最後のバックアップコピーを、機器メモリから機器の HistoROM バックアップに復元します。バックアップコピーには機器の変換器データが含まれます。
比較	機器メモリに保存された機器設定と HistoROM バックアップの現在の機器設定とを比較します。
バックアップデータの削除	機器設定のバックアップコピーを、機器のメモリから削除します。

-  **HistoROM バックアップ**
HistoROM は、EEPROM タイプの不揮発性メモリです。
-  この操作の処理中は、現場表示器を介して設定を編集することはできません。また、処理ステータスを表すメッセージが表示されます。

9.7 シミュレーション

シミュレーション サブメニュー により、プロセスおよび機器アラームモードにおける各種プロセス変数をシミュレーションして、下流側の信号接続（バルブの切り替えまたは閉制御ループ）を確認することが可能です。シミュレーションは、実際の測定を行わずに実行できます（機器内を流れる測定物なし）。

ナビゲーション
「診断」 メニュー → シミュレーション

▶ シミュレーション

シミュレーションする測定パラメータ割り当て

→ ⓘ 125

測定値

→ ⓘ 125

電流入力 1～n のシミュレーション

→ ⓘ 126

電流入力 1～n の値	→ 126
ステータス入力 1～n のシミュレーション	→ 126
入力信号レベル 1～n	→ 126
電流出力 1～n のシミュレーション	→ 125
電流出力 1～n の値	→ 126
周波数出力シミュレーション 1～n	→ 126
周波数の値 1～n	→ 126
パルス出力シミュレーション 1～n	→ 126
パルスの値 1～n	→ 126
シミュレーションスイッチ出力 1～n	→ 126
スイッチの状態 1～n	→ 126
リレー出力 1～n シミュレーション	→ 126
スイッチの状態 1～n	→ 126
機器アラームのシミュレーション	→ 126
診断イベントの種類	→ 126
診断イベントのシミュレーション	→ 126

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力
シミュレーションする測定パラメータ割り当て	–	シミュレーションするプロセス変数を選択してください。	■ オフ ■ 温度 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 (自由空気吐出量)* ■ 体積流量 ■ エネルギー流量* ■ 熱流量* ■ 密度 ■ 流速
測定値	シミュレーションする測定パラメータ割り当て パラメータ (→ 125) でプロセス変数が選択されていること。	選択したプロセス変数をシミュレーションする値を入力してください。	選択したプロセス変数に応じて異なります。
電流出力 1～n のシミュレーション	–	電流出力のシミュレーションをオン、オフします。	■ オフ ■ オン

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力
電流出力 1~n の値	電流出力 1~n のシミュレーション パラメータで、 オン オプションが選択されていること。	シミュレーションする電流の値を入力してください。	3.59~22.5 mA
周波数出力シミュレーション 1~n	動作モード パラメータで 周波数 オプションが選択されていること。	周波数出力のシミュレーションをオン、オフしてください。	■ オフ ■ オン
周波数の値 1~n	周波数出力シミュレーション 1~n パラメータで オン オプションが選択されていること。	シミュレーションする周波数の値を入力してください。	0.0~12 500.0 Hz
パルス出力シミュレーション 1~n	動作モード パラメータで パルス オプションが選択されていること。	設定しパルス出力のシミュレーションをオフしてください。  固定値 オプションの場合： パルス幅 パラメータ (→ 98) によりパルス出力のパルス幅が設定されます。	■ オフ ■ 固定値 ■ カウントダウンする値
パルスの値 1~n	パルス出力シミュレーション 1~n パラメータで カウントダウンする値 オプションが選択されていること。	シミュレーションするパルスの数を入力してください。	0~65 535
シミュレーションスイッチ出力 1~n	動作モード パラメータで スイッチ出力 オプションが選択されていること。	スイッチ出力のシミュレーションをオン、オフします。	■ オフ ■ オン
スイッチの状態 1~n	-	ステータス出力をシミュレーションするためのステータスを選択します。	■ オープン ■ クローズ
リレー出力 1~n シミュレーション	-	リレー出力のシミュレーションのオンとオフの切り替え。	■ オフ ■ オン
スイッチの状態 1~n	シミュレーションスイッチ出力 1~n パラメータで オン オプションが選択されていること。	リレー出力の状態をシミュレーションのために選択する。	■ オープン ■ クローズ
機器アラームのシミュレーション	-	デバイスアラームのシミュレーションをオン、オフします。	■ オフ ■ オン
診断イベントの種類	-	診断イベントカテゴリを選択。	■ センサ ■ エレクトロニクス ■ 設定 ■ プロセス
診断イベントのシミュレーション	-	このイベントをシミュレーションする診断イベントの選択。	■ オフ ■ 診断イベント選択リスト (選択したカテゴリに応じて)
電流入力 1~n のシミュレーション	-	電流入力シミュレーションのオン/オフ。	■ オフ ■ オン
電流入力 1~n の値	電流入力 1~n のシミュレーション パラメータで オン オプションが選択されていること。	シミュレーションの電流値を入力。	0~22.5 mA
ステータス入力 1~n のシミュレーション	-	ステータス入力のシミュレーションをオン、オフ切り替え。	■ オフ ■ オン
入力信号レベル 1~n	ステータス入力のシミュレーション パラメータで オン オプションが選択されていること。	ステータス入力をシミュレーションする信号レベルを選択してください。	■ ハイ ■ ロー

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

9.8 不正アクセスからの設定の保護

以下の書き込み保護オプションにより、意図せずに機器の設定が変更されないよう保護することが可能です。

- アクセスコードによるパラメータのアクセス保護 → 98
- キーロックによる現場操作のアクセス保護 → 63
- 書き込み保護スイッチによる機器のアクセス保護 → 128

9.8.1 アクセスコードによる書き込み保護

ユーザー固有のアクセスコードは以下の効果をもたらします。

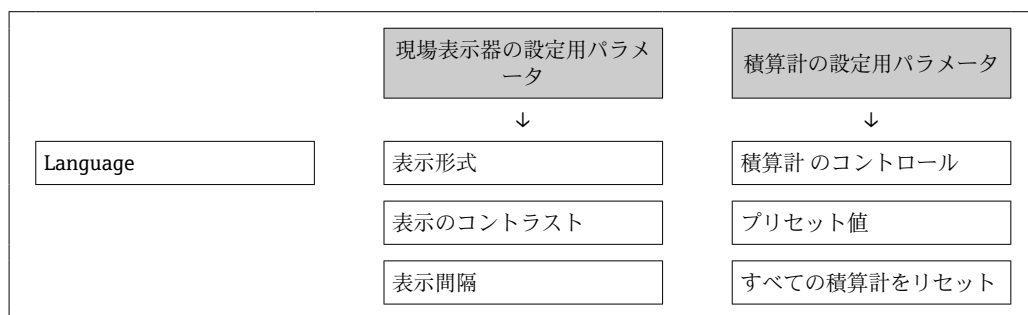
- 機器設定用パラメータは書き込み保護となり、現場操作を介してその値を変更することはできなくなります。
- ウェブブラウザを介した機器アクセスを防止し、機器設定用パラメータを保護します。
- FieldCare または DeviceCare (CDI-RJ45 サービスインターフェイス経由) を介した機器アクセスを防止し、機器設定用パラメータを保護します。

現場表示器によるアクセスコードの設定

1. **アクセスコード設定** パラメータ (→ 図 116) に移動します。
 2. アクセスコードとして数字、英字、特殊文字から成る最大 16 桁の文字列を設定します。
 3. 再度アクセスコードを **アクセスコードの確認** パラメータ (→ 図 116) に入力して、確定します。
 - ↳ すべての書き込み保護パラメータの前に、 シンボルが表示されます。
-  ■ パラメータ書き込み保護を無効にするには、アクセスコードを使用します
→ 図 62。
- アクセスコードを紛失した場合：アクセスコードをリセットします → 図 128。
 - ユーザーが現在、どのユーザーの役割でログインしているか、**アクセスステータス** パラメータに表示されます。
 - ナビゲーションパス：操作 → アクセスステータス
 - ユーザーの役割とアクセス権 → 図 62
 - ナビゲーションおよび編集画面で 10 分以上キーを押さなかった場合、機器は自動的に書き込み保護パラメータを再度ロックします。
 - ナビゲーションおよび編集画面から操作画面表示モードに戻すと、機器は自動的に書き込み保護パラメータを 60 秒後にロックします。

現場表示器で随時変更可能なパラメータ

測定に影響を及ぼさない特定のパラメータは、現場表示器によるパラメータ書き込み保護から除外されます。ユーザー固有のアクセスコードにもかかわらず、これは、他のパラメータがロックされている場合も常に変更可能です。



ウェブブラウザによるアクセスコードの設定

1. **アクセスコード設定** パラメータ (→ 図 116) に移動します。
2. アクセスコードとして 16 桁 (最大) の数値コードを設定します。

3. 再度アクセスコードを **アクセスコードの確認** パラメータ (→ 図 116) に入力して、確定します。

↳ ウェブブラウザがログイン画面に切り替わります。

-  ■ パラメータ書き込み保護を無効にするには、アクセスコードを使用します
→ 図 62。
- アクセスコードを紛失した場合：アクセスコードをリセットします → 図 128。
- ユーザーが現在、どのユーザーの役割でログインしているか、**アクセスステータス** パラメータに表示されます。
 - ナビゲーションパス：操作 → アクセスステータス
 - ユーザーの役割とアクセス権 → 図 62

10 分間何も操作されなかった場合、ウェブブラウザは自動的にログイン画面に戻ります。

アクセスコードのリセット

ユーザー固有のアクセスコードを間違えた場合は、工場設定のコードにリセットできます。このためには、リセットコードを入力しなければなりません。ユーザー固有のアクセスコードはその後、再び設定することが可能です。

ウェブブラウザ、FieldCare、DeviceCare (CDI-RJ45 サービスインタフェース経由)、フィールドバスを使用

-  リセットコードを取得するには、お近くの Endress+Hauser サービス部にお問い合わせいただく必要があります。機器ごとに固有のコードを作成する必要があります。

1. 機器のシリアル番号を書き留めます。
2. **稼働時間** パラメータを読み取ります。
3. お近くの Endress+Hauser サービス部に連絡し、シリアル番号と稼働時間を伝えます。
↳ 作成されたりセットコードを取得します。
4. **アクセスコードのリセット** パラメータ (→ 図 117) にリセットコードを入力します。
↳ アクセスコードは工場設定 **0000** にリセットされます。これは、再設定することが可能です → 図 127。

-  IT セキュリティ上の理由から、作成されたりセットコードは、指定のシリアル番号に対して指定の稼働時間から 96 時間のみ有効です。96 時間以内に機器をリセットできない場合は、読み出した稼働時間に数日を加算するか、または機器をオフにする必要があります。

9.8.2 書き込み保護スイッチによる書き込み保護

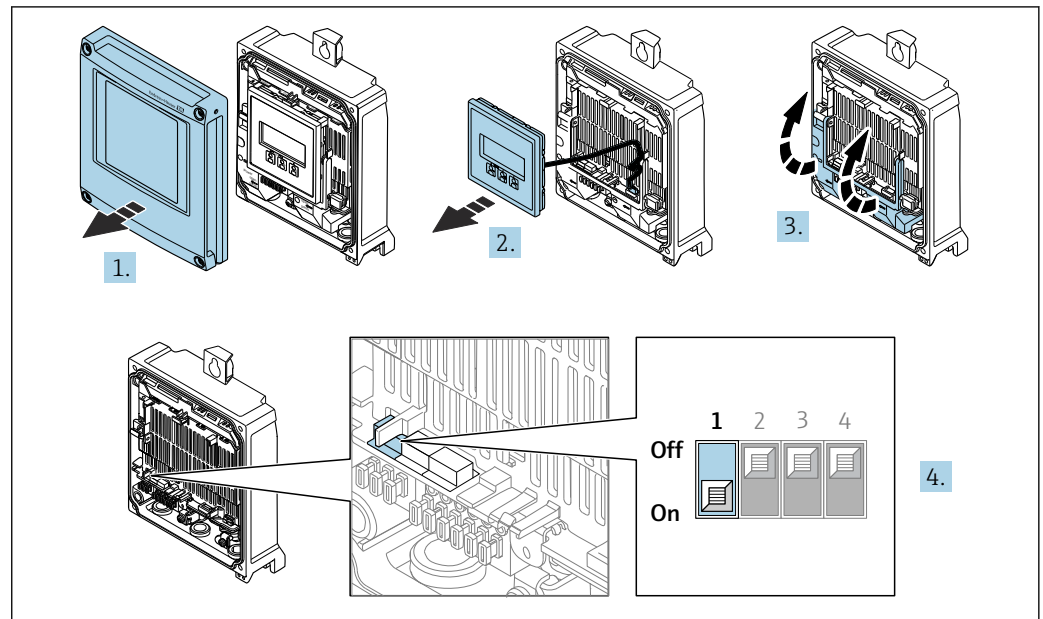
ユーザー固有のアクセスコードによるパラメータ書き込み保護とは異なり、この書き込み保護では、すべての操作メニューに対する書き込みアクセスをロックできます (**「表示のコントラスト」** パラメータを除く)。

これによりパラメータ値は読み取り専用となり、編集できなくなります (**「表示のコントラスト」** パラメータを除く)。

- 現場表示器を使用
- Modbus RS485 プロトコル経由

Proline 500 – デジタル

書き込み保護の有効化/無効化



A0029673

1. ハウジングカバーを開きます。

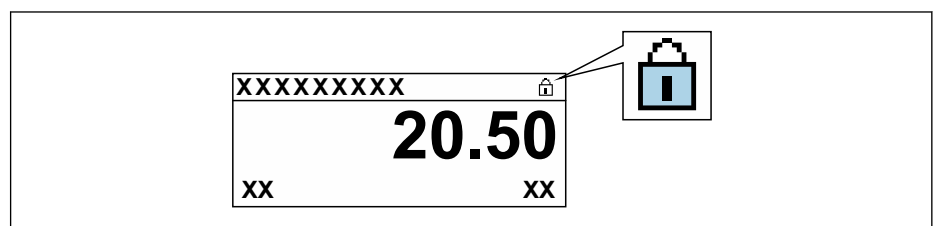
2. 表示モジュールを外します。

3. 端子部カバーを開きます。

4. **書き込み保護の有効化または無効化：**

メイン電子モジュールの書き込み保護 (WP) スイッチを **ON** 位置に設定するとハードウェア書き込み保護は有効に、**OFF** 位置 (工場設定) に設定するとハードウェア書き込み保護は無効になります。

➤ **ロック状態** パラメータに**ハードウェアロック** オプションが表示されます
 → 図 130。ハードウェア書き込み保護が有効になっている場合、測定値表示のヘッダーとナビゲーション画面のパラメータの前に  シンボルが表示されます。



A0029425

5. 表示モジュールを挿入します。

6. ハウジングカバーを閉じます。

7. **警告**

固定ネジの締め付けトルクが超過！

プラスチック製変換器が損傷する恐れがあります。

▶ 締め付けトルクに従って固定ネジを締め付けてください。2 Nm (1.5 lbf ft)

固定ネジを締め付けます。

10 操作

10.1 機器ロック状態の読取り

機器の有効な書き込み保護：ロック状態 パラメータ

操作 → ロック状態

「ロック状態」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
なし	アクセスステータス パラメータに表示されるアクセス権が適用されます → 62。現場表示器にのみ表示されます。
ハードウェアロック	PCB 基板のハードウェア書き込みロック用 DIP スイッチが有効になっています。これにより、（現場表示器や操作ツールを使用した）パラメータへの書き込みアクセスがロックされます → 128。
一時ロック	機器の内部処理（例：データアップロード/ダウンロード、リセットなど）を実行中のため、パラメータへの書き込みアクセスが一時的にロックされます。内部処理が完了すると、再びパラメータを変更することが可能です。

10.2 操作言語の設定

-  詳細情報：
- 操作言語の設定 → 80
 - 機器が対応する操作言語の情報 → 190

10.3 表示部の設定

- 詳細情報：
- 現場表示器の基本設定 → 104
 - 現場表示器の高度な設定 → 110

10.4 測定値の読取り

測定値 サブメニューを使用して、すべての測定値を読み取ることが可能です。

ナビゲーション
「診断」メニュー → 測定値

▶ 測定値	
▶ プロセスパラメータ	→ 131
▶ システムの値	→ 132
▶ 入力値	→ 133
▶ 出力値	→ 134
▶ 積算計	→ 132

10.4.1 プロセス変数

プロセスパラメータ サブメニューには、各プロセス変数の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → プロセスパラメータ

▶ プロセスパラメータ	
質量流量	→ 131
基準体積流量	→ 131
体積流量	→ 131
体積流量 (自由空気吐出量)	→ 131
エネルギー流量	→ 132
温度	→ 132
密度	→ 132
流速	→ 132
熱流量	→ 132

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
質量流量	–	現在測定されている質量流量を表示します。 依存関係 質量流量単位 パラメータ (→ 89) で選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数
基準体積流量	–	現在計算されている基準体積流量を表示します。 依存関係 基準体積流量単位 パラメータ (→ 89) の設定が単位として使用されます。	符号付き浮動小数点数
体積流量	–	現在測定されている体積流量を表示します。 依存関係 体積流量単位 パラメータ (→ 89) の設定が単位として使用されます。	符号付き浮動小数点数
体積流量 (自由空気吐出量)	測定アプリケーション パラメータで 空気または圧縮空気 オプションが選択されていること。	現在計算されている自由空気吐出流量を表示します。 依存関係 体積流量単位 (自由空気吐出量) パラメータ (→ 89) で選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
エネルギー流量	測定アプリケーション パラメータでエネルギー オプションが選択されていること。	現在計算しているエネルギー流量を示します。	符号付き浮動小数点数
温度	–	現在測定されている温度を表示します。 依存関係 温度の単位 パラメータ (→ 132) で選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数
密度	–	現在計算されている密度を示します。	符号付き浮動小数点数
流速	–	現在計算している流速を示します。	符号付き浮動小数点数
熱流量	測定アプリケーション パラメータでエネルギー オプション が選択されていること。	現在計算されている熱流量を示します。	符号付き浮動小数点数

10.4.2 システムの値

システムの値 サブメニューには、各システム値の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → システムの値

▶ システムの値

電気部内温度 → 132

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
電気部内温度	現在の電子部の温度を示します。	符号付き浮動小数点数

10.4.3 「積算計」 サブメニュー

積算計 サブメニューには、各積算計の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 積算計

▶ 積算計

積算計の値 1～n → 133

積算計オーバーフロー 1～n → 133

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
積算計の値 1～n	現在の積算計カウンタ値を表示。	符号付き浮動小数点数
積算計オーバーフロー 1～n	現在の積算計オーバーフローを表示。	符号の付いた整数

10.4.4 「入力値」サブメニュー

入力値 サブメニュー を使用すると、個別の入力値を体系的に表示できます。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 入力値

▶ 入力値	
▶ 電流入力 1～n	→ 133
▶ ステータス入力 1～n	→ 133

電流入力の入力値

電流入力 1～n サブメニューには、各電流入力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 入力値 → 電流入力 1～n

▶ 電流入力 1～n	
測定値 1～n	→ 133
測定した電流 1～n	→ 133

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
測定値 1～n	現在の電流入力値を表示します。	符号付き浮動小数点数
測定した電流 1～n	電流入力の現在値を表示します。	0～22.5 mA

ステータス入力の入力値

ステータス入力 1～n サブメニューには、各ステータス入力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 入力値 → ステータス入力 1～n

▶ ステータス入力 1～n

ステータス入力の値

→ ⓘ 134

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
ステータス入力の値	現在の入力の信号のレベルを表示。	■ ハイ ■ ロー

10.4.5 出力値

出力値 サブメニューには、各出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 出力値

▶ 出力値

▶ 電流出力 1～n

→ ⓘ 134

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n

→ ⓘ 135

▶ リレー出力 1～n

→ ⓘ 135

電流出力の出力値

電流出力の値 サブメニューには、各電流出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 出力値 → 電流出力 1～n の値

▶ 電流出力 1～n

出力電流 1～n

→ ⓘ 135

測定した電流 1～n

→ ⓘ 135

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
出力電流 1	現在計算されている電流出力の電流値を表示します。	3.59～22.5 mA
測定した電流	電流出力の現在測定されている電流値を表示。	0～30 mA

パルス/周波数/スイッチ出力の出力値

パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n サブメニューには、各パルス/周波数/スイッチ出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 出力値 → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n		
出力周波数 1～n		→ 135
パルス出力 1～n		→ 135
スイッチの状態 1～n		→ 135

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
出力周波数 1～n	動作モード パラメータで 周波数 オプションが選択されていること。	周波数出力の現在測定されている値を表示。	0.0～12 500.0 Hz
パルス出力 1～n	動作モード パラメータで パルス オプションが選択されていること。	現在出力されているパルス周波数を表示。	正の浮動小数点数
スイッチの状態 1～n	動作モード パラメータで スイッチ出力 オプションが選択されていること。	現在のスイッチ出力ステータスを表示。	■ オープン ■ クローズ

リレー出力の出力値

リレー出力 1～n サブメニューには、各リレー出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 出力値 → リレー出力 1～n

▶ リレー出力 1～n		
スイッチの状態		→ 136
スイッチ周期		→ 136
最大スイッチサイクル数		→ 136

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
スイッチの状態	現在のリレーのスイッチ状態を表示。	■ オープン ■ クローズ
スイッチ周期	すべての実行されたスイッチサイクルの数を表示。	正の整数
最大スイッチサイクル数	保証されたスイッチサイクルの最大数を表示。	正の整数

10.5 プロセス条件への機器の適合

プロセス条件に適合させるために、以下の機能があります。

- **設定** メニュー (→ 𐀀 81) を使用した基本設定
- **高度な設定** サブメニュー (→ 𐀀 108) を使用した高度な設定

10.6 積算計リセットの実行

操作 サブメニュー で積算計をリセットします。

- 積算計 のコントロール
- すべての積算計をリセット

ナビゲーション
「操作」 メニュー → 積算計の処理

▶ 積算計の処理		
積算計 1～n のコントロール		→ 𐀀 136
プリセット値 1～n		→ 𐀀 136
積算計の値 1～n		→ 𐀀 136
すべての積算計をリセット		→ 𐀀 136

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス
積算計 1～n のコントロール	積算計 1～n サブメニュー の プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 𐀀 109)でプロセス変数が選択されていること。	積算計の値をコントロール。	■ 積算開始 ■ リセット + ホールド ■ プリセット + ホールド ■ リセット + 積算開始 ■ プリセット + 積算開始 ■ ホールド
プリセット値 1～n	積算計 1～n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 𐀀 109)でプロセス変数が選択されていること。	積算計の開始値を指定。 依存関係  選択したプロセス変数の単位は、積算計の積算計の単位 パラメータ (→ 𐀀 109)で設定します。	符号付き浮動小数点数
積算計の値	-	現在の積算計カウンタ値を表示。	符号付き浮動小数点数
すべての積算計をリセット	-	すべての積算計を 0 にリセットして積算の開始。	■ キャンセル ■ リセット + 積算開始

10.6.1 「積算計のコントロール」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
積算開始	積算計が開始するか、または動作を続けます。
リセット + ホールド	積算処理が停止し、積算計が 0 にリセットされます。
プリセット + ホールド ¹⁾	積算処理が停止し、積算計が プリセット値 パラメータ で設定した開始値に設定されます。
リセット + 積算開始	積算計が 0 にリセットされ、積算処理が再開します。
プリセット + 積算開始 ¹⁾	積算計が プリセット値 パラメータ で設定した開始値に設定され、積算処理が再開します。
ホールド	積算処理が停止しします。

1) 注文オプションまたは機器設定に応じて表示

10.6.2 「すべての積算計をリセット」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
キャンセル	何も実行せずにこのパラメータを終了します。
リセット + 積算開始	すべての積算計を 0 にリセットし、積算処理を再開します。これにより、それ以前に合計した流量値は消去されます。

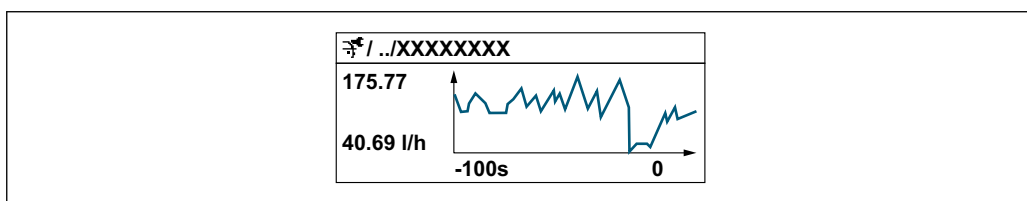
10.7 データロギングの表示

データのログ サブメニューを表示するには、機器の**拡張 HistoROM** アプリケーションパッケージを有効にする必要があります（注文オプション）。これには、測定値履歴に関するすべてのパラメータが含まれています。

- i** データロギングは以下を介しても使用可能：
- プラントアセットマネジメントツール FieldCare → 72
 - ウェブブラウザ

機能範囲

- 合計 1000 個の測定値を保存できます。
- 4 つのロギングチャンネル
- データロギングの時間間隔は調整可能です。
- 各ロギングチャンネルの測定値トレンドをチャート形式で表示します。



A0034352

- x 軸：選択されたチャンネル数に応じて 250～1000 個のプロセス変数の測定値を示します。
- y 軸：常に測定中の値に合わせて、大体の測定値スパンを示します。

i ロギングの時間間隔の長さ、またはチャンネルのプロセス変数の割り当てを変更すると、データのログ内容は削除されます。

ナビゲーション
「診断」メニュー → データのログ

▶ データのログ		
チャンネル 1 の割り当て	→	📖 139
チャンネル 2 の割り当て	→	📖 139
チャンネル 3 の割り当て	→	📖 139
チャンネル 4 の割り当て	→	📖 139
ロギングの時間間隔	→	📖 139
すべてのログをリセット	→	📖 139
データロギング	→	📖 139
ロギングの遅延	→	📖 139
データロギングのコントロール	→	📖 139
データロギングステータス	→	📖 140
全ロギング期間	→	📖 140
▶ チャンネル 1 表示		
▶ チャンネル 2 表示		
▶ チャンネル 3 表示		
▶ チャンネル 4 表示		

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス
チャンネル 1 の割り当て	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。	ロギングチャンネルにプロセス変数を割り当てます。	■ オフ ■ 温度 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 (自由空気吐出量)* ■ 体積流量 ■ エネルギー流量 ■ 熱流量* ■ 密度 ■ 流速 ■ 圧力 ■ 熱変化量計算用の 2 次側の温度* ■ 電気部内温度 ■ 電流出力 1* ■ 電流出力 2* ■ 電流出力 3* ■ 電流出力 4*
チャンネル 2 の割り当て	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	ロギングチャンネルへのプロセス変数の割り当て。	選択リストについては、 チャンネル 1 の割り当て パラメータ (→ 139) を参照してください。
チャンネル 3 の割り当て	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	ロギングチャンネルへのプロセス変数の割り当て。	選択リストについては、 チャンネル 1 の割り当て パラメータ (→ 139) を参照してください。
チャンネル 4 の割り当て	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。  現在有効なソフトウェアオプションが、 有効なソフトウェアオプションの概要 パラメータに表示されます。	ロギングチャンネルへのプロセス変数の割り当て。	選択リストについては、 チャンネル 1 の割り当て パラメータ (→ 139) を参照してください。
ロギングの時間間隔	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。	データのロギングの時間間隔は設定します。この値は、メモリ内の個々のデータポイント間の時間間隔を決定します。	0.1~3 600.0 秒
すべてのログをリセット	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。	すべてのログデータを削除します。	■ キャンセル ■ データ削除
データロギング	-	データロギングのタイプを選択します。	■ 上書きする ■ 上書きしない
ロギングの遅延	データロギング パラメータで、 上書きしない オプションが選択されていること。	測定値ロギングの遅延時間を入力します。	0~999 h
データロギングのコントロール	データロギング パラメータで、 上書きしない オプションが選択されていること。	測定値ロギングを開始または停止します。	■ なし ■ 削除 + スタート ■ 停止

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス
データロギングステータス	データロギング パラメータで、 上書きしない オプションが選択されていること。	測定値ロギングステータスを表示します。	- 完了 - 遅延が有効 - アクティブ - 停止
全ロギング期間	データロギング パラメータで、 上書きしない オプションが選択されていること。	全ロギング期間を表示します。	正の浮動小数点数

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

11 診断およびトラブルシューティング

11.1 一般トラブルシューティング

現場表示器用

エラー	考えられる原因	対処法
現場表示器が暗いが、信号出力は有効な範囲内にある	表示モジュールのケーブルが正しく差し込まれていない	メイン電子モジュールおよび表示モジュールにプラグを正しく挿入する。
現場表示器が暗く、出力信号がない	電源電圧が銘板に明記された電圧と異なる	正しい電源電圧を印加する。→ 図 41
現場表示器が暗く、出力信号がない	電源電圧の極性が正しくない	電源電圧の極性を逆にする。
現場表示器が暗く、出力信号がない	接続ケーブルと端子の接続が確立されない	ケーブルと端子の電氣的接続を確実にを行う。
現場表示器が暗く、出力信号がない	- 端子が I/O 電子モジュールに正しく差し込まれていない - 端子がメイン電子モジュールに正しく差し込まれていない	端子を確認する。
現場表示器が暗く、出力信号がない	- I/O 電子モジュールの故障 - メイン電子モジュールの故障	スペアパーツを注文する。→ 図 162
現場表示器が暗く、出力信号がない	メイン電子モジュールと表示モジュール間のコネクタが正しく差し込まれていない	接続を確認し、必要に応じて修正する。
現場表示器を読み取ることができないが、信号出力は有効な範囲内にある	表示部の設定が明るすぎる/暗すぎる	☐ + ☐ を同時に押して、表示を明るくする。 ☐ + ☐ を同時に押して、表示を暗くする。
現場表示器が暗いが、信号出力は有効な範囲内にある	表示モジュールの故障	スペアパーツを注文する。→ 図 162
現場表示器のバックライトが赤い	診断動作が「アラーム」の診断イベントが発生している	対策を講じる。→ 図 151
現場表示器のテキストが理解できない言語で表示される	選択された操作言語を理解できない	☐ + ☐ を 2 秒 押す（「ホーム画面」）。 ☐ を押す。 Display language パラメータ (→ 図 112) で必要な言語を設定する。
現場表示器のメッセージ： 「通信エラー」 「電子モジュールの確認」	表示モジュールと電子モジュール間の通信が中断された	- メイン電子モジュールと表示モジュール間のケーブルとコネクタを確認する。 - スペアパーツを注文する。→ 図 162

出力信号用

エラー	考えられる原因	対処法
信号出力が有効な範囲を超えている	メイン電子モジュールの故障	スペアパーツを注文する→ 図 162。
現場表示器に正しい値が表示されるが、信号出力が正しくない（有効な範囲内にはある）	パラメータ設定エラー	パラメータ設定を確認し、修正する。
機器の測定が正しくない	設定エラーまたは機器が用途範囲外で使用されている	- 正しいパラメータ設定を確認する。 「技術データ」に明記されたリミット値に従う。

アクセス用

エラー	考えられる原因	対処法
パラメータに対して書き込みアクセスを実行できない。	ハードウェア書き込み保護が有効	メイン電子モジュールの書き込み保護スイッチを OFF 位置に設定する。 (Verweisziel existiert nicht, aber @y.link.required='true') → 図 128
パラメータに書き込みアクセスできない	現在のユーザーの役割ではアクセス許可が制限されている。	- ユーザーの役割を確認する。→ 図 62 - 正しいユーザー固有のアクセスコードを入力する。→ 図 62

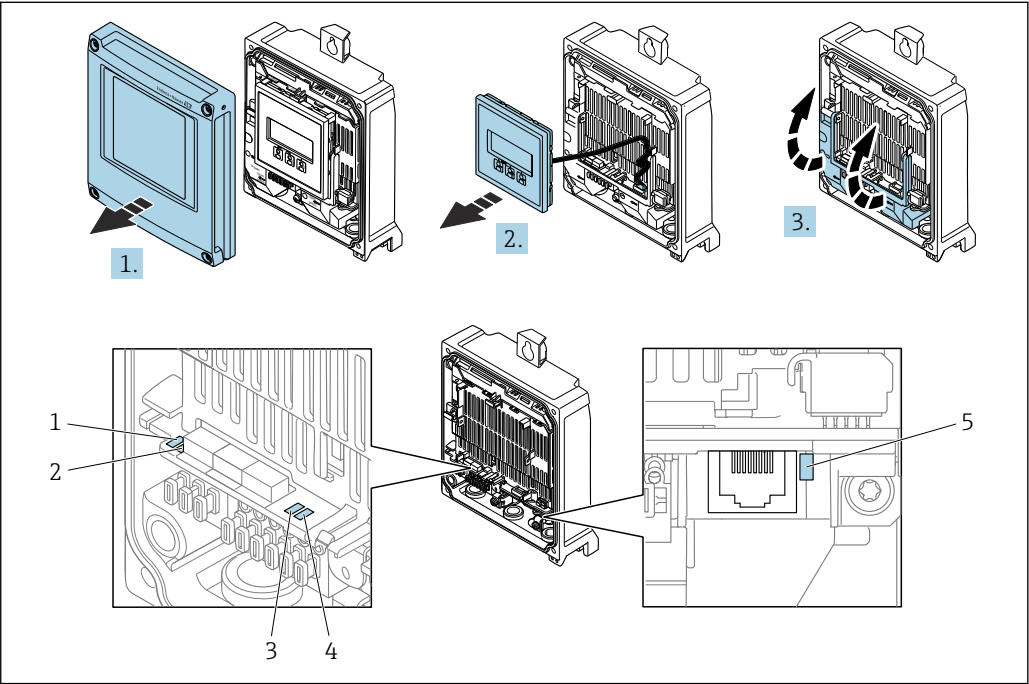
エラー	考えられる原因	対処法
Modbus RS485 経由で接続できない	Modbus RS485 バスケーブルが正しく接続されていない。	端子の割当てを確認する。→ ㉟ 36
Modbus RS485 経由で接続できない	Modbus RS485 ケーブルが正しく終端処理されていない。	終端抵抗を確認する。→ ㉟ 46
Modbus RS485 経由で接続できない	通信インタフェースの設定が正しくない。	Modbus RS485 設定を確認する。→ ㉟ 90
Web サーバーに接続できない	Web サーバーが無効になっている	「FieldCare」または「DeviceCare」操作ツールを使用して機器の Web サーバーが有効か確認し、必要に応じて有効にする。→ ㉟ 69
	PC のイーサネットインタフェースの設定が正しくない	▶ インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティを確認する。→ ㉟ 65 ▶ IT マネージャを使用してネットワーク設定を確認する。
Web サーバーに接続できない	PC の IP アドレスの設定が正しくない	IP アドレス (192.168.1.212) を確認する。→ ㉟ 65
Web サーバーに接続できない	WLAN アクセスデータが正しくない	■ WLAN ネットワークの状態を確認する。 ■ WLAN アクセスデータを使用して機器に再度ログインする。 ■ 機器および操作機器の WLAN が有効になっているか確認する。→ ㉟ 65
	WLAN 通信が無効になっている	–
Web サーバー、FieldCare、または DeviceCare に接続できない	WLAN ネットワークが使用できない	■ WLAN 受信が使用可能か確認する: 表示モジュールの LED が青色で点灯 ■ WLAN 接続が有効か確認する: 表示モジュールの LED が青色で点滅 ■ 機器機能を ON にする。
ネットワークに接続していない、またはネットワーク接続が不安定	WLAN ネットワークが弱い	■ 操作機器が受信範囲外にある: 操作機器のネットワークの状態を確認する。 ■ ネットワーク性能を向上させるために、外部の WLAN アンテナを使用する。
	WLAN とイーサネットの並列通信	■ ネットワーク設定を確認する。 ■ 一時的に WLAN のみをインタフェースとして有効にします。
ウェブブラウザがフリーズして、それ以上操作できない	データ転送が有効である。	データ転送または現在の動作が完了するまで待ってください。
	接続が失われた	▶ ケーブル接続と電源を確認する。 ▶ ウェブブラウザを再読み込み、必要に応じて再起動する。
ウェブブラウザの内容が読みにくい、または不完全	使用されているウェブブラウザのバージョンが最適ではない	▶ 適切なウェブブラウザバージョンを使用する。→ ㉟ 64 ▶ ウェブブラウザのキャッシュを消去する。 ▶ ウェブブラウザを再起動する。
	不適切な表示設定	ウェブブラウザのフォントサイズ/表示比率を変更する。
ウェブブラウザに内容が表示されない、または内容が不完全	■ JavaScript が有効になっていない ■ JavaScript を有効にできない	▶ JavaScript を有効にする。 ▶ IP アドレスとして <code>http://XXX.XXX.X.X.XX/servlet/basic.html</code> を入力する。
CDI-RJ45 サービスインタフェース (ポート 8000) を介した FieldCare または DeviceCare による操作ができない	PC またはネットワークのファイアウォールが通信を妨げている	PC またはネットワークで使用するファイアウォールの設定に応じて、FieldCare/DeviceCare アクセスを可能にするため、ファイアウォールを無効にするか、調整する必要がある。
CDI-RJ45 サービスインタフェース (ポート 8000 または TFTP ポート) を介した FieldCare または DeviceCare によるファームウェア更新ができない	PC またはネットワークのファイアウォールが通信を妨げている	PC またはネットワークで使用するファイアウォールの設定に応じて、FieldCare/DeviceCare アクセスを可能にするため、ファイアウォールを無効にするか、調整する必要がある。

11.2 発光ダイオードによる診断情報

11.2.1 変換器

Proline 500 – デジタル

変換器の各種 LED により機器ステータスに関する情報が提供されます。



A0029689

- 1 電源
- 2 機器ステータス
- 3 未使用
- 4 通信
- 5 サービスインタフェース (CDI) アクティブ

- 1. ハウジングカバーを開きます。
- 2. 表示モジュールを外します。
- 3. 端子部カバーを開きます。

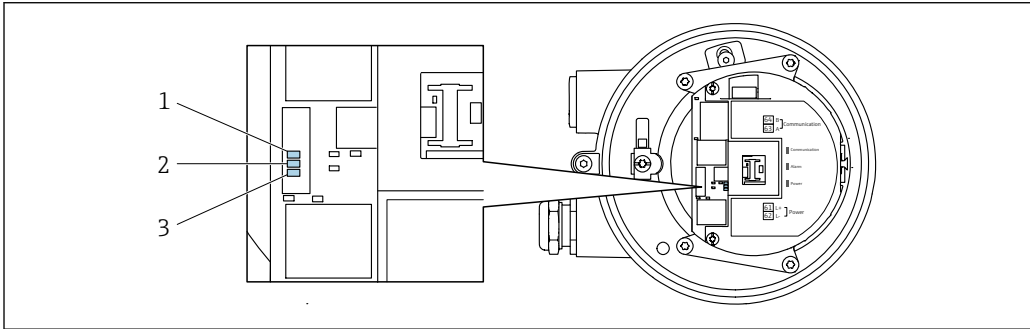
LED	色	意味
1 電源	消灯	電源オフまたは供給電圧不足
	緑色	電源 OK
2 機器ステータス (通常の操作)	消灯	ファームウェアエラー
	緑色	機器ステータス OK
	緑色点滅	機器が設定されていない
	赤色点滅	診断動作「警告」の診断イベントが発生
	赤色	診断動作「アラーム」の診断イベントが発生
	赤色/緑色点滅	機器の再起動
2 機器ステータス (スタートアップ中)	赤色の低速点滅	> 30 秒の場合：ブートローダーの問題
	赤色の高速点滅	> 30 秒の場合：ファームウェア読み込み中に互換性の問題
3 未使用	–	–
4 通信	消灯	通信非アクティブ

LED	色	意味
5 サービスインタフェース (CDI)	白色	通信アクティブ
	消灯	接続なし、または接続が確立されていない
	黄色	接続中、および接続が確立されている
	黄色点滅	サービスインタフェース アクティブ

11.2.2 センサ接続ハウジング

Proline 500 – デジタル

センサ接続ハウジング内の ISEM 電子モジュール（インテリジェントセンサ電子モジュール）の各種 LED により、機器ステータスに関する情報が提供されます。



A0029699

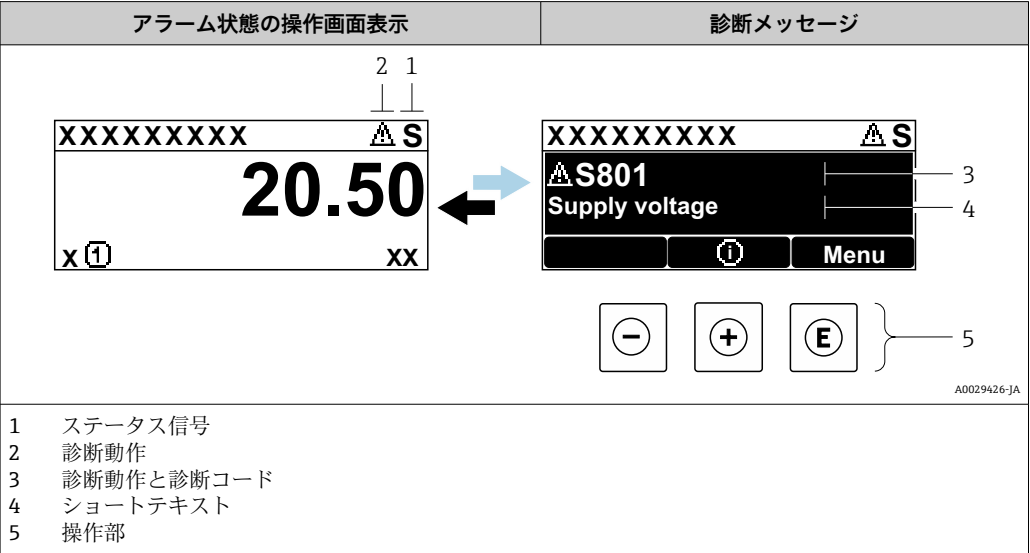
- 1 通信
- 2 機器ステータス
- 3 電源電圧

LED	色	意味
1 通信	白色	通信アクティブ
2 機器ステータス (通常の操作)	赤色	エラー
	赤色点滅	警告
2 機器ステータス (スタートアップ中)	赤色の低速点滅	> 30 秒の場合：ブートローダーの問題
	赤色の高速点滅	> 30 秒の場合：ファームウェア読み込み中に互換性の問題
3 電源電圧	緑色	電源 OK
	オフ	電源オフまたは供給電圧不足

11.3 現場表示器の診断情報

11.3.1 診断メッセージ

機器の自己監視システムで検出されたエラーが、操作画面表示と交互に診断メッセージとして表示されます。



2 つまたはそれ以上の診断イベントが同時に発生している場合は、最優先に処理する必要のある診断イベントのメッセージのみが表示されます。

- i** 発生したその他の診断イベントは **診断** メニュー に表示されます。
- パラメータを使用 → 154
 - サブメニューを使用 → 155

ステータス信号

ステータス信号は、診断情報（診断イベント）の原因を分類することにより、機器の状態および信頼性に関する情報を提供します。

- i** ステータス信号は VDI/VDE 2650 および NAMUR 推奨 NE 107 に準拠して分類されます。F = 故障、C = 機能チェック、S = 仕様範囲外、M = メンテナンスが必要

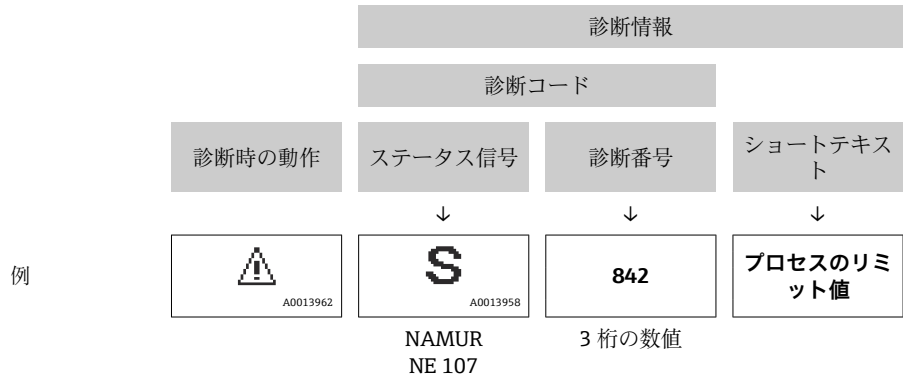
シンボル	意味
F	故障 機器エラーが発生。測定値は無効。
C	機能チェック 機器はサービスモード（例：シミュレーション中）
S	仕様範囲外 機器は作動中： 技術仕様の範囲外（例：許容プロセス温度の範囲外）
M	メンテナンスが必要 メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

診断時の動作

シンボル	意味
	アラーム - 測定が中断します。 - 信号出力と積算計が設定されたアラーム状態になります。 - 診断メッセージが生成されます。
	警告 - 測定が再開します。 - 信号出力と積算計は影響を受けません。 - 診断メッセージが生成されます。

診断情報

診断情報を使用してエラーを特定することが可能です。ショートテキストにより、エラーに関する情報が提供されます。さらに、診断動作に対応するシンボルが現場表示器の診断情報の前に表示されます。



操作部

操作キー	意味
	+ キー メニュー、サブメニュー内 対処法に関するメッセージを開きます。
	Enter キー メニュー、サブメニュー内 操作メニューを開きます。

11.3.2 対処法の呼び出し

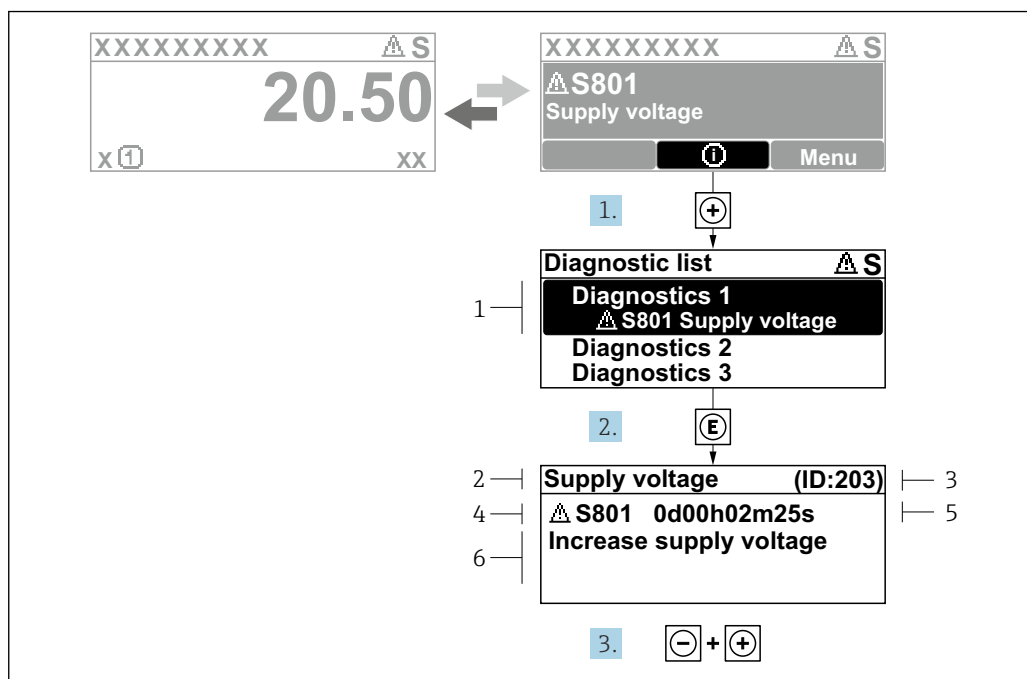


図 37 対処法のメッセージ

- 1 診断情報
- 2 ショートテキスト
- 3 サービス ID
- 4 診断動作と診断コード
- 5 エラー発生時の稼働時間
- 6 対処法

1. 診断メッセージを表示します。
 ➡ を押します (① シンボル)。
 ↳ **診断リスト** サブメニュー が開きます。
2. ➡ または ➡ を使用して必要な診断イベントを選択し、 ➡ を押します。
 ↳ 対処法に関するメッセージが開きます。
3. ➡ + ➡ を同時に押します。
 ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

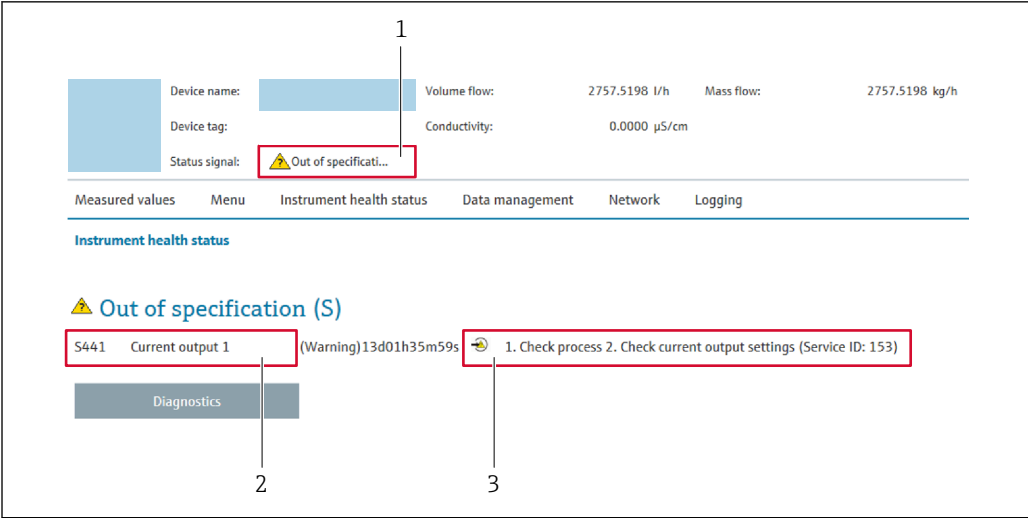
診断 メニュー 内の診断イベントの入力項目に移動します (例: **診断リスト** サブメニュー または **前回の診断結果** パラメータ)。

1. ➡ を押します。
 ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
2. ➡ + ➡ を同時に押します。
 ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

11.4 ウェブブラウザの診断情報

11.4.1 診断オプション

機器が検知したエラーは、ユーザーがログインするとウェブブラウザのホームページに表示されます。



A0031056

- 1 ステータスエリアとステータス信号
- 2 診断情報
- 3 対処法（サービス ID）

i また、発生した診断イベントは **診断** メニュー に表示されます。

- パラメータを使用 → 154
- サブメニューを使用 → 155

ステータス信号

ステータス信号は、診断情報（診断イベント）の原因を分類することにより、機器の状態および信頼性に関する情報を提供します。

シンボル	意味
	故障 機器エラーが発生。測定値は無効。
	機能チェック 機器はサービスモード（例：シミュレーション中）
	仕様範囲外 機器は作動中： 技術仕様の範囲外（例：許容プロセス温度の範囲外）
	メンテナンスが必要 メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

i ステータス信号は VDI/VDE 2650 および NAMUR 推奨 NE 107 に準拠して分類されます。

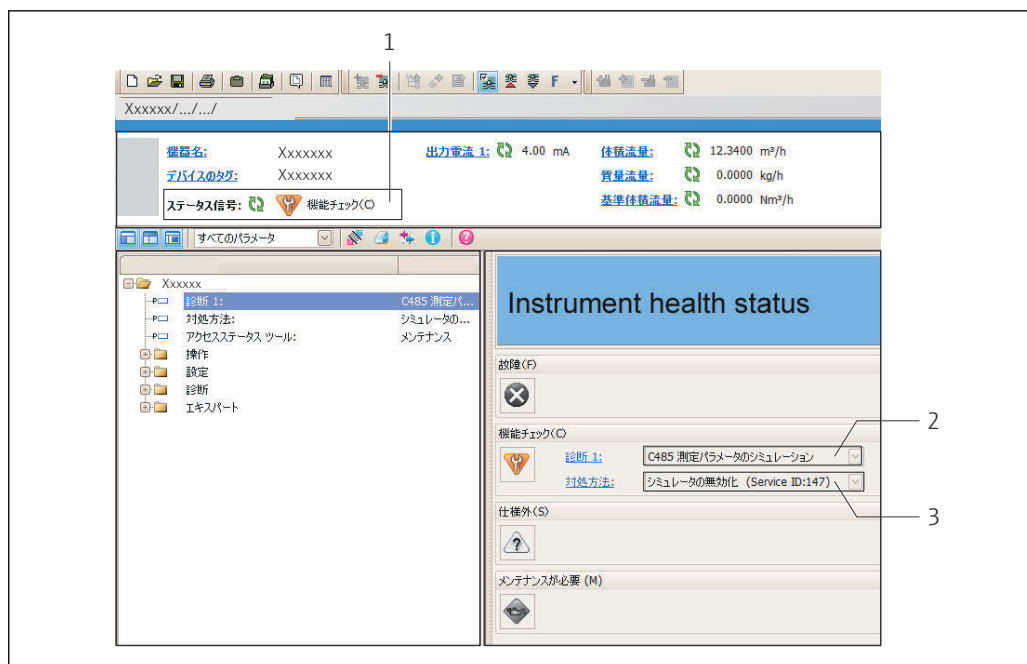
11.4.2 対策情報の呼び出し

問題を迅速に是正できるよう、各診断イベントに対して対策情報が提供されます。これらの対策は、診断イベントおよび関連する診断情報とともに赤で表示されます。

11.5 FieldCare または DeviceCare の診断情報

11.5.1 診断オプション

機器が検知したエラーは、接続が確立されると操作ツールのホームページに表示されます。



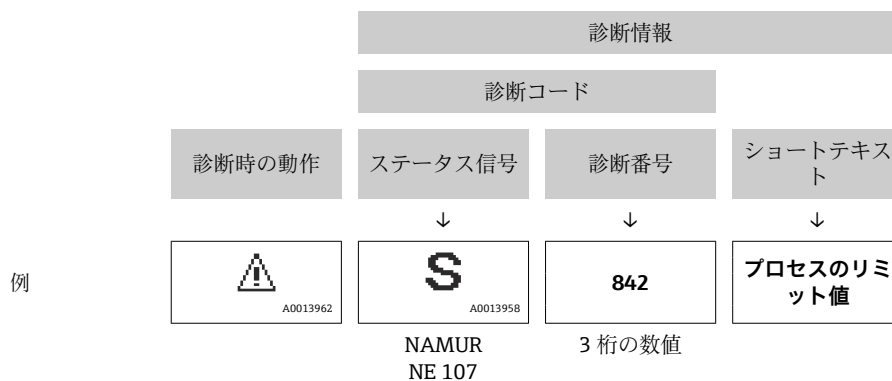
A0021799-JA

- 1 ステータスエリアとステータス信号 → 145
- 2 診断情報 → 146
- 3 対処法 (サービス ID)

- i** また、発生した診断イベントは **診断** メニュー に表示されます。
- パラメータを使用 → 154
 - サブメニューを使用 → 155

診断情報

診断情報を使用してエラーを特定することが可能です。ショートテキストにより、エラーに関する情報が提供されます。さらに、診断動作に対応するシンボルが現場表示器の診断情報の前に表示されます。



11.5.2 対策情報の呼び出し

問題を迅速に是正できるよう、各診断イベントに対して対策情報が提供されます。

- ホームページ上
対策情報は、診断情報の下の別個フィールドに表示されます。
- **診断** メニュー 内
対策情報はユーザーインターフェイスの作業エリアに呼び出すことが可能です。

診断 メニュー に移動します。

1. 必要なパラメータを呼び出します。

2. 作業エリアの右側で、パラメータの上にマウスポインタを移動させます。
↳ 診断イベントに対する対策情報のヒントが表示されます。

11.6 通信インターフェイスを介した診断情報

11.6.1 診断情報の読み出し

診断情報は Modbus RS485 レジスタアドレスを介して読み出すことが可能です。

- レジスタアドレス **6821** 経由 (データ型 = 文字列) : 診断コード、例 : F270
- レジスタアドレス **6859** 経由 (データ型 = 整数) : 診断コード、例 : 270

 診断番号と診断コード付きの診断イベントの概要用 →  151

11.6.2 エラー応答モードの設定

通信 サブメニュー の 2 つのパラメータを使用して、Modbus RS485 通信のエラー応答モードを設定できます。

ナビゲーションパス
設定 → 通信

パラメータ概要 (簡単な説明付き)

パラメータ	説明	選択	初期設定
フェールセーフモード	Modbus 通信を介して診断メッセージが発生した場合の測定値出力を選択  このパラメータの影響は、 診断動作の割り当て パラメータで選択したオプションに応じて異なります。	■ NaN の値 ■ 最後の有効値  NaN ≡ 非数	NaN の値

11.7 診断情報の適合

11.7.1 診断時の動作の適応

診断情報の各項目には、工場出荷時に特定の診断動作が割り当てられています。特定の診断情報については、ユーザーがこの割り当てを**診断時の動作** サブメニューで変更できます。

エキスパート → システム → 診断イベントの処理 → 診断時の動作

診断番号に診断動作として次の選択項目を割り当てることが可能です。

選択項目	説明
アラーム	機器が測定を停止します。Modbus RS485 を介した測定値の出力および 積算計が設定されたアラーム状態になります。診断メッセージが生成されます。バックライトが赤に変わります。
警告	機器は測定を継続します。Modbus RS485 を介した測定値および積算計は影響を受けません。診断メッセージが生成されます。
ログブック入力のみ	機器は測定を継続します。診断メッセージは イベントログブック サブメニュー (イベントリスト サブメニュー) にのみ表示され、操作画面と交互に表示されることはありません。
オフ	診断イベントは無視され、診断メッセージの生成または入力には行なわれません。

11.8 診断情報の概要

 機器に 1 つ以上のアプリケーションパッケージがある場合は、診断情報および関係する測定変数の数は増加します。

 診断情報の一部の項目では、診断動作を変更することが可能です。診断情報の適合 →  150

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
センサの診断				
004	センサエラー	センサの交換	F	Alarm
082	データストレージ	1. モジュール接続をチェックして下さい。 2. 電子モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
083	電子メモリ内容	1. 機器を再起動する。 2. HistoROM S-DAT のバックアップをリストアする ('機器のリセット'パラメータ) 3. HistoROM S-DAT を交換する。	F	Alarm
144	センサドリフト	1. センサを確認してください 2. センサを交換してください	F	Alarm ¹⁾
電子部の診断				
201	機器の故障	機器を再起動	F	Alarm
242	ソフトウェアの互換性なし	1. ソフトウェアをチェックして下さい。 2. メイン電子モジュールのフラッシュまたは交換して下さい。	F	Alarm
252	モジュールの互換性なし	1. 電子モジュールを確認 2. 正しいモジュールがあるかを確認 (例.防爆、非防爆) 3. 電子モジュールを交換	F	Alarm
252	モジュールの互換性なし	1. 正しい電子モジュールが使われているか確認する 2. 電子モジュールを交換する	F	Alarm
262	センサ電子部接続不良	1. センサ電子モジュール (ISEM)とメイン電子基板間の接続ケーブルを確認または交換。 2. ISEM またはメイン電子基板を確認または交換。	F	Alarm
270	メイン電子モジュール故障	メイン電子モジュールの変更	F	Alarm
271	メイン電子モジュール故障	1. 機器を再起動して下さい。 2. メイン電子モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
272	メイン電子モジュール故障	機器を再起動	F	Alarm
273	メイン電子モジュール故障	電子基板を交換	F	Alarm
275	I/O モジュール 1~n 故障	I/O モジュールの変更	F	Alarm
276	I/O モジュール 1~n 誤り	1. 機器を再起動して下さい。 2. IO モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
281	電子的な初期化	ファームウェアのアップデート中です、お待ちください！	F	Alarm
283	電子メモリ内容	機器をリセット	F	Alarm
283	電子メモリ内容	機器を再起動	F	Alarm
302	機器の検証中	機器の検証がアクティブです、お待ちください。	C	Warning

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
303	I/O 1～n 構成変更	1. I/O モジュールの構成を適用する。(パラメータ I/O 構成の適用) 2. その後、DD を再読み込みして配線を確認する。	M	Warning
311	電子モジュール故障	1. 機器をリセットしないでください 2. 弊社サービスへ連絡	M	Warning
332	組み込み HistoROM への書き込み失敗	ユーザインタフェースボードを交換してください 防爆：変換器を交換	F	Alarm
361	I/O モジュール 1～n 誤り	1. 機器を再起動して下さい。 2. 電子モジュールをチェックして下さい。 3. IO モジュールまたはメイン電子モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
372	センサ電子部 (ISEM)故障	1. 機器を再起動する。 2. 故障が再発するか確認する。 3. センサ電子モジュール(ISEM)を交換する。	F	Alarm
373	センサ電子部 (ISEM)故障	データを転送するか機器をリセットする	F	Alarm
375	I/O- 1～n 通信異常	1. 機器を再起動する。 2. 故障が再発するか確認する。 3. 電子モジュールを含むモジュールラックを交換する。	F	Alarm
378	ISEM への供給電圧に問題	ISEM への供給電圧を確認	F	Alarm
382	データストレージ	1. T-DAT を挿入する。 2. T-DAT を交換する。	F	Alarm
383	電子メモリ内容	1. 機器を再起動する。 2. `機器のリセット'パラメータから T-DAT を削除する。 3. T-DAT を交換する。	F	Alarm
387	HistROM データの問題	弊社サービスにご連絡ください	F	Alarm
設定の診断				
330	フラッシュファイルが無効	1. 機器のファームウェアをアップデートする。 2. 機器を再起動する。	M	Warning
331	ファームウェアアップデート失敗	1. 機器のファームウェアをアップデートする。 2. 機器を再起動する。	F	Warning
410	データ転送	1. 接続をチェックして下さい。 2. データ転送を再試行して下さい。	F	Alarm
412	ダウンロード中	ダウンロード中です。しばらくお待ち下さい。	C	Warning
431	トリム 1～n	調整の実行	C	Warning
437	設定の互換性なし	機器を再起動	F	Alarm
438	データセット	1. データセットファイルのチェック 2. 機器設定のチェック 3. 新規設定のアップロード/ダウンロード	M	Warning
441	電流出力 1～n	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. 電流出力の設定をチェックして下さい。	S	Warning ¹⁾
442	周波数出力 1～n	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. 周波数出力の設定をチェックして下さい。	S	Warning ¹⁾
442	周波数出力 1～n		S	Warning
443	パルス出力 1～n	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. パルス出力の設定をチェックして下さい。	S	Warning ¹⁾

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
444	電流入力 1~n	1. プロセスを確認。 2. 電流入力の設定を確認。	S	Warning ¹⁾
453	流量の強制ゼロ出力	流量オーバーライドの無効化	C	Warning
484	エラーモードのシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Alarm
485	測定値のシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Warning
486	電流入力 1~n のシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Warning
491	電流出力 1~n のシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Warning
492	周波数出力のシミュレーション 1~n	シミュレーション周波数出力を無効にする。	C	Warning
493	パルス出力のシミュレーション 1~n	シミュレーションパルス出力を無効にする	C	Warning
494	シミュレーションスイッチ出力 1~n	シミュレーションスイッチ出力を無効にする。	C	Warning
495	診断イベントのシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Warning
496	ステータス入力のシミュレーション	ステータス入力のシミュレーションを止める。	C	Warning
520	I/O 1~n ハードウェア構成無効	1. I/O ハードの構成を確認 2. 問題のある I/O モジュールを交換 3. 正しいスロットにダブルパルスモジュールを挿入	F	Alarm
537	設定	1. IP アドレスの確認 2. IP アドレスの変更	F	Warning
539	フローコンピュータの設定が正しくありません	1. 入力値 (圧力、温度) をチェックしてください。 2. 流体特性が許容値かチェックしてください。	S	Alarm
594	リレー出力 シミュレーション	シミュレーションスイッチ出力を無効にする。	C	Warning
プロセスの診断				
803	電流ループ	1. 配線のチェックをして下さい。 2. IO モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
832	基板温度が高すぎます	周囲温度を下げてください。	S	Warning ¹⁾
833	基板温度が低すぎます	周囲温度を上げて下さい。	S	Warning ¹⁾
834	プロセス温度が高すぎます	プロセス温度を下げてください。	S	Warning ¹⁾
835	プロセス温度が低すぎます	プロセス温度を上げて下さい。	S	Warning ¹⁾
842	プロセスのリミット値	ローフローカットオフ有効! 1. ローフローカットオフの設定を確認してください。	S	Warning ¹⁾
882	入力信号	1. 入力設定をチェック 2. 圧力センサまたはプロセス状態をチェック	F	Alarm
941	流速が速過ぎます	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. プロセス圧力を上げて下さい。	S	Alarm
961	温度差	流量の確認	S	Alarm

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
976	校正レンジ外の質量流量	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. プロセス圧力を上げてください。	S	Warning ¹⁾
977	逆方向流れを検知	流れ方向の確認	S	Warning ¹⁾
979	不安定なプロセス状態	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. プロセス圧力を上げてください。	S	Warning ¹⁾

1) 診断動作を変更できます。

11.9 未処理の診断イベント

診断 メニュー を使用すると、現在の診断イベントおよび前回の診断イベントを個別に表示させることが可能です。

-  診断イベントの是正策を呼び出す方法：
- 現場表示器を使用→  147
 - ウェブブラウザを使用→  148
 - 「FieldCare」操作ツールを使用→  149
 - 「DeviceCare」操作ツールを使用→  149

 その他の未処理の診断イベントは**診断リスト** サブメニュー→  155 に表示されます。

ナビゲーション
「診断」メニュー

 診断	
現在の診断結果	→  154
前回の診断結果	→  154
再起動からの稼動時間	→  155
稼動時間	→  155

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
現在の診断結果	1つの診断イベントが発生していること。	診断情報に加えて現在発生している診断イベントを表示。  2つあるいはそれ以上のメッセージが同時に発生した場合は、最優先に処理する必要のあるメッセージが表示されます。	診断動作のシンボル、診断コード、ショートメッセージ
前回の診断結果	すでに2つの診断イベントが発生していること。	診断情報に加えて以前に発生した現在の診断イベントを表示。	診断動作のシンボル、診断コード、ショートメッセージ

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
再起動からの稼働時間	–	最後に機器が再起動してからの機器の運転時間を表示。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)
稼働時間	–	装置の稼働時間を示す。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)

11.10 診断リスト

現在未処理の診断イベントを最大 5 件まで関連する診断情報とともに **診断リスト** サブメニューに表示できます。5 件以上の診断イベントが未処理の場合は、最優先に処理する必要のあるイベントが表示部に示されます。

ナビゲーションパス

診断 → 診断リスト



図 38 現場表示器の表示例

i 診断イベントの是正策を呼び出す方法：

- 現場表示器を使用 → 図 147
- ウェブブラウザを使用 → 図 148
- 「FieldCare」操作ツールを使用 → 図 149
- 「DeviceCare」操作ツールを使用 → 図 149

11.11 イベントログブック

11.11.1 イベントログの読み出し

イベントリストサブメニューでは、発生したイベントメッセージの一覧を時系列に表示できます。

ナビゲーションパス

診断メニュー → イベントログブック サブメニュー → イベントリスト

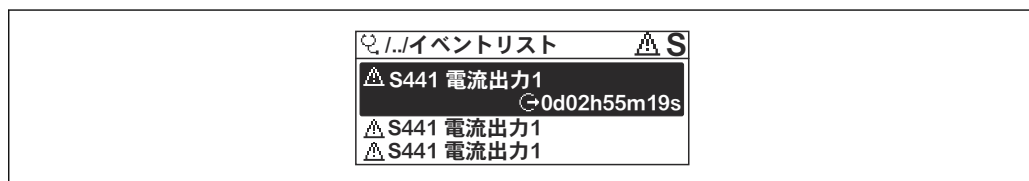


図 39 現場表示器の表示例

- 最大 20 件のイベントメッセージを時系列に表示できます。
- **拡張 HistoROM** アプリケーションパッケージ（注文オプション）が有効な場合、イベントリストには最大 100 件までストア可能です。

イベント履歴には、次の入力項目が含まれます。

- 診断イベント → 図 151
- 情報イベント → 図 156

各イベントの発生時間に加えて、そのイベントの発生または終了を示すシンボルが割り当てられます。

- 診断イベント
 - ⊖ : イベントの発生
 - ⊕ : イベントの終了
- 情報イベント
 - ⊖ : イベントの発生

 診断イベントの是正策を呼び出す方法 :

- 現場表示器を使用→ 147
- ウェブブラウザを使用→ 148
- 「FieldCare」操作ツールを使用→ 149
- 「DeviceCare」操作ツールを使用→ 149

 表示されたイベントメッセージのフィルタリング→ 156

11.11.2 イベントログブックのフィルタリング

フィルタオプション パラメータを使用すると、**イベントリスト**サブメニューに表示するイベントメッセージのカテゴリを設定できます。

ナビゲーションパス
診断→イベントログブック→フィルタオプション

- フィルタカテゴリー**
- すべて
 - 故障 (F)
 - 機能チェック (C)
 - 仕様範囲外 (S)
 - メンテナンスが必要 (M)
 - 情報 (I)

11.11.3 情報イベントの概要

診断イベントとは異なり、情報イベントは診断リストには表示されず、イベントログブックにのみ表示されます。

情報番号	情報名
I1000	----- (装置 OK)
I1079	センサが交換されました。
I1089	電源オン
I1090	設定のリセット
I1091	設定変更済
I1092	HistoROM のバックアップ削除
I1137	電子部が交換されました
I1151	履歴のリセット
I1155	電子部内温度のリセット
I1156	メモリエラー トレンド
I1157	メモリエラー イベントリスト
I1221	ゼロ点調整エラー
I1222	ゼロ点調整 OK
I1256	表示: アクセスステータス変更
I1264	安全機能が中断されました
I1278	I/O モジュールの再スタート

情報番号	情報名
I1335	ファームウェアの変更
I1361	Web サーバ:ログイン失敗
I1397	フィールドバス: アクセスステータス変更
I1398	CDI: アクセスステータス変更
I1444	機器の検証パス
I1445	機器の検証のフェール
I1457	フェール: 測定エラー検証
I1459	フェール: I/O モジュールの検証
I1461	フェール: センサの検証
I1462	フェール: センサの電子機器モジュールの検証
I1512	ダウンロードを開始しました
I1513	ダウンロード終了
I1514	アップロード開始
I1515	アップロード完了
I1554	セーフティ手順の開始
I1555	セーフティの手順が確認されました
I1556	セーフティモードオフ
I1618	I/O モジュール 2 交換
I1619	I/O モジュール 3 交換
I1621	I/O モジュール 4 交換
I1622	校正の変更
I1624	すべての積算計をリセット
I1625	書き込み保護有効
I1626	書き込み禁止無効
I1627	Web サーバ:ログイン成功
I1628	ディスプレイ:ログイン成功
I1629	CDI: ログイン成功
I1631	Web サーバアクセス変更
I1632	ディスプレイ:ログイン失敗
I1633	CDI: ログインの失敗
I1634	工場初期値にリセット
I1635	出荷時設定にリセット
I1639	最大のスイッチサイクル数へ到達
I1649	ハードウェアの書き込み保護が有効
I1650	ハードウェアの書き込み保護は無効
I1712	新しいフラッシュファイルを受領
I1725	センサ電子部モジュール (ISEM)交換
I1726	設定のバックアップ失敗

11.12 機器のリセット

機器リセット パラメータ (→ 117)を使用して、機器の全設定または部分的な設定を定義済みの状態にリセットできます。

11.12.1 「機器リセット」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
キャンセル	何も実行せずにこのパラメータを終了します。
納入時の状態に	ユーザー固有の初期設定で注文されたすべてのパラメータをユーザー固有の値にリセットします。その他のパラメータはすべて、工場出荷時の設定にリセットされます。
機器の再起動	再起動により、揮発性メモリ（RAM）に保存されているデータをもつすべてのパラメータが工場設定にリセットされます（例：測定値データ）。機器設定に変更はありません。
S-DAT のバックアップをリストア	S-DAT に保存されているデータを復元します。追加情報：この機能はメモリの"083 メモリ内容が不整合"を解決するためまたは、新しい S - DAT を取り付けたときに S-DAT のデータを復元するために使用できます。  このオプションはアラーム状態でのみ表示されます。

11.13 機器情報

機器情報 サブメニューには、機器の識別に必要な各種情報を表示するパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション
「診断」メニュー → 機器情報

▶ 機器情報		
デバイスのタグ	→	 159
シリアル番号	→	 159
ファームウェアのバージョン	→	 159
機器名	→	 159
オーダーコード	→	 159
拡張オーダーコード 1	→	 159
拡張オーダーコード 2	→	 159
拡張オーダーコード 3	→	 159
ENP バージョン	→	 159

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
デバイスのタグ	機器のタグを表示します。	最大 32 文字（英字、数字、または特殊文字（例：@, %, /）など）	-
シリアル番号	機器のシリアル番号の表示。	最大 11 文字の英字および数字	-
ファームウェアのバージョン	ファームウェアバージョンの表示。	形式 xx.yy.zz の文字列	-
機器名	変換器の名称の表示。  名称は変換器の銘板に明記されています。	数字、英字、特殊文字からなる文字列	-
オーダーコード	機器のオーダーコードの表示。	英字、数字、特定の句読点（/ など）で構成される文字列	-
拡張オーダーコード 1	拡張オーダーコードの 1 番目の部分を表示。	文字列	-
拡張オーダーコード 2	拡張オーダーコードの 2 番目の部分を表示。  拡張オーダーコードもセンサおよび変換器の銘板の「拡張オーダーコード」欄に明記されています。	文字列	-
拡張オーダーコード 3	拡張オーダーコードの 3 番目の部分を表示。  拡張オーダーコードもセンサおよび変換器の銘板の「拡張オーダーコード」欄に明記されています。	文字列	-
ENP バージョン	電子ネームプレート (ENP)のバージョンを表示。	文字列	-

11.14 ファームウェアの履歴

-  サービスインタフェース (CDI) を使用してファームウェアを現行バージョンまたは旧バージョンに書き換えることができます。
-  ファームウェアのバージョンと以前のバージョン、インストールされたデバイス記述ファイルおよび操作ツールとの互換性については、メーカー情報資料の機器情報を参照してください。
-  メーカー情報は、以下から入手できます。
 - 当社ウェブサイトのダウンロードエリアより：www.endress.com → Download
 - 次の詳細を指定します。
 - テキスト検索：メーカー情報
 - メディアタイプ：ドキュメント - 技術資料

12 メンテナンス

12.1 メンテナンス作業

特別なメンテナンス作業は不要です。

12.1.1 外部洗浄

機器の外部を洗浄する場合は、必ずハウジングまたはシールの表面に傷をつけない洗浄剤を使用してください。

12.1.2 センサ素子の洗浄

センサ素子の洗浄

機器は、洗浄のために取り外すことができます。

レンチサイズ 36 mm (1.42 in) を使用してセンサを取り外します。

警告

押し出された機器により負傷する恐れがあります。

▶ 洗浄作業を開始する前に、システムが加圧されていないことを確認してください。

注記

センサ素子が損傷する恐れがあります。

▶ センサ素子がどこにも当たらないことを確認してください。

注記

不適切な器具や洗浄液を使用すると、機器が損傷する恐れがあります。

▶ 配管洗浄にはピグを使用しないでください。

▶ センサの洗浄には、被膜を形成しないオイルフリーの洗浄剤を使用してください。

注記

シール表面が損傷する恐れがあります。

▶ シール表面がどこにも当たらないことを確認してください。

1. システムが加圧されていないことを確認します。

2. 機器のコンプレッションフィッティングを緩めます。

3. プロセス配管から機器を慎重に取り外します。

4.  注記

保護キャップによりセンサ素子は損傷しないように保護されます。

▶ 保護キャップは取り外さないでください。

やわらかいブラシでセンサ素子をやさしく清掃します。

5. プロセス配管に機器を慎重に挿入します。

↳ 機器が正しい位置に配置されていることを確認します。

6. PEEK 製フェルールの場合：

コンプレッションフィッティングを 1 回転させて締め付けます。

7. 金属製フェルールの場合：

コンプレッションフィッティングを ¼ 回転させて締め付けます。

 配管システムの圧力を上昇させ、目標の圧力に達したら漏れがないか確認します。

12.1.3 再校正

機器の長期安定性は、特にセンサの完全性の影響を受けます。不純物はセンサ上の被膜形成の原因となり、これにより測定信号が変化する可能性があります。そのため、不純物（残油や粉塵など）が生成される可能性のあるアプリケーションでセンサを使用する場合は、定期的にセンサの汚染の有無を点検し、必要に応じて洗浄することをお勧めします（→ 図 160 を参照）。間隔は、汚染の種類、状態、程度に応じて異なります。

温度ショックや継続的な温度変動などのプロセス条件により、時間の経過とともに測定信号のドリフトが生じる可能性があります。再校正により、このような測定信号の望ましくない変化を修正し、初期の測定状態に戻すことができます。

再校正間隔の決定：

- 重要度の高い測定の場合、再校正間隔を決定するために、1 年に 1 回校正チェックを実施する必要があります。
そして、このチェック結果に応じて、次の再校正を早めにまたは遅くに計画できます。
- 重要度の低いアプリケーション、またはクリーンガスやドライガスを使用する場合は、3 年ごとに再校正を行うことをお勧めします。
- Heartbeat 検証は、再校正の実施時期を特定するのに役立ちます。定期的に検証を行うことで、検証結果を工場で測定された初期値と比較することができます。これらの値に偏差が生じた場合、機器の再校正が必要であると考えられます。

12.2 測定機器およびテスト機器

Endress+Hauser は、W@M またはテスト機器など各種の測定機器やテスト機器を提供しています。

 サービスの詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

一部の測定機器およびテスト機器のリスト：→ 図 167

12.3 エンドレスハウザー社サービス

エンドレスハウザー社では、再校正、メンテナンスサービス、またはテスト機器など、メンテナンスに関する幅広いサービスを提供しています。

 サービスの詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

13 修理

13.1 一般情報

13.1.1 修理および変更コンセプト

Endress+Hauser の修理および変更コンセプトでは、次のことが考慮されています。

- 機器はモジュール式の構造となっています。
- スペアパーツは合理的なキットに分類され、関連する取付指示が付属します。
- 修理は、Endress+Hauser サービス担当または適切な訓練を受けたユーザーが実施します。
- 認証を取得した機器は、Endress+Hauser サービス担当または工場でのみ別の認証取得機器に交換できます。

13.1.2 修理および変更に関する注意事項

機器の修理および変更を行う場合は、次の点に注意してください。

- ▶ 弊社純正スペアパーツのみを使用してください。
- ▶ 取付指示に従って修理してください。
- ▶ 適用される規格、各地域/ 各国の規定、防爆資料 (XA)、認証を遵守してください。
- ▶ 修理および変更はすべて文書に記録し、W@M ライフサイクル管理データベースおよび Netilion Analytics に入力してください。

13.2 スペアパーツ

デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) :

機器のスペアパーツがすべてオーダーコードとともにリストされており、注文することが可能です。関連する設置要領書がある場合は、これをダウンロードすることもできます。



機器シリアル番号 :

- 機器の銘板に明記されています。
- **機器情報** サブメニュー 内の **シリアル番号** パラメータ (→ ⓘ 159) を使用して読み出せます。

13.3 Endress+Hauser サービス

Endress+Hauser は、さまざまなサービスを提供しています。



サービスの詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

13.4 返却

機器の安全な返却要件は、機器の種類と各国の法によって異なります。

1. 情報については次のウェブページを参照してください：
<http://www.endress.com/support/return-material>
↳ 地域を選択します。
2. 機器の修理または工場校正が必要な場合、あるいは、誤った機器が注文または納入された場合は、本機器を返却してください。

13.5 廃棄



電子・電気機器廃棄物 (WEEE) に関する指令 2012/19/EU により必要とされる場合、分別されていない一般廃棄物として処理する WEEE を最小限に抑えるため、製品には絵文字シンボルが付いています。このマークが付いている製品は、分別しない一般ゴミとしては廃棄しないでください。代わりに、適切な条件下で廃棄するために製造者へご返送ください。

13.5.1 機器の取外し

1. 機器の電源をオフにします。

警告

プロセス条件によっては、危険が及ぶ可能性があります。

- ▶ 機器内の圧力、高温、腐食性測定物を使用するなど、危険なプロセス条件の場合は注意してください。

2. 「機器の取付け」および「機器の接続」セクションに明記された取付けおよび接続手順と逆の手順を実施してください。安全上の注意事項に従ってください。

13.5.2 機器の廃棄

警告

健康に有害な流体によって、人体や環境に危険が及ぶ可能性があります。

- ▶ 隙間に入り込んだ、またはプラスチックから拡散した物質など、健康または環境に有害な残留物を、機器および隙間の溝からすべて確実に除去してください。

廃棄する際には、以下の点に注意してください。

- ▶ 適用される各地域/各国の規定を遵守してください。
- ▶ 機器コンポーネントを適切に分別および再利用してください。

14 アクセサリ

変換器およびセンサには、アクセサリも多数用意されています。詳細については、最寄りの弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。オーダーコードに関する詳細は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせいただくか、弊社ウェブサイトの製品ページをご覧ください：www.endress.com。

14.1 機器固有のアクセサリ

14.1.1 変換器用

アクセサリ	説明
変換器 Proline 500 – デジタル	交換用あるいは在庫用変換器。オーダーコードを使用して以下の仕様を指定します。 ■ 認証 ■ 出力 ■ 入力 ■ 表示/操作 ■ ハウジング ■ ソフトウェア  Proline 500 – デジタル変換器： オーダー番号：6X5BXX-*****A  交換用の Proline 500 変換器： 注文時に現在の変換器のシリアル番号を明示することが重要です。シリアル番号に基づき、交換する機器の機器固有のデータ（例：校正ファクタ）を新しい変換器で 사용할 ことが可能です。  Proline 500 – デジタル変換器：設置要領書 EA01287D
外部の WLAN アンテナ	外部の WLAN アンテナ、接続ケーブル 1.5 m (59.1 in) と 2 つのアンクル金具付き。「同梱アクセサリ」のオーダーコード、オプション P8「広域ワイヤレスアンテナ」  ■ 外部の WLAN アンテナは、サニタリアプリケーションでの使用には適していません。 ■ WLAN インタフェースに関する追加情報→ 71。  オーダー番号：71351317  設置要領書 EA01238D
パイプ取付セット	変換器用パイプ取付セット  Proline 500 – デジタル変換器 オーダー番号：71346427  設置要領書 EA01195D
日除けカバー 変換器 Proline 500 – デジタル	天候（例：雨水、直射日光による過熱）の影響から機器を保護するために使用します。  Proline 500 – デジタル変換器 オーダー番号：71343504  設置要領書 EA01191D

ディスプレイガード Proline 500 – デジタル	たとえば、砂漠地域での砂などの衝撃または傷から表示部を保護するために使用します。  オーダー番号：71228792  設置要領書 EA01093D
接続ケーブル Proline 500 – デジタル センサ – 変換器	接続ケーブルは機器と一緒に（「ケーブル、センサ接続」のオーダーコード）、またはアクセサリとして注文できます（オーダー番号）。 以下のケーブル長が用意されています（「ケーブル、センサ接続」のオーダーコード）。 ■ オプション B：20 m (65 ft) ■ オプション E：最大 50 m までユーザー設定可能 ■ オプション F：最大 165 ft までユーザー設定可能  Proline 500 – デジタルの接続ケーブルの許容最大ケーブル長： 300 m (1000 ft)

14.1.2 センサ用

アクセサリ	説明
取付ボス	「同梱アクセサリ」のオーダーコード ■ オプション PC「取付ボス、G1"」 ■ オプション PD「取付ボス、1" NPT"」 ■ オプション PE「取付ボス、G¾"」 ■ オプション PF「取付ボス、¾" NPT"」  別途注文可能：オーダーコード DK6MB
コールドタップ（周囲圧力）	「同梱アクセサリ」のオーダーコード ■ オプション PR「コールドタップ G1"、周囲圧力」 ■ オプション PS「コールドタップ 1" NPT、周囲圧力」 ■ オプション PT「コールドタップ G¾"、周囲圧力」 ■ オプション PU「コールドタップ ¾" NPT、周囲圧力」  別途注文可能：オーダーコード DK6ML
ホットタップ（低圧）	「同梱アクセサリ」のオーダーコード ■ オプション PG「ホットタップ G1"、低圧最大 4.5 bar/65 psig」 ■ オプション PH「ホットタップ 1" NPT、低圧最大 4.5 bar/65 psig」 ■ オプション PK「ホットタップ G¾"、低圧最大 4.5 bar/65 psig」 ■ オプション PL「ホットタップ ¾" NPT、低圧最大 4.5 bar/65 psig」  取付セットには、取付ボス（プロセス接続）、センサ接続、安全チェーン、ボールバルブが含まれます。プロセス圧力最大 4.5 barg (65 psi) でのセンサの挿入または取外し用。  アクセサリを別途注文する場合は、個別の組み合わせを選択することが可能です。オーダーコード DK6003

ホットタップ（中圧）	「同梱アクセサリ」のオーダーコード ■ オプション PI「ホットタップ G1"、中圧最大 16 bar/230 psig」 ■ オプション PJ「ホットタップ 1" NPT、中圧最大 16 bar/230 psig」 ■ オプション PM「ホットタップ G¾"、中圧最大 16 bar/230 psig」 ■ オプション PN「ホットタップ ¾" NPT、中圧最大 16 bar/230 psig」  取付セットには、取付ボス（プロセス接続）、センサ接続、ボールバルブ、抜出アセンブリが含まれます。プロセス圧力最大 16 barg（230 psi）でのセンサの挿入または取外し用。  アクセサリを別途注文する場合は、個別の組み合わせを選択することが可能です。オーダーコード DK6003
整流器	 別途注文可能：オーダーコード DK6004 以下の配管直径で使用可能： ■ 呼び口径 80A（3"） ■ 呼び口径 100A（4"） ■ 呼び口径 150A（6"） ■ 呼び口径 200A（8"） ■ 呼び口径 250A（10"） ■ 呼び口径 300A（12"） 以下のプロセス接続で使用可能： ■ PN10、EN1092-1 ■ PN16、EN1092-1 ■ PN25、EN1092-1 ■ PN40、EN1092-1 ■ Cl.150、ASME B16.5 ■ Cl.300、ASME B16.5 ■ 10K、JIS B2220 ■ 20K、JIS B2220  ネジおよびシールは同梱されません。

14.2 通信関連のアクセサリ

アクセサリ	説明
Fieldgate FXA42	接続された 4～20 mA アナログ機器およびデジタル機器の測定値を伝送します。  ■ 技術仕様書（TI01297S）を参照 ■ 取扱説明書 BA01778S ■ 製品ページ：www.endress.com/fxa42
Field Xpert SMT50	機器設定用の Field Xpert SMT70 タブレット PC は、非危険場所でのモバイルプラントアセット管理を可能にします。これは、設定およびメンテナンスの担当者が、デジタル通信インタフェースを使用してフィールド機器を管理し、進捗状況を記録するために適しています。 このタブレット PC は、ドライバライブラリがプレインストールされたオールインワンソリューションとして設計されており、フィールド機器のライフサイクル全体にわたる管理に使用可能な、使いやすいタッチ感応ツールです。  ■ 技術仕様書（TI01342S）を参照 ■ 取扱説明書 BA01709S ■ 製品ページ：www.endress.com/smt50

Field Xpert SMT70	機器設定用の Field Xpert SMT70 タブレット PC は、危険場所や非危険場所でのモバイルプラントアセット管理を可能にします。これは、設定およびメンテナンスの担当者が、デジタル通信インタフェースを使用してフィールド機器を管理し、進捗状況を記録するために適しています。 このタブレット PC は、ドライバライブラリがプレインストールされたオールインワンソリューションとして設計されており、フィールド機器のライフサイクル全体にわたる管理に使用可能な、使いやすいタッチ感応ツールです。  技術仕様書 (TI01342S) を参照  取扱説明書 BA01709S  製品ページ: www.endress.com/smt70
Field Xpert SMT77	機器設定ツール Field Xpert SMT77 タブレット PC を使用すると、Ex Zone 1 に分類される危険場所でのモバイルプラントアセット管理が可能になります。  技術仕様書 (TI01418S) を参照  取扱説明書 BA01923S  製品ページ: www.endress.com/smt77

14.3 サービス関連のアクセサリ

アクセサリ	説明
Applicator	Endress+Hauser 製機器のセクション/サイジング用ソフトウェア。 - 産業上の要件に応じた機器の選定 - 最適な流量計を選定するために必要なあらゆるデータの計算 (例: 呼び口径、圧力損失、流速、精度) - 計算結果を図で表示 - プロジェクトの全期間中、部分オーダーコードの確認、あらゆるプロジェクト関連データおよびパラメータの管理、文書化、アクセスが可能です。 Applicator は以下から入手できます。 - インターネット経由: https://portal.endress.com/webapp/applicator - 現場の PC インストール用にダウンロード可能な DVD
W@M	W@M ライフサイクルマネジメント いつでも入手可能な情報により生産性が向上します。プラントおよびそのコンポーネントに関連するデータを、計画の初期段階および資産のライフサイクル全体にわたって取得することが可能です。 W@M ライフサイクルマネジメントは、オンラインおよびオンサイトツールを備えたオープンでフレキシブルな情報プラットフォームです。データに瞬時にアクセスできるため、プラントのエンジニアリング時間の短縮、購買プロセスの迅速化、プラント稼働時間の増加が実現します。 適切なサービスと組み合わせることにより、W@M ライフサイクルマネジメントはあらゆる段階の生産性向上に役立ちます。詳細については、www.endress.com/lifecyclemanagement を参照してください。
FieldCare	Endress+Hauser の FDT ベースのプラントアセットマネジメントツールです。 システム内のすべてのインテリジェントフィールド機器を設定できるため、管理作業に役立ちます。ステータス情報を使用することにより、各機器のステータスと状態を容易かつ効果的にチェックできます。  取扱説明書 BA00027S / BA00059S
DeviceCare	Endress+Hauser 製フィールド機器の接続および設定用ツール。  イノベーションカタログ IN01047S

14.4 システムコンポーネント

アクセサリ	説明
Memograph M グラフィックデータマネージャ	Memograph M グラフィックデータマネージャには、関連する測定変数の情報がすべて表示されます。測定値を正確に記録し、リミット値の監視、測定点の解析を行います。これらのデータは 256 MB の内部メモリに保存されます。また、SD カードや USB メモリにも保存できます。  ■ 技術仕様書 TI00133R ■ 取扱説明書 BA00247R
Ceraphant PTC31B	気体、蒸気、液体、粉体の絶対圧およびゲージ圧測定用の圧力伝送器です。プロセス圧力値の読み込みに使用できます。  ■ 技術仕様書 TI01130P ■ 取扱説明書 BA01270P
Cerabar PMC21	気体、蒸気、液体、粉体の絶対圧およびゲージ圧測定用の圧力伝送器です。プロセス圧力値の読み込みに使用できます。  ■ 技術仕様書 TI01133P ■ 取扱説明書 BA01271P
Cerabar S PMC71	気体、蒸気、液体の絶対圧およびゲージ圧測定用の圧力伝送器です。プロセス圧力値の読み込みに使用できます。  ■ 技術仕様書 TI00383P ■ 取扱説明書 BA00271P

15 技術データ

15.1 アプリケーション

本機器は、気体の流量測定にのみ使用することを目的としたものです。

機器が耐用年数にわたって適切な動作状態を維持することを保証するため、接液部材質が十分に耐性のある測定物にのみ使用してください。

15.2 機能とシステム構成

測定原理	熱式の計測原理に基づく質量流量測定
計測システム	計測システムは、変換器とセンサから構成されています。変換器とセンサは物理的に離れた場所に設置されます。これらは接続ケーブルを使用して相互に接続されます。 機器の構成に関する詳細 →  13

15.3 入力

測定変数	測定したプロセス変数 ■ 質量流量 ■ 温度 計算したプロセス変数 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量 ■ 自由空気吐出流量 ■ 流速 ■ 発熱量 ■ 2次側温度差熱 ■ 熱流量 ■ エネルギー流量 ■ 密度 注文可能なプロセス変数 「センサバージョン」のオーダーコード： ■ オプション SB「双方向」測定は、両方向の流量（「正方向」および「逆方向」の流量）を測定し、両方向の流量を積算します。機器は両方向で校正されます。 ■ オプション SC「逆流検知」は、正方向の流量のみを測定します。機器により逆方向の流量は検知されますが、積算されません。正の流れ方向でのみ、機器は校正されます。 「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード： オプション EV「第2 気体グループ」により、機器で2 つの異なる標準ガス/混合ガスの設定が可能になり、ステータス入力を使用して、または（利用可能な場合は）バス通信を介して1 つの気体グループから別の気体グループに切り替えることができます。
------	---

測定範囲	使用可能な測定範囲は、気体の選択および配管のサイズに応じて異なります。各機器は、基準動作条件下で空気を使用して個別に校正されます。ユーザー固有の気体の場合は、機器のガスエンジン機能により空気からこの気体に変換されるため、再校正は必要ありません。 空気に対して校正された測定範囲は、次のセクションに記載されています。その他の気体およびプロセス条件については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせいただくか、または Applicator 選択ソフトウェアを使用してください。
------	---

SI 単位

- 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SA「一方向；ステンレス；ステンレス」
- 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション HA「一方向；アロイ；ステンレス」

呼び口径 [mm]	フルスケール値 [kg/h] (空気、20°C、1.013 bar a)		フルスケール値 [Nm3/h] (空気、0°C、1.013 bar a)	
	最小	最大	最小	最大
80	21	2 086	16	1 613
100	33	3 260	25	2 521
150	73	7 335	57	5 672
200	130	13 040	101	10 084
250	204	20 375	158	15 757
300	293	29 340	227	22 689

呼び口径 [mm]	フルスケール値 [kg/h] (空気、20°C、1.013 bar a)		フルスケール値 [Nm³/h] (空気、0°C、1.013 bar a)	
	最小	最大	最小	最大
400	522	52 160	403	40 337
500	815	81 500	630	63 026
600	1174	117 360	908	90 758
700	1597	159 740	1235	123 531
1000	3260	326 000	2 521	252 105
1500	7335	733 501	5 672	567 236

- 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SB「双方向；ステンレス；ステンレス」
- 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SC「逆流検知；ステンレス；ステンレス」

呼び口径 [mm]	フルスケール値 [kg/h] (空気、20°C、1.013 bar a)		フルスケール値 [Nm³/h] (空気、0°C、1.013 bar a)	
	最小	最大	最小	最大
80	13	1 310	10	1 012
100	23	2 310	17	1 786
150	47	4 750	36	3 673
200	84	8 475	65	6 553
250	132	13 250	102	10 246
300	190	19 000	146	14 692
400	337	33 750	260	26 099
500	530	53 000	409	40 986
600	762	76 250	589	58 966
700	1 038	103 820	802	80 286
1000	2 119	211 900	1 638	163 868
1500	4 767	476 750	3 686	368 683

US 単位

- 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SA「一方向；ステンレス；ステンレス」
- 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション HA「一方向；アロイ；ステンレス」

呼び口径 [in]	フルスケール値 [lb/h] (空気、68°F、14.7 psi a)		フルスケール値 [SCFM] (空気、59°F、14.7 psi a)	
	最小	最大	最小	最大
3	42	4 173	9	909
4	74	7 419	16	1 616
6	167	16 693	36	3 636
8	297	29 677	65	6 464
10	464	46 371	101	10 100
12	668	66 774	145	14 544
16	1 187	118 709	259	25 856

呼び口径 [in]	フルスケール値 [lb/h] (空気、68°F、14.7 psi a)		フルスケール値 [SCFM] (空気、59°F、14.7 psi a)	
	最小	最大	最小	最大
20	1855	185 482	404	40 400
24	2 671	267 094	582	58 176
28	3 635	363 545	792	79 184
40	7 419	741 929	1 616	161 600
60	16 693	1 669 340	3 636	363 600

- 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SB 「双方向；ステンレス；ステンレス」
- 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SC 「逆流検知；ステンレス；ステンレス」

呼び口径 [in]	フルスケール値 [lb/h] (空気、68°F、14.7 psi a)		フルスケール値 [SCFM] (空気、59°F、14.7 psi a)	
	最小	最大	最小	最大
3	29	2 981	6	648
4	52	5 257	11	1 144
6	108	10 810	23	2 354
8	192	19 287	42	4 200
10	301	30 155	65	6 567
12	432	43 241	94	9 417
16	768	76 810	167	16 729
20	1 206	120 620	262	26 272
24	1 735	173 533	377	37 797
28	2 362	236 279	514	51 463
40	4 822	482 253	1 050	105 039
60	10 850	1 085 012	2 363	236 326

記載されている流量は、校正された条件での代表値にすぎず、現場での動作条件および実際の配管内径における測定性能を反映しているものではありません。アプリケーションに適した機器バージョンおよびサイズが選択されていることを確認するには、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせいただくか、または **Applicator** 選択ソフトウェアを使用してください。

特殊アプリケーション

高い気体流速 (>70 m/s)

気体流速が高い場合、速度に応じた補正が実行されるため、プロセス圧力を動的に読み込むか、圧力をできるだけ正確に入力することを推奨します。

軽質ガス（水素、ヘリウム）

- 軽質ガスは熱伝導率が非常に高いため、信頼性の高い測定は困難な場合があります。アプリケーションによっては、軽質ガスの流速が特に遅いことが多く、十分に発達した流速分布にならない場合があります。流れはしばしば層流の範囲内にありますが、実際には最適な測定のために乱流が必要となります。
- 軽質ガスおよび低流量のアプリケーションでは精度とリニアリティが失われますが、本機器は繰返し性の高い測定を行うため、流動状態の監視（例：漏れ検知）に最適です。
- 軽質ガスの場合、推奨の上流側直管長は 2 倍になります。→ 20

計測可能流量範囲

- 工場出荷時校正で 200:1
- アプリケーション固有の調整で最大 1000:1

入力信号

外部の値

本機器には、外部の測定値 → ④ 173 を機器に伝送するためのインタフェースが装備されます。

- アナログ入力 4-20 mA
- デジタル入力

圧力値は、絶対圧またはゲージ圧として伝送できます。ゲージ圧の場合、大気圧は既知であるか、またはユーザーが指定する必要があります。

電流入力

電流入力を介して測定値がオートメーションシステムから機器に書き込まれます → ④ 173。

デジタル通信

オートメーションシステムにより、Modbus RS485 を介して測定値が書き込まれます。

電流入力 0/4～20 mA

電流入力	0/4～20 mA (アクティブ/パッシブ)
電流スパン	■ 4～20 mA (アクティブ) ■ 0/4～20 mA (パッシブ)
分解能	1 μ A
電圧降下	通常：0.6～2 V、3.6～22 mA の場合 (パッシブ)
最大入力電圧	≤ 30 V (パッシブ)
開回路電圧	≤ 28.8 V (アクティブ)
可能な入力変数	■ 圧力 ■ 温度 ■ Mol-% (気体分析計) ■ 外部基準流量 (現場調整)

ステータス入力

最大入力値	■ DC -3～30 V ■ ステータス入力 that アクティブ (オン) な場合：$R_i > 3 \text{ k}\Omega$
応答時間	設定可能：5～200 ms
入力信号レベル	■ ローレベル：DC -3～+5 V ■ ハイレベル：DC 12～30 V
割り当て可能な機能	■ オフ ■ 各積算計を個別にリセット ■ すべての積算計をリセット ■ 流量の強制ゼロ出力 ■ 第 2 気体グループ ■ ゼロ点調整

15.4 出力

出力信号

Modbus RS485

物理的インターフェイス	RS485 は EIA/TIA-485 規格に準拠
終端抵抗	内蔵、DIP スイッチにより使用可能

電流出力 4～20 mA

信号モード	可能な設定 : ■ アクティブ ■ パッシブ
電流スパン	可能な設定 : ■ 4～20 mA NAMUR ■ 4～20 mA US ■ 4～20 mA ■ 0～20 mA (信号モードが有効な場合のみ) ■ 固定電流値
最大出力値	22.5 mA
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
最大入力電圧	DC 30 V (パッシブ)
負荷	0～700 Ω
分解能	0.38 μA
ダンピング	設定可能 : 0～999.9 秒
割り当て可能な測定変数	■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 自由空気吐出流量 ■ 流速 ■ 温度 ■ エネルギー流量 ■ 圧力 ■ 密度 ■ 熱流量 ■ 電子モジュール内温度 ■ 2 次側温度差熱 SIL (アプリケーションパッケージ) の場合、質量流量のみ

パルス/周波数/スイッチ出力

機能	パルス、周波数、またはスイッチ出力として設定可能
バージョン	オープンコレクタ 可能な設定 : ■ アクティブ ■ パッシブ ■ パッシブ NAMUR
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
電圧降下	22.5 mA の場合 : ≤ DC 2 V
パルス出力	
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)
最大出力電流	22.5 mA (アクティブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)

パルス幅	設定可能 : 0.05~2 000 ms
最大パルスレート	10 000 Impulse/s
パルス値	設定可能
割当て可能な測定変数	■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 自由空気吐出流量 ■ エネルギー流量 ■ 熱流量 SIL (アプリケーションパッケージ) の場合、質量流量のみ
周波数出力	
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)
最大出力電流	22.5 mA (アクティブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
出力周波数	設定可能 : 周波数終了値 2~10 000 Hz ($f_{\max} = 12\,500$ Hz)
ダンピング	設定可能 : 0~999.9 秒
ハイ/ロー	1:1
割当て可能な測定変数	■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 自由空気吐出流量 ■ 流速 ■ 温度 ■ エネルギー流量 ■ 圧力 ■ 密度 ■ 熱流量 ■ 電子部温度 ■ 2 次側温度差熱 SIL (アプリケーションパッケージ) の場合、質量流量のみ
スイッチ出力	
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
スイッチング動作	バイナリ、導通または非導通
スイッチング遅延	設定可能 : 0~100 秒
スイッチング回数	無制限
割当て可能な機能	■ オフ ■ オン ■ 診断時の動作 ■ リミット値 ■ オフ ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 自由空気吐出流量 ■ 熱流量 ■ エネルギー流量 ■ 流速 ■ 密度 ■ 発熱量 ■ 温度 ■ 2 次側温度差熱 ■ 積算計 1~3 ■ 電子部温度 ■ 流れ方向監視 ■ ステータス ■ ローフローカットオフ

リレー出力

機能	スイッチ出力
バージョン	リレー出力、電氣的に絶縁
スイッチング動作	可能な設定： ■ NO（ノーマルオープン）、工場設定 ■ NC（ノーマルクローズ）
最大スイッチング容量（パッシブ）	■ DC 30 V、0.1 A ■ AC 30 V、0.5 A
割当て可能な機能	■ オフ ■ オン ■ 診断時の動作 ■ リミット値 ■ オフ ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 自由空気吐出流量 ■ 熱流量 ■ エネルギー流量 ■ 流速 ■ 密度 ■ 温度 ■ 2 次側温度差熱 ■ 積算計 1～3 ■ 電子モジュール内温度 ■ 流れ方向監視 ■ ステータス ■ ローフローカットオフ

ユーザー設定可能な入力/出力

機器設定中に特定の入力または出力の **1 つ** がユーザー設定可能な入力/出力（設定可能な I/O）に割り当てられます。

以下の入力および出力の割り当てが可能です。

- 電流出力の選択：4 ～ 20 mA（アクティブ）、0/4 ～ 20 mA（パッシブ）
- パルス/周波数/スイッチ出力
- 電流入力の選択：4 ～ 20 mA（アクティブ）、0/4 ～ 20 mA（パッシブ）
- ステータス入力

アラーム時の信号

インターフェイスに応じて、以下のようにエラー情報が表示されます。

Modbus RS485

フェールセーフモード	以下から選択： ■ 現在値の代わりに NaN 値（非数） ■ 最後の有効値
------------	--

電流出力 0/4～20 mA

4～20 mA

フェールセーフモード	以下から選択： ■ 4～20 mA、NAMUR 推奨 NE 43 に準拠 ■ 4～20 mA、US に準拠 ■ 最小値：3.59 mA ■ 最大値：22.5 mA ■ 設定可能な値範囲：3.59～22.5 mA ■ 実際の値 ■ 最後の有効値
------------	---

0～20 mA

フェールセーフモード	以下から選択： ■ 最大アラーム：22 mA ■ 設定可能な値範囲：0～20.5 mA
------------	--

パルス/周波数/スイッチ出力

パルス出力	
エラーモード	以下から選択： ■ 実際の値 ■ パルスなし
周波数出力	
エラーモード	以下から選択： ■ 実際の値 ■ 0 Hz ■ 設定可能な値範囲：2～12 500 Hz
スイッチ出力	
エラーモード	以下から選択： ■ 現在のステータス ■ オープン ■ クローズ

リレー出力

フェールセーフモード	以下から選択： ■ 現在のステータス ■ オープン ■ クローズ
------------	--

現場表示器

ブレンテキスト表示	原因と対処法に関する情報
バックライト	赤色は機器エラーを示します。

 NAMUR 推奨 NE 107 に準拠するステータス信号

インタフェース/プロトコル

- デジタル通信経由：
 - Modbus RS485
- サービスインタフェース経由
 - CDI-RJ45 サービスインタフェース
 - WLAN インタフェース

ブレンテキスト表示	原因と対処法に関する情報
-----------	--------------

ウェブブラウザ

ブレンテキスト表示	原因と対処法に関する情報
-----------	--------------

発光ダイオード（LED）

ステータス情報	各種 LED でステータスを示します。 機器バージョンに応じて以下の情報が表示されます。 ■ 電源電圧がアクティブ ■ データ伝送がアクティブ ■ 機器アラーム/エラーが発生  発光ダイオードによる診断情報 →  143
---------	---

ローフローカットオフ ローフローカットオフ値はユーザーが任意に設定可能

電氣的絶縁 以下に対して、出力は電氣的に絶縁されています。

- 電源
- 相互
- 電位平衡（PE）端子

プロトコル固有のデータ

プロトコル	Modbus アプリケーションプロトコル仕様 V1.1
応答時間	■ 直接データアクセス：標準 25～50 ms ■ 自動スキャンバッファ（データ範囲）：標準 3～5 ms
機器タイプ	スレーブ
スレーブアドレス範囲	1～247
信号送信アドレス範囲	0
機能コード	■ 03：保持レジスタの読み出し ■ 04：入力レジスタの読み出し ■ 06：シングルレジスタへの書き込み ■ 08：診断 ■ 16：連続したレジスタへの書き込み ■ 23：連続したレジスタへの書き込みと読み込み
信号送信メッセージ	以下の機能コードで対応： ■ 06：シングルレジスタへの書き込み ■ 16：連続したレジスタへの書き込み ■ 23：連続したレジスタへの書き込みと読み込み
対応通信速度	■ 1200 BAUD ■ 2400 BAUD ■ 4800 BAUD ■ 9600 BAUD ■ 19200 BAUD ■ 38400 BAUD ■ 57600 BAUD ■ 115200 BAUD
データ伝送モード	■ ASCII ■ RTU
データアクセス	各機器パラメータは、Modbus RS485 を介してアクセス可能です。  Modbus レジスタ情報
システム統合	システム統合に関する情報 →  75 ■ Modbus RS485 情報 ■ 機能コード ■ レジスタ情報 ■ 応答時間 ■ Modbus データマップ

15.5 電源

端子の割当て → 図 36

電源電圧

オーダーコード 「電源」	端子電圧		周波数範囲
オプション D	DC 24 V	±20%	–
オプション E	AC100～240 V	–15...+10%	50/60 Hz、±4 Hz
オプション I	DC 24 V	±20%	–
	AC100～240 V	–15...+10%	50/60 Hz、±4 Hz

消費電力

変換器

最大 10 W (有効電力)

電源投入時の突入電流：	最大 36 A (< 5 ms)、NAMUR 推奨 NE 21 に準拠
-------------	-------------------------------------

消費電流

変換器

- 最大 400 mA (24 V)
- 最大 200 mA (110 V、50/60 Hz ; 230 V、50/60 Hz)

電源故障時/停電時

- 積算計は測定された最後の有効値で停止します。
- 機器バージョンに応じて、設定は機器メモリまたは取り外し可能なデータメモリ (HistoROM DAT) に保持されます。
- エラーメッセージ (総稼働時間を含む) が保存されます。

過電流保護エレメント

機器本体には ON/OFF スイッチがないため、本機器は専用のブレーカと組み合わせて操作する必要があります。

- ブレーカは手の届きやすい場所に配置し、適切なラベルを貼付してください。
- ブレーカの許容公称電流：2 A、最大 10 A

電気接続

→ 図 38

電位平衡

→ 図 42

端子

スプリング端子：より線およびスリーブ付きより線に最適
導体断面積 0.2～2.5 mm² (24～12 AWG)

電線管接続口

- ケーブルグランド：M20 × 1.5 使用ケーブル Ø 6～12 mm (0.24～0.47 in)
- 電線管接続口用ねじ：
 - NPT ½"
 - G ½"
 - M20

ケーブル仕様

→ 図 32

過電圧保護

電源電圧変動	→ 𐀀 179
過電圧カテゴリー	過電圧カテゴリー II
短期的、一時的な過電圧	ケーブルと接地間：最大 1200 V、最大 5 秒 間
長期的、一時的な過電圧	ケーブルと接地間：最大 500 V

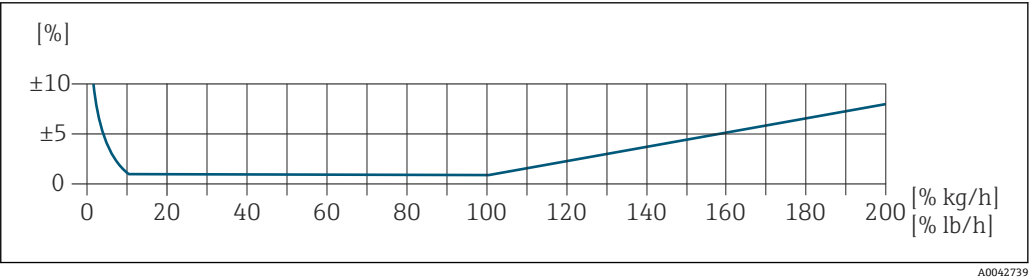
15.6 性能特性

基準動作条件

- ISO 11631 に基づくエラーリミット
- +20～+30 °C (+68～+86 °F) の乾燥空気、0.08～0.15 MPa (12～22 psi) 時
- 仕様は校正プロトコルに準拠
- ISO 17025 に準拠した認定校正装置に基づく精度。

i 測定誤差を確認するには、Applicator サイジング用ツールを使用してください。
→ 167

最大測定誤差



校正された測定範囲

測定精度は、質量流量との関連で指定され、2つの範囲に分けられます。

- 校正された測定範囲の 100%～10% では現在の測定値の ±1.0 % (基準動作条件下)
- 校正された測定範囲の 10%～1% では校正済みフルスケール値の ±0.10 % (基準動作条件下)

本機器は、トレーサブルな認定校正装置を使用して校正および調整が行われ、その精度は校正レポート¹⁾ (5 x 制御ポイント) で認証されています。

「流量校正」のオーダーコード：

- オプション G 「工場出荷時校正」：校正レポート (5 x 制御ポイント)
- オプション K 「トレーサブル ISO/IEC17025」：スイス校正サービス (SCS) 校正レポート (5 x 制御ポイント)、国家校正標準に対するトレーサビリティを確認

i 校正された測定範囲および最大測定範囲の詳細 → 170

拡張測定範囲

機器には、最大の校正值 (100%) を超える拡張測定範囲があります。ここでは、校正された範囲の最後の測定値が取得され、推定されます。センサの生成エネルギーが超過した場合、および/またはマッハ数が以下に記載されている値より大きい場合にのみ、外挿範囲の最後に到達します。

マッハ数	オーダーコード
0.2	■ 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SB 「双方向；ステンレス；ステンレス」 ■ 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SC 「逆方向流量検知；ステンレス；ステンレス」
0.4	■ 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SA 「一方向；ステンレス；ステンレス」 ■ 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション HA 「一方向；アロイ；ステンレス」

1) 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SB 「双方向；ステンレス；ステンレス」の場合は、2つの校正レポート

精度は、質量流量との関連で指定されます。
校正された測定範囲の 100%～200% で $\pm 1.0\% \pm (\text{現在の測定値 (\%)} - 100\%) \times 0.07$ (基準動作条件下)

出力の精度

出力の基準精度は、以下の通りです。

電流出力

精度	$\pm 5 \mu\text{A}$
----	---------------------

パルス/周波数出力

o.r. = 読み値

精度	最高 $\pm 50 \text{ ppm o.r.}$ (全周囲温度範囲に対して)
----	--

繰返し性	速度が 1.0 m/s (3.3 ft/s) を超える場合、表示値の $\pm 0.25 \%$
------	--

応答時間	標準的に、ステップ応答の 63 % で < 3 秒 (両方向とも)
------	-----------------------------------

周囲温度の影響	電流出力
---------	------

温度係数	最大 $1 \mu\text{A}/^\circ\text{C}$
------	-----------------------------------

パルス/周波数出力

温度係数	付加的な影響はありません。精度に含まれます。
------	------------------------

プロセス温度の影響	空気：基準温度に対するプロセス温度変化 1°C あたり 0.02% (1°F あたり 0.036%)
-----------	--

流体圧力の影響	空気：プロセス圧力変化 1 bar あたり 0.3% (1 psi あたり 0.02%) (設定されたプロセス圧力に対して)
---------	--

15.7 取付け

取付要件	→ 18
------	------

15.8 環境

周囲温度範囲	機器	-40～+60 °C (-40～+140 °F) ■ 「試験、証明」のオーダーコード、オプション JP : -50～+60 °C (-58～+140 °F)
	現場表示器の視認性	-20～+60 °C (-4～+140 °F) 温度が許容温度範囲外の場合、表示部の視認性が悪化する可能性があります。

注記**過熱の危険**

- ▶ 変換器ハウジング下端の温度は 80 °C (176 °F) を超えないようにしてください。
- ▶ 変換器ネック部分で十分な対流が起きていることを確認してください。
- ▶ 爆発性雰囲気中使用する場合は、機器固有の防爆資料の指示に従ってください。温度表の詳細については、別冊の機器の「安全上の注意事項」(XA) を参照してください。
- ▶ 変換器ネック部分周囲の十分な範囲が覆われないようにしてください。覆われていない変換器の台座より放熱し、電子機器部が過熱/過冷却するのを防ぎます。
- ▶ 屋外で使用する場合：
特に高温地域では直射日光は避けてください。

 日除けカバーの注文については、Endress+Hauser →  164 にお問い合わせください。

保管温度	-50～+80 °C (-58～+176 °F)、推奨 +20 °C (+68 °F)
雰囲気	プラスチック製変換器ハウジングは、常に一定の蒸気と空気の混合物に曝されていると、ハウジングが損傷する恐れがあります。  不明な点がある場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。
保護等級	変換器 ■ IP66/67、Type 4X エンクロージャ、汚染度 4 に適合 ■ ハウジングが開いている場合：IP20、Type 1 エンクロージャ、汚染度 2 に適合 ■ 表示モジュール：IP20、Type 1 エンクロージャ、汚染度 2 に適合 センサ ■ IP66/67、Type 4X エンクロージャ、汚染度 4 に適合 ■ ハウジングが開いている場合：IP20、Type 1 エンクロージャ、汚染度 2 に適合 オプション 「センサオプション」のオーダーコード、オプション CC「IP68、Type 6P、お客様による充填」 外部の WLAN アンテナ IP67
耐振動性および耐衝撃性	正弦波振動、IEC 60068-2-6 に準拠 センサ ■ 2～8.4 Hz、3.5 mm ピーク ■ 8.4～2 000 Hz、1 g ピーク 変換器 ■ 2～8.4 Hz、7.5 mm ピーク ■ 8.4～2 000 Hz、2 g ピーク 広帯域不規則振動、IEC 60068-2-64 に準拠 センサ ■ 10～200 Hz、0.003 g²/Hz ■ 200～2 000 Hz、0.001 g²/Hz ■ 合計：1.54 g rms

変換器

- 10～200 Hz, 0.01 g²/Hz
- 200～2 000 Hz, 0.003 g²/Hz
- 合計：2.70 g rms

正弦半波衝撃、IEC 60068-2-27 に準拠

- センサ
6 ms 30 g
- 変換器
6 ms 50 g

乱暴な取扱いによる衝撃、IEC 60068-2-31 に準拠

内部洗浄

CIP（定置洗浄）および SIP（定置滅菌）に対応

支給部品に関する製造者オプション

- オイル/グリース不使用の接液部、適合宣言なし。「サービス」のオーダーコード、オプション HA。
- IEC/TR 60877-2.0 および BOC 50000810-4 に準拠するオイル/グリース不使用の接液部、適合宣言付き。「サービス」のオーダーコード、オプション HB。プラント事業者は、機器が事業者の酸素アプリケーションの要件を満たしていることを確認する必要があります。

電磁適合性（EMC）

IEC/EN 61326 および NAMUR 推奨 21（NE 21）に準拠



詳細については、適合宣言を参照してください。



このユニットは住宅環境での使用を目的としておらず、そのような環境において無線受信の適切な保護を保証することはできません。

15.9 プロセス

流体温度範囲

センサ
-40～+180 °C (-40～+356 °F)

シール

■ シールリング :

- EPDM -40～+140 °C (-40～+284 °F)
- FKM -40～+180 °C (-40～+356 °F)

■ スリーブ :

- PEEK -40～+140 °C (-40～+284 °F)
- PVDF -20～+110 °C (-4～+230 °F)
- 1.4404 -40～+180 °C (-40～+356 °F)

i スリーブ (1.4404) : スリーブにはシャフト上の定位置があります。繰返し校正の制限 (最小挿入深さに注意 → 19)

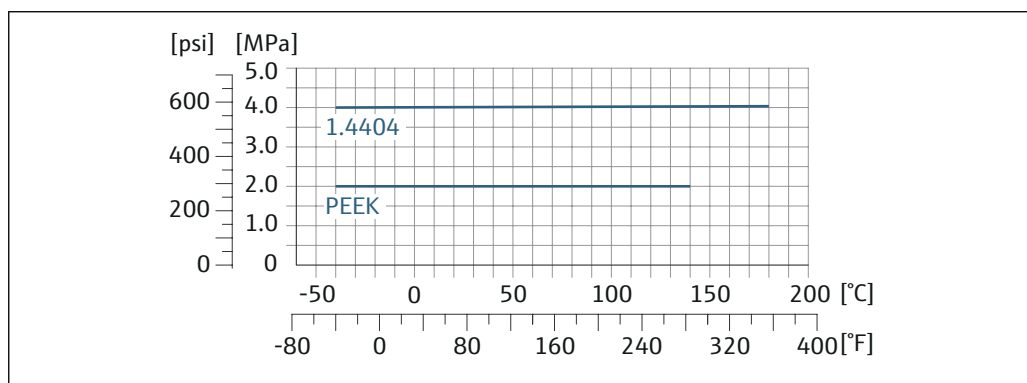
流体圧力範囲

最低 0.5 bar 絶対圧。許容最大流体圧力 → 185

圧力温度曲線

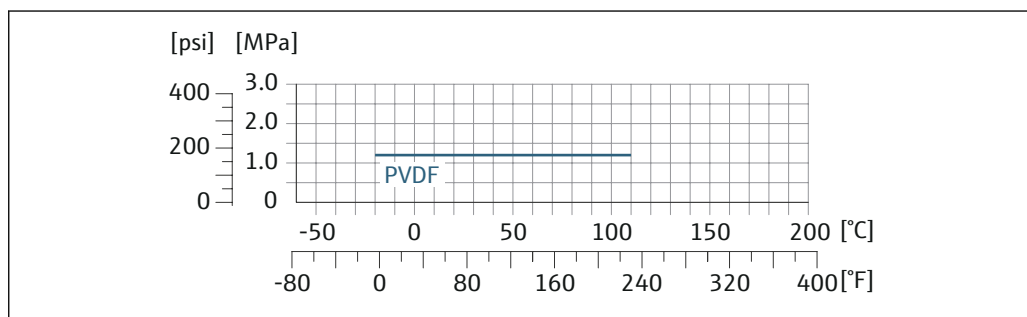
次の圧力温度曲線は、プロセス接続だけでなく圧力を受けるすべての機器部品に適用されます。以下のグラフは、特定の流体温度に応じた許容最大流体圧力を示しています。

スリーブ



A0041035-JA

図 40 コンプレッションフィッティング材質 1.4404/SUS F316L 相当/SUS F316 相当



A0041590-JA

図 41 コンプレッションフィッティング材質 1.4404/SUS F316L 相当/SUS F316 相当

流量制限

i 測定範囲 → 170

最大流量は、気体の種類と使用する配管の呼び径に応じて異なります。下記のマッハ数に達すると、測定範囲の最後に到達します。

マッハ数	オーダーコード
0.2	■ 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SB 「双方向；ステンレス；ステンレス」 ■ 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SC 「逆流検知；ステンレス；ステンレス」
0.4	■ 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション SA 「一方向；ステンレス；ステンレス」 ■ 「センサバージョン；センサ；挿入管」のオーダーコード、オプション HA 「一方向；アロイ；ステンレス」

 Applicator を使用して、機器のサイズを選定します。

圧力損失

 Applicator を使用して、正確に計算します。

使用圧力

→  24

ホットタップ、プロセス圧力

非毒性、無害の気体に対して、プロセス圧力下で取付け/取外しを行うためには、必ずホットタップを使用してください。

中圧バージョン

- 最大プロセス圧力：20 bar (290 psi)
- 最大拔出圧力：16 bar (230 psi)
- 最大拔出温度：+50 °C (+122 °F)
- 最小挿入センサ長：435mm (17")

低圧バージョン

- 最大プロセス圧力：20 bar (290 psi)
- 最大拔出圧力：4.5 bar (65 psi)
- 最大拔出温度：+50 °C (+122 °F)
- 最小挿入センサ長：335mm (13")

コールドタップ、周囲圧力

コールドタップは、周囲圧力下での取付け/取外しに対応します。

- 最大プロセス圧力：20 bar (290 psi)
- 最大拔出圧力：1 bar (14.5 psi)
- 最大拔出温度：+50 °C (+122 °F)
- 最小挿入センサ長：335mm (13")

取付ボス

機器をプロセス配管に直接取り付けます。

最大プロセス圧力：4 MPa (580 psi)

15.10 構造

外形寸法

 機器の外形寸法および取付寸法については、「技術仕様書」の「構造」セクションを参照してください。

質量

変換器

- Proline 500 – デジタル ポリカーボネート : 1.4 kg (3.1 lbs)
- Proline 500 – デジタル アルミニウム : 2.4 kg (5.3 lbs)

センサ

- 鋳造接続ハウジングバージョンのセンサ、ステンレス : +3.7 kg (+8.2 lbs)
- アルミニウム接続ハウジングバージョンのセンサ :

質量 (SI 単位)

設置長さ [mm]	質量 [kg]
235	2.2
335	2.3
435	2.4
608	2.5

質量 (US 単位)

設置長さ [in]	質量 [lbs]
9	4.9
13	5.1
17	5.3
24	5.5

材質**変換器ハウジング****Proline 500 のハウジング – デジタル変換器**

「変換器ハウジング」のオーダーコード :

- オプション **A** 「アルミニウム、コーティング」 : アルミダイカスト、AlSi10Mg、塗装
- オプション **D** 「ポリカーボネート」 : ポリカーボネート

ウィンドウ材質

「変換器ハウジング」のオーダーコード :

- オプション **A** 「アルミニウム、コーティング」 : ガラス
- オプション **D** 「ポリカーボネート」 : プラスチック

センサ接続ハウジング

「センサ接続ハウジング」のオーダーコード :

- オプション **A** 「アルミニウム、コーティング」 : アルミニウム、AlSi10Mg、コーティング
- オプション **L** 「鋳造、ステンレス」 : 1.4409 (CF3M)、SUS 316L 相当

電線口/ケーブルグランド

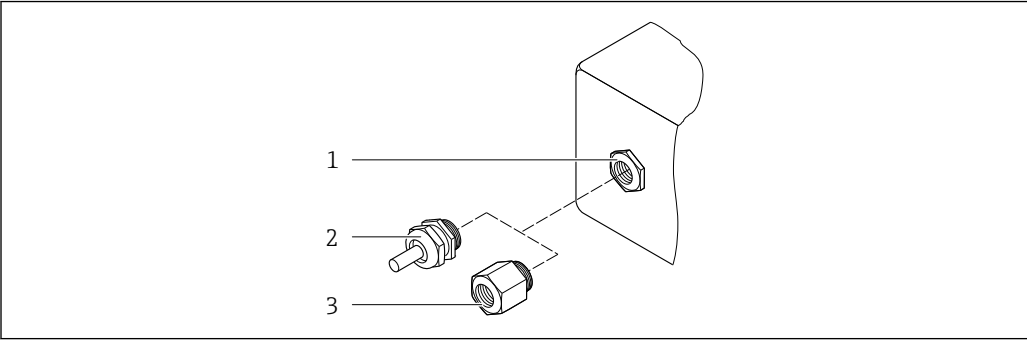


図 42 可能な電線管接続口/ケーブルグランド

- 1 雌ねじ M20 × 1.5
- 2 ケーブルグランド M20 × 1.5
- 3 電線管接続口用アダプタ (雌ねじ G ½" または NPT ½")

電線口およびアダプタ	材質
ケーブルグランド M20 × 1.5	プラスチック
- 電線口用アダプタ (めねじ G ½") - 電線口用アダプタ (めねじ NPT ½") 特定の機器バージョンでのみ使用できます。 「変換器ハウジング」のオーダーコード： - オプション A「アルミニウム、コーティング」 - オプション D「ポリカーボネート」 「センサ接続ハウジング」のオーダーコード： Proline 500 – デジタル： - オプション A「アルミニウム、コーティング」 - オプション B「ステンレス」	ニッケルめっき真鍮

挿入管の材質

ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)

プロセス接続、プロセスカップリング

ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)

センサ素子

一方向

- ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)
- アロイ C22、2.4602 (UNS N06022)

双方向

ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)

逆流検知

ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)

スリーブ

- PEEK
- PVDF
- 1.4404 (SUS 316/316L 相当)

フラットリングシール

- EPDM
- FKM

 腐食性のある測定物（例：塩素またはオゾン）の場合は、特殊な材質（センサ素子 はアロイ、スリーブは PVDF または 1.4404、フラットシールは FKM）を推奨しま す。ご要望がある場合は、最寄りの弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせ ください。

センサガード

ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)

アクセサリ

保護カバー

ステンレス 1.4404 (SUS 316L 相当)

外部の WLAN アンテナ

- アンテナ：ASA プラスチック（アクリロニトリルスチレンアクリレート）およびニッ ケルめっき真鍮
- アダプタ：ステンレスおよびニッケルめっき真鍮
- ケーブル：ポリエチレン
- プラグ：ニッケルめっき真鍮
- アングルブラケット：ステンレス

取付ボス (DK6MB)

ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)

コールドタップ/ホットタップ、低圧および中圧

溶接ソケット

ステンレス 1.4404 (SUS 316L 相当)

ボールバルブ

- ステンレス 鑄造 CF3M または CF8M
- シール：PTFE

センサ接続

ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)

コールドタップ (大気圧)

- ステンレス 1.4404 (SUS 316 または 316L 相当)
- ステンレス 鑄造 CF3M または CF8M
- シール：PTFE

プロセス接続

- G $\frac{3}{4}$ "、ISO 228/1、コンプレッションフィッティング
- G1"、ISO 228/1、コンプレッションフィッティング
- $\frac{3}{4}$ " NPT、コンプレッションフィッティング
- 1" NPT、コンプレッションフィッティング

 プロセス接続に使用される各種材質については、→  188 を参照してください。

15.11 表示およびユーザーインターフェース

言語

以下の言語で操作できます。

■ 現場操作を経由

英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、ポルトガル語、ポーランド語、ロシア語、トルコ語、中国語、日本語、韓国語、ベトナム語、チェコ語、スウェーデン語

■ ウェブブラウザを経由

英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、ポルトガル語、ポーランド語、ロシア語、トルコ語、中国語、日本語、ベトナム語、チェコ語、スウェーデン語

■ 「FieldCare」、「DeviceCare」操作ツールを経由：

英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語、日本語

現場操作

表示モジュール経由

機器：

■ 「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション F「4 行表示、バックライト、グラフィック表示；タッチコントロール」

■ 「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション G「4 行表示、バックライト、グラフィック表示；タッチコントロール + WLAN」

i

 WLAN インタフェースに関する情報 →

71

表示部

■ 4 行表示、バックライト、グラフィック表示

■ 白色バックライト；機器エラー発生時は赤に変化

■ 測定変数およびステータス変数の表示形式は個別に設定可能

操作部

■ ハウジングを開けずにタッチコントロール（3 つの光学式キー）による外部操作：

⬆

⬇

⬇

■ 危険場所の各種区域でも操作部にアクセス可能

リモート操作

→

70

サービスインターフェイス

→

70

サポートされる操作ツール

現場または遠隔で機器にアクセスするために、各種の操作ツールを使用できます。使用する操作ツールに応じて、さまざまな操作部を使用し、多様なインターフェイスを介してアクセスすることが可能です。

サポートされる操作ツール	操作ユニット	インタフェース	追加情報
FieldCare SFE500	Microsoft Windows システム搭載のノートパソコン、PC、またはタブレット端末	■ CDI-RJ45 サービスインタフェース ■ WLAN インタフェース ■ フィールドバスプロトコル	→ 図 167
Field Xpert	SMT70/77/50	■ すべてのフィールドバスプロトコル ■ WLAN インタフェース ■ Bluetooth ■ CDI-RJ45 サービスインタフェース	取扱説明書 BA01202S DD ファイル： ハンドヘルドターミナルの更新機能の使用
SmartBlue アプリ	iOS または Android 搭載のスマートフォンまたはタブレット端末	WLAN	→ 図 167

 DTM/iDTM または DD/EDD などのデバイスドライバを備えた、FDT 技術に基づく他の操作ツールを使用して機器を操作できます。これらの操作ツールは、各メーカーから入手可能です。特に、以下の操作ツールへの統合がサポートされます。

- Honeywell 製 Field Device Manager (FDM) → www.process.honeywell.com
- Yokogawa 製 FieldMate → www.yokogawa.com
- PACTWare → www.pactware.com

関連する DD ファイルは次から入手可能：www.endress.com → ダウンロードエリア

Web サーバー

Web サーバーが内蔵されているため、ウェブブラウザサービスインタフェース (CDI-RJ45) または WLAN インタフェースを介して機器の操作および設定を行うことが可能です。操作メニューの構造は現場表示器と同じです。測定値に加え、機器のステータス情報も表示されるため、機器の状態を監視するために使用できます。また、機器データの管理およびネットワークパラメータの設定が可能です。

WLAN 接続の場合は WLAN インタフェース (オプションとして注文可能) 付きの機器が必要：「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション G「4 行表示、バックライト；タッチコントロール+WLAN」。機器はアクセスポイントとして機能し、コンピュータまたは携帯型ハンドヘルドターミナルによる通信を可能にします。

サポートされる機能

操作ユニット (たとえば、ノートパソコンなど) と機器間のデータ交換：

- 機器から設定のアップロード (XML 形式、設定のバックアップ)
- 機器への設定の保存 (XML 形式、設定の復元)
- イベントリストのエクスポート (.csv ファイル)
- パラメータ設定のエクスポート (.csv ファイルまたは PDF ファイル、測定点設定の記録)
- Heartbeat Verification ログのエクスポート (PDF ファイル、**Heartbeat Verification** → 図 197 アプリケーションパッケージの場合のみ使用可能)
- たとえば、機器ファームウェアアップグレードのためのファームウェアバージョンの更新
- システム統合用のダウンロードドライバ
- 保存された測定値の表示 (最大 1000 個) (**拡張 HistoROM** アプリケーションパッケージの場合のみ使用可能 → 図 197)

 Web サーバーの個別説明書

HistoROM データ管理 機器には HistoROM データ管理機能があります。HistoROM データ管理には、重要な機器データおよびプロセスデータの保存とインポート/エクスポートの両方の機能があり、操作やサービス作業の信頼性、安全性、効率が大幅に向上します。

 機器の納入時には、設定データの工場設定は機器メモリにバックアップとして保存されています。このメモリは、たとえば、設定後に最新のデータ記録を使用して上書きできます。

データの保存コンセプトに関する追加情報

データ記憶装置にはさまざまなタイプがあり、これに機器が使用する機器データを保存できます。

	HistoROM バックアップ	T-DAT	S-DAT
使用可能なデータ	■ イベントログブック（例：診断イベント） ■ パラメータ記録データバックアップ ■ 機器ファームウェアパッケージ	■ 測定値記録（「拡張 HistoROM」注文オプション） ■ 現在のパラメータ記録データ（実行時にファームウェアが使用） ■ 表示（最小値/最大値） ■ 積算計の値	■ センサデータ（例：呼び口径） ■ シリアル番号 ■ 校正データ ■ 機器設定（例：SW オプション、固定 I/O またはマルチ I/O）
保存場所	端子箱のユーザーインタフェース PC ボードに固定	端子箱のユーザーインタフェース PC ボードに接続可能	変換器ネック部分のセンサプラグ内

データバックアップ

自動

- 最も重要な機器データ（センサおよび変換器）は自動的に DAT モジュールに保存されます。
- 変換器または機器を交換した場合：以前の機器データが保存された T-DAT を交換した場合、新しい機器はエラーなしで再び直ちに操作できる状態になります。
- センサを交換した場合：センサを交換した場合、新しいセンサデータが S-DAT から機器に伝送され、機器はエラーなしで再び直ちに操作できる状態になります。
- 電子モジュール（例：I/O 電子モジュール）を交換した場合：電子モジュールを交換すると、モジュールのソフトウェアと現在の機器ファームウェアが比較されます。必要に応じて、モジュールソフトウェアはアップデートまたはダウングレードされます。その後、電子モジュールは直ちに使用することが可能であり、互換性の問題は発生しません。

手動

- 以下のための、統合された機器メモリ HistoROM バックアップの追加のパラメータ記録データ（パラメータ設定一式）：
- データバックアップ機能
機器メモリ HistoROM バックアップの機器設定のバックアップおよびその後の復元
 - データ比較機能
現在の機器設定と機器メモリ HistoROM バックアップに保存された機器設定の比較

データ伝送

手動

特定の操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、または Web サーバー）のエクスポート機能を使用して機器設定を別の機器に伝送：設定の複製またはアーカイブに保存するため（例：バックアップ目的）

イベントリスト

自動

- イベントリストのイベントメッセージ（最大 20 件）の時系列表示
- **拡張 HistoROM** アプリケーションパッケージ（注文オプション）が有効な場合：最大 100 件のイベントメッセージがタイムスタンプ、プレーンテキスト説明、対処法とともにイベントリストに表示されます。
- イベントリストは各種のインターフェイスや操作ツール（例：DeviceCare、FieldCare、または Web サーバー）を介してエクスポートして表示することが可能です。

データのログ

手動

拡張 HistoROM アプリケーションパッケージ（注文オプション）が有効な場合：

- 1～4 チャンネルまで最大 1000 個の測定値を記録（各チャンネルの測定値は最大 250 個）
- ユーザー設定可能な記録間隔
- 各種のインターフェイスや操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、または Web サーバー）を介して測定値ログのエクスポート

15.12 合格証と認証

本製品に対する最新の認証と認定は、www.endress.com の関連する製品ページから入手できます。

- 1. フィルタおよび検索フィールドを使用して製品を選択します。
- 2. 製品ページを開きます。
- 3. 「ダウンロード」を選択します。

CE マーク
本機器は、適用される EU 指令の法的要件を満たしています。これらの要求事項は、適用される規格とともに EU 適合宣言に明記されています。
Endress+Hauser は本製品が試験に合格したことを、CE マークの貼付により保証いたします。

UKCA マーク
本機器は、適用される UK 規制（英国規則）の法的要件を満たします。これらの要求事項は、指定された規格とともに UKCA 適合宣言に明記されています。UKCA マークの注文オプションが選択されている場合、Endress+Hauser は機器に UKCA マークを貼付することにより、本機器が評価と試験に合格したことを保証します。
連絡先 Endress+Hauser 英国：
Endress+Hauser Ltd.
Floats Road
Manchester M23 9NF
英国
www.uk.endress.com

RCM マーク
本計測システムは、「Australian Communications and Media Authority (ACMA)」の EMC 要件を満たしています。

防爆認定
本機器は防爆認定機器であり、関連する安全注意事項は別冊の「安全注意事項（英文）」(XA) 資料に掲載されています。この資料の参照先は、型式銘板に明記されています。
 関連するすべての防爆データが掲載された別冊の防爆資料 (XA) については、最寄りの弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

Proline 500 – デジタル

ATEX/IECEX

現在、次のバージョンが防爆区域用に用意されています。

Ex db

変換器		センサ	
カテゴリ	防爆構造	カテゴリ	防爆構造
II(1)G	[Ex ia] IIC	II1/2G	Ex db ia IIC T4...T1 Ga/Gb
II(1)G	[Ex ia] IIC	II2G	Ex db ia IIC T4...T1 Gb
II3G	Ex ec nC [ia Ga] IIC T5...T1 Gc	II1/2G	Ex db ia IIC T4...T1 Ga/Gb
II3G	Ex ec nC [ia Ga] IIC T5...T1 Gc	II2G	Ex db ia IIC T4...T1 Gb

Ex tb

変換器		センサ	
カテゴリ	防爆構造	カテゴリ	防爆構造
II(1)D	[Ex ia] IIIC	II2D	Ex tb IIIC T** °C Db

Non-Ex / Ex ec

変換器		センサ	
カテゴリ	防爆構造	カテゴリ	防爆構造
Non - Ex	非防爆	II3G	Ex ec IIC T4...T1 Gc
II3G	Ex ec nC IIC T5...T1 Gc	II3G	Ex ec IIC T4...T1 Gc

cCSA_{US}

現在、次のバージョンが防爆区域用に用意されています。

IS (Ex nA, Ex i)

変換器	センサ
Class I Division 2 Groups A - D	Class I/II/III Division 1 Groups A～G

NI (Ex nA)

変換器	センサ
Class I Division 2 Groups A - D	Class I Division 2 Groups A - D

Ex db

変換器	センサ
Ex ec nC [ia Ga] IIC T5...T1 Gc	Ex db ia IIC T4...T1 Gb
Ex ec nC [ia Ga] IIC T5...T1 Gc	Ex db ia IIC T4...T1 Ga/Gb

Ex nA

変換器	センサ
Class I, Zone 2 AEx/ Ex nA IIC T5...T4 Gc	Class I, Zone 2 AEx/ Ex nA IIC T5...T1 Gc

Ex tb

変換器	センサ
Non - Ex	Zone 21, AEx/Ex ia tb IIIC T** °C Db

機能安全

本機器は、SIL 2（シングルチャンネル構造；「追加認証」のオーダーコード、オプション LA）および SIL 3（一様な冗長性のあるマルチチャンネル構造）レベルまでの流量監視システム（最小、最大、レンジ）に使用することが可能で、IEC 61508 に準拠して独自に評価および認証が行われています。

安全機器において以下の監視が可能です。

質量流量

 情報および制限事項が記載された機能安全マニュアル（SIL 機器用）→ 198

無線認証

本機器は無線認証を取得しています。

 無線認証の詳細については、個別説明書を参照してください。→ 198

その他の認定

CRN 認定

一部の機器バージョンは CRN 認定を取得しています。CRN 認定機器の場合は、CSA 認定を受けた CRN 認定プロセス接続部を注文する必要があります。

外部の基準およびガイドライン

- EN 60529
エンクロージャーによる保護等級 (IP コード)
- EN 61010-1
測定、制御、実験用電気機器の安全要件 - 一般要求事項
- IEC/EN 61326-2-3
クラス A 要件に準拠した放射。電磁適合性 (EMC 要件)
- NAMUR NE 21
工業用プロセスおよび試験機器の電磁適合性 (EMC)
- NAMUR NE 32
マイクロプロセッサ付きフィールド機器および制御機器の電源異常時のデータ保持
- NAMUR NE 43
アナログ出力信号を有するデジタル変換器の故障情報信号レベルの標準化
- NAMUR NE 53
デジタル電子部品を備えたフィールド機器と信号処理機器のソフトウェア
- NAMUR NE 105
フィールド機器用エンジニアリングツールにフィールドバス機器を統合するための仕様
- NAMUR NE 107
フィールド機器の自己監視および診断
- NAMUR NE 131
標準アプリケーション用フィールド機器の要件
- ETSI EN 300 328
2.4 GHz 帯の無線機器用ガイドライン
- EN 301489
電磁適合性および無線スペクトル事項 (ERM)

ANSI/ISA 12.27.01 に準拠した電気システムと (引火性または可燃性の) プロセス流体間のプロセスシールの分類

Endress+Hauser の機器は、ANSI/ISA 12.27.01 に準拠する設計となっています。これにより、ANSI/NFPA 70 (NEC) および CSA 22.1 (CEC) のプロセスシールセクションの要求に従って導管内に外部の二次的なプロセスシールを設置するコストが削減できます。本機器は北米設置方法に対応し、危険な液体を取り扱う加圧アプリケーションにおいて非常に安全かつ低コストの設置を可能にします。詳細については、対応する機器の制御図を参照してください。

15.13 アプリケーションパッケージ

機器の機能を拡張するために、各種のアプリケーションパッケージが用意されています。これらのパッケージは、安全面や特定のアプリケーション要件を満たすのに必要とされます。

アプリケーションパッケージは、Endress+Hauser 社に機器と一緒に注文するか、または後から追加注文できます。オーダーコードに関する詳細は、お近くの弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせいただくか、弊社ウェブサイトの製品ページをご覧ください：www.endress.com。

 アプリケーションパッケージの詳細情報：
個別説明書 →  198

診断機能

「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EA「拡張 HistoROM」イベントログおよび測定値メモリのアクティベーションに関する拡張機能が含まれます。

イベントログ：
メッセージ数 20（標準バージョン）から 100 にメモリ容量が増えます。

データロギング（ラインレコーダ）：
■ 最大 1000 個の測定値までのメモリ容量を有効化。
■ 4 つあるメモリチャンネルのそれぞれから、250 個の測定値を出力可能。記録間隔は、ユーザーが定義/設定できます。
■ 現場表示器または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、または Web サーバー）を介して測定値ログにアクセスできます。

 詳細については、機器の取扱説明書を参照してください。

Heartbeat Technology

「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EB「Heartbeat Verification + Monitoring」

Heartbeat Verification

DIN ISO 9001: 2008、7.6 a) 章「監視および測定機器の制御」に準拠する、トレーサビリティが確保された検証のための要件を満たします。

- プロセスを中断せずに設置された状態での機能試験
- 必要に応じて、トレーサビリティが確保された検証が可能（レポートを含む）
- 現場操作またはその他の操作インタフェースを介した簡単な試験プロセス
- 製造者仕様の枠内で試験範囲が広く、明確な測定点の評価（合格/不合格）
- 事業者のリスク評価に応じた校正間隔の延長

Heartbeat Monitoring

測定原理固有のデータを予防保全またはプロセス分析のために外部状態監視システムに連続的に供給します。このデータにより、事業者は以下のことが可能になります。

- 時間とともに測定性能に及ぼす影響について、データやその他の情報を用いて、結論を引き出す。
- 適切なサービスのスケジュールを立てる。
- プロセスまたは製品品質の監視（、例：プロセスの安定性）。

 個別説明書 SD02712D

第 2 気体グループ

パッケージ	説明
第 2 気体グループ	このアプリケーションパッケージにより、機器で 2 つの異なる標準ガス/混合ガスの設定が可能になり、ステータス入力を使用して、または（利用可能な場合は）バス通信を介して 1 つの気体グループから別の気体グループに切り替えることができます。

15.14 アクセサリ

 注文可能なアクセサリの概要 →  164

15.15 関連資料

-  関連する技術資料の概要については、以下を参照してください。
- デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) : 銘板のシリアル番号を入力します。
 - Endress+Hauser Operations アプリ : 銘板のシリアル番号を入力するか、銘板のマトリクスコードをスキャンしてください。

標準資料

簡易取扱説明書

センサの簡易取扱説明書

機器	資料コード
Proline t-mass I	KA01443D

変換器の簡易取扱説明書

機器	資料番号
Proline 500 – デジタル	KA01447D

技術仕様書

機器	資料コード
t-mass I 500	TI01503D

機能説明書

機器	資料コード
t-mass 500	GP01146D

機器に応じた補足資料

安全上の注意事項

危険場所で使用する電気機器に関する安全上の注意事項

内容	資料コード
ATEX/IECEX Ex d/Ex de	XA01970D
ATEX/IECEX Ex ec	XA01971D
cCSAus XP	XA01974D
cCSAus Ex d/ Ex de	XA01972D
cCSAus Ex nA	XA01973D

分離ディスプレイと操作モジュール DKX001

内容	資料番号
ATEX/IECEX Ex i	XA01494D
ATEX/IECEX Ex ec	XA01498D

内容	資料番号
cCSAus IS	XA01499D
cCSAus Ex nA	XA01513D
INMETRO Ex i	XA01500D
INMETRO Ex ec	XA01501D
NEPSI Ex i	XA01502D
NEPSI Ex nA	XA01503D

個別説明書

内容	資料番号
欧州圧力機器指令に関する情報	SD01614D
分離型ディスプレイと操作モジュール DKX001	SD01763D
表示モジュール A309/A310 の WLAN インターフェイスに関する無線認定	SD01793D
Web サーバー	SD02488D
Heartbeat Technology	SD02480D

設置要領書

内容	コメント
スベアパーツセットおよびアクセサリの設置要領書	■ デバイスビューワーを使用して、選択可能なすべてのスベアパーツセットの概要にアクセス → 162 ■ 注文可能な設置要領書付きのアクセサリ

索引

記号

応答時間	182
測定原理	169
耐振動性および耐衝撃性	183
防爆認定	194

C

CE マーク	10, 194
--------	---------

D

DD ファイル	74
DeviceCare	73
DD ファイル	74
DIP スイッチ	
書き込み保護スイッチを参照	

E

Endress+Hauser サービス	
修理	162

F

FieldCare	72
DD ファイル	74
機能	72
接続の確立	73
ユーザーインタフェース	73

H

HART プロトコル	
リビジョン	74
HistoROM	114, 123

M

Modbus RS485	
Modbus データマップ	77
エラー応答モードの設定	150
応答時間	76
書き込みアクセス権	75
機能コード	75
診断情報	150
スキャンリスト	78
データの読み出し	78
読み込みアクセス権	75
レジスタアドレス	76
レジスタ情報	76

P

Proline 500 - デジタルの接続ケーブルの端子の割当て	
センサ接続ハウジング	38
Proline 500 - デジタル変換器	
信号ケーブル/電源ケーブルの接続	41

R

RCM マーク	194
---------	-----

S

SIL (機能安全性)	195
-------------	-----

U

UKCA マーク	194
----------	-----

W

W@M	161, 162
W@M デバイスビューワー	14
WLAN 設定	112

ア

アクセスコード	62
不正な入力	62
アクセスコードの設定	127
アプリケーション	169
アラーム時の信号	176
安全	9

イ

イベントリスト	155
イベントログブック	155
イベントログブックのフィルタリング	156

ウ

ウィザード	
WLAN 設定	112
アクセスコード設定	116
パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え	97, 98, 101
リレー出力 1~n	103
ローフローカットオフ	107
測定モード	82
電流出力	94
電流入力	92
表示	104
受入検査	14

エ

影響	
周囲温度	182
流体圧力	182
エラー応答モードの設定、Modbus RS485	150
エラーメッセージ	
診断メッセージを参照	
エンドレスハウザー社サービス	
メンテナンス	161

オ

オーダーコード	15, 16
温度範囲	
ディスプレイの周囲温度範囲	190
保管温度	16

カ

外部洗浄	160
書き込みアクセス	62
書き込み保護	
アクセスコードによる	127
書き込み保護スイッチを使用	128

書き込み保護スイッチ	128
書き込み保護の無効化	126
書き込み保護の有効化	126
拡張オーダーコード	
センサ	16
変換器	15
確認	
接続	48

キ

キーパッドロックの有効化/無効化	63
機器	
構成	13
修理	162
設定	81
電気接続の準備	37
電源投入	80
取付けの準備	26
取外し	163
廃棄	163
変更	162
機器コンポーネント	13
機器修理	162
機器設定の管理	114, 123
機器タイプ ID	74
機器の運搬	17
機器の識別	14
機器の修理	162
機器の接続	
Proline 500 - デジタル	38
機器のバージョンデータ	74
機器の用途	
指定用途を参照	
不適切な用途	9
不明な場合	9
機器名	
センサ	16
変換器	15
機器リビジョン	74
機器ロック状態	130
技術データ、概要	169
基準およびガイドライン	196
機能	
パラメータを参照	
機能安全 (SIL)	195
機能コード	75

ケ

計測可能流量範囲	173
計測システム	169
言語、操作オプション	190
検査	
設置	30
納入品	14
現場表示器	190
アラーム状態を参照	
診断メッセージを参照	
数値エディタ	56
操作画面表示を参照	

テキストエディタ	56
ナビゲーション画面	54

コ

合格証	194
交換	
機器コンポーネント	162
工具	
運搬	17
電気配線用	32
取付け用	26
構成	
機器	13
操作メニュー	50
コールドタップ、周囲圧力	186
コンテキストメニュー	
終了	58
説明	58
呼び出し	58
梱包材の廃棄	17

サ

再校正	161
材質	187
サブメニュー	
I/O 設定	91
Web サーバ	69
アクセスコードのリセット	117
イベントリスト	155
概要	51
システムの値	132
システムの単位	88
システムの値	132
シミュレーション	124
ステータス入力 1~n	93, 133
データのログ	137
パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1~n	135
プロセスパラメータ	131
プロセス変数	131
リレー出力 1~n	135
管理	116, 117
基準条件	86
機器情報	158
現場調整	119
現場調整で使用する値	121
高度な設定	108
出力値	134
積算計	132
積算計 1~n	108
積算計の処理	136
設定のバックアップ	114, 123
測定値	130
通信	90
電流出力 1~n の値	134
電流入力 1~n	133
入力値	133
表示	110

シ

システム構成	
機器構成を参照	
システムデザイン	
計測システム	169
システム統合	74
質量	
SI 単位	187
US 単位	187
運搬 (注意事項)	17
指定用途	9
自動スキャンバッファ	
Modbus RS485 Modbus データマップを参照	
周囲温度	
影響	182
周囲条件	
耐振動性および耐衝撃性	183
保管温度	183
修理	162
注意事項	162
出力信号	174
出力変数	174
使用圧力	24
消費電流	179
消費電力	179
シリアル番号	15, 16
資料	
シンボル	6
信号ケーブル/電源ケーブルの接続	
Proline 500 - デジタル変換器	41
診断	
シンボル	145
診断時の動作	
シンボル	146
説明	146
診断時の動作の適応	150
診断情報	
DeviceCare	148
FieldCare	148
ウェブブラウザ	147
概要	151
現場表示器	145
構成、説明	146, 149
対処法	151
通信インターフェイス	150
発光ダイオード	143
診断情報の読み出し、Modbus RS485	150
診断メッセージ	145
診断リスト	155
シンボル	
ウィザード用	54
現場表示器のステータスエリア内	52
サブメニュー用	54
診断動作	52
ステータス信号用	52
操作部	56
測定チャンネル番号用	52
測定変数用	52
通信用	52

データ入力値の管理	57
入力画面	57
パラメータ用	54
メニュー用	54
ロック用	52

ス

スイッチ出力	176
数値エディタ	56
ステータスエリア	
操作画面表示用	52
ナビゲーション画面内	54
ステータス信号	145, 148
スペアパーツ	162

セ

製造者 ID	74
製造日	15, 16
製品の安全性	10
整流器	21
積算計	
設定	108
接続	
電気接続を参照	
接続ケーブル	32
接続ケーブルの接続	
Proline 500 - デジタルの端子の割当て	38
Proline 500 - デジタル変換器	40
センサ接続ハウジング、Proline 500 - デジタル	38
接続工具	32
接続の準備	37
設置状況の確認	80
設置状況の確認 (チェックリスト)	30
設置条件	
使用圧力	24
センサヒーティング	25
設定	80
I/O 設定	91
WLAN	112
管理	116
機器設定の管理	114, 123
機器の設定	81
機器のリセット	157
基準条件	86
現場調整	117
現場表示器	104
高度な設定	108
高度な表示の設定	110
システムの単位	88
シミュレーション	124
スイッチ出力	101
ステータス入力	93
積算計	108
積算計のリセット	136
積算計リセット	136
操作言語	80
測定モード	82
タグ番号	82
通信インターフェイス	90

電流出力	94
電流入力	92
パルス/周波数/スイッチ出力	97, 98
パルス出力	97
プロセス条件への機器の適合	136
リレー出力	103
ローフローカットオフ	107
センサの調整	87
センサヒーティング	25
洗浄	
外部洗浄	160
センサ素子の洗浄	160
センサ素子	160

ソ

操作	130
操作オプション	49
操作画面表示	52
操作キー	
操作部を参照	
操作言語の設定	80
操作指針	51
操作上の安全性	10
操作部	58, 146
操作メニュー	
構成	50
サブメニューおよびユーザーの役割	51
メニュー、サブメニュー	50
測定機器およびテスト機器	161
測定値の読み取り	130
測定変数	
プロセス変数を参照	
その他の認定	196
ソフトウェアリリース	74

タ

対処法	
終了	147
呼び出し	147
端子	179
端子の割当て	36

チ

チェックリスト	
設置状況の確認	30
配線状況の確認	48
直接アクセス	60
直接アクセスコード	54

ツ

ツールヒント	
ヘルプテキストを参照	

テ

データロギングの表示	137
適合宣言	10
テキストエディタ	56
適用分野	
残存リスク	10
デバイスビューワー	162

電位平衡	42
電気接続	
Web サーバー	70
WLAN インタフェース	71
ウェブブラウザ（例：Microsoft Edge）搭載のコンピュータ	70
機器	32
操作ツール	
Modbus RS485 プロトコル経由	70
WLAN インタフェース経由	71
サービスインタフェース（CDI-RJ45）経由	70
操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、AMS Device Manager、SIMATIC PDM）	70
保護等級	47
電氣的絶縁	178
電源故障時/停電時	179
電源電圧	179
電磁適合性	184
電子モジュール	13
電線管接続口	
技術データ	179
電線口	
保護等級	47

ト

登録商標	8
特別	
取付方法	26
特別な接続方法	43
トラブルシューティング	
一般	141
取付け	18
取付工具	26
取付けの準備	26

ナ

ナビゲーション画面	
ウィザードの場合	54
サブメニューの場合	54
ナビゲーションパス（ナビゲーション画面）	54

ニ

入力	170
認証	194

ハ

ハードウェア書き込み保護	128
廃棄	163
配線状況の確認	80
配線状況の確認（チェックリスト）	48
パラメータ	
値またはテキストの入力	61
変更	61
パラメータ設定	
I/O 設定	91
ステータス入力	93
電流出力	94
電流入力	92
パルス/周波数/スイッチ出力	97
リレー出力	103

パラメータ設定の保護	126
パラメータのアクセス権	
書き込みアクセス	62
読み取りアクセス	62
パラメータ設定	
I/O 設定 (サブメニュー)	91
Web サーバ (サブメニュー)	69
WLAN 設定 (ウィザード)	112
アクセスコードのリセット (サブメニュー) .	117
アクセスコード設定 (ウィザード)	116
システムの単位 (サブメニュー)	88
システムの値 (サブメニュー)	132
シミュレーション (サブメニュー)	124
ステータス入力 1~n (サブメニュー) ...	93, 133
データのログ (サブメニュー)	137
パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え (ウィザード)	97, 98, 101
パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1~n (サブメニュー)	135
プロセスパラメータ (サブメニュー)	131
リレー出力 1~n (ウィザード)	103
リレー出力 1~n (サブメニュー)	135
ローフローカットオフ (ウィザード)	107
管理 (サブメニュー)	117
基準条件 (サブメニュー)	86
機器情報 (サブメニュー)	158
現場調整 (サブメニュー)	119
現場調整で使用する値 (サブメニュー) ...	121
高度な設定 (サブメニュー)	108
診断 (メニュー)	154
積算計 (サブメニュー)	132
積算計 1~n (サブメニュー)	108
積算計の処理 (サブメニュー)	136
設定 (メニュー)	82
設定のバックアップ (サブメニュー) ...	114, 123
測定モード (ウィザード)	82
通信 (サブメニュー)	90
電流出力 (ウィザード)	94
電流出力 1~n の値 (サブメニュー)	134
電流入力 (ウィザード)	92
電流入力 1~n (サブメニュー)	133
表示 (ウィザード)	104
表示 (サブメニュー)	110

ヒ

表示	
現場表示器を参照	
表示エリア	
操作画面表示用	52
ナビゲーション画面内	54
表示値	
ロック状態用	130

フ

ファームウェア	
バージョン	74
リリース日付	74
ファームウェアの履歴	159

プロセス	
コールドタップ、周囲圧力	186
ホットタップ、プロセス圧力	186
プロセス接続	189

ヘ

ヘルプテキスト	
終了	61
説明	61
呼び出し	61
返却	162
編集画面	56
操作部の使用方法	56, 57
入力画面	57

ホ

保管温度	16
保管温度範囲	183
保管条件	16
保護等級	47, 183
保存コンセプト	192
ホットタップ、プロセス圧力	186
本説明書に関する情報	6
本文	
目的	6
本文の目的	6

ム

無線認証	195
------------	-----

メ

銘板	
センサ	16
変換器	15
メイン電子モジュール	13
メニュー	
機器の設定用	81
特定の設定用	108
診断	154
設定	82
メンテナンス	160
メンテナンス作業	160
再校正	161

ユ

ユーザーインターフェイス	
現在の診断イベント	154
前回の診断イベント	154
ユーザーの役割	51

ヨ

要員の要件	9
読み取りアクセス	62

ラ

ラインレコーダ	137
---------------	-----

リ

リモート操作	190
--------------	-----

流体圧力
 影響..... 182
流量制限..... 185

□
労働安全..... 10
ローフローカットオフ..... 178



71642321

www.addresses.endress.com
